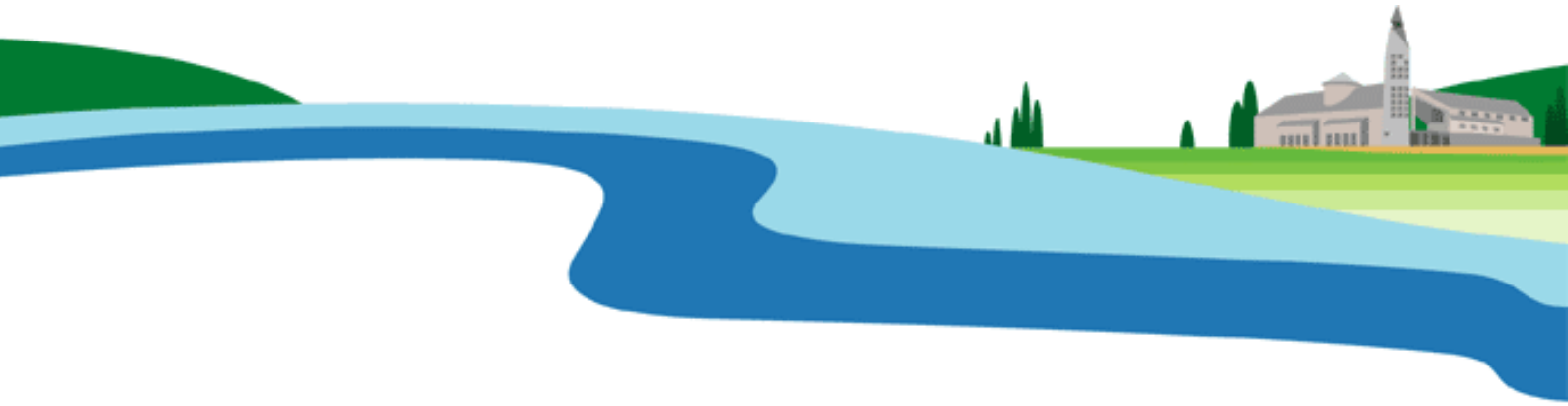
滋賀県立大学



# 滋賀県立大学
# 平成３０（２０１８）年度

# 講義概要（シラバス）

※この冊子は、Web 版シラバスを PDF に変換したものです。文字数の関係で全ての情報が記載されない場合があります。最新の情報や全文は、県大ポータル USPo（https://sgkwe.office.usp.ac.jp/SGKWeb/）で、ご確認ください。

# 目　　次


1110121 英語ＩＡ（活性化コース）（人文①）渡　寛法 前期 ・・・ 1
1110122 英語ＩＢ（活性化コース）（人文①）渡　寛法 後期 ・・・ 3
1110131 英語ＩＡ（活性化コース）（人文②）香山　恵美※ 前期 ・・・ 5
1110132 英語ＩＢ（活性化コース）（人文②）香山　恵美※ 後期 ・・・ 7
1110141 英語ＩＡ（活性化コース）（人文③）佐久間　思帆※ 前期 ・・・ 9
1110142 英語ＩＢ（活性化コース）（人文③）佐久間　思帆※ 後期 ・・・ 11
1110151 英語ＩＡ（活性化コース）（人文④）西澤　裕一※ 前期 ・・・ 13
1110152 英語ＩＢ（活性化コース）（人文④）西澤　裕一※ 後期 ・・・ 15
1110161 英語ＩＡ（活性化コース）（人文⑤）関　初海※ 前期 ・・・ 17
1110162 英語ＩＢ（活性化コース）（人文⑤）関　初海※ 後期 ・・・ 19
1110331 英語ⅡＡ（応用コース）（人文①）Carl John Boland※ 前期 ・・・ 21
1110332 英語ⅡＢ（応用コース）（人文①）Carl John Boland※ 後期 ・・・ 23
1110341 英語ⅡＡ（応用コース）（人文②）Armando Duarte 前期 ・・・ 25
1110342 英語ⅡＢ（応用コース）（人文②）Armando Duarte 後期 ・・・ 27
1110351 英語ⅡＡ（応用コース）（人文③）Ashley Stevens※ 前期 ・・・ 29
1110352 英語ⅡＢ（応用コース）（人文③）Ashley Stevens※ 後期 ・・・ 31
1110361 英語ⅡＡ（応用コース）（人文④）Gordon Maclaren※ 前期 ・・・ 33
1110362 英語ⅡＢ（応用コース）（人文④）Gordon Maclaren※ 後期 ・・・ 35
1110371 英語ⅡＡ（応用コース）（人文⑤）Karl Hedberg※ 前期 ・・・ 37
1110372 英語ⅡＢ（応用コース）（人文⑤）Karl Hedberg※ 後期 ・・・ 39
1110531 英語ⅢＡ（充実コース）（人文①）西澤　裕一※ 前期 ・・・ 41
1110532 英語ⅢＢ（充実コース）（人文①）西澤　裕一※ 後期 ・・・ 43
1110541 英語ⅢＡ（充実コース）（人文②）真田　満※ 前期 ・・・ 45
1110542 英語ⅢＢ（充実コース）（人文②）真田　満※ 後期 ・・・ 47
1110551 英語ⅢＡ（充実コース）（人文③）Armando Duarte 前期 ・・・ 49
1110552 英語ⅢＢ（充実コース）（人文③）坂本　輝世 後期 ・・・ 51
1110561 英語ⅢＡ（充実コース）（人文④）佐久間　思帆※ 前期 ・・・ 53
1110562 英語ⅢＢ（充実コース）（人文④）佐久間　思帆※ 後期 ・・・ 55
1110571 英語ⅢＡ（充実コース）（人文⑤）Carl John Boland※ 前期 ・・・ 57
1110572 英語ⅢＢ（充実コース）（人文⑤）Carl John Boland※ 後期 ・・・ 59
1110741 英語ⅣＡ（展開コース）（人文①）神田　眞喜子 前期 ・・・ 61
1110742 英語ⅣＢ（展開コース）（人文①）神田　眞喜子 後期 ・・・ 63
1110751 英語ⅣＡ（展開コース）（人文②）渡　寛法 前期 ・・・ 65
1110752 英語ⅣＢ（展開コース）（人文②）渡　寛法 後期 ・・・ 67
1110761 英語ⅣＡ（展開コース）（人文③）菰田　真由美 前期 ・・・ 69
1110762 英語ⅣＢ（展開コース）（人文③）菰田　真由美 後期 ・・・ 71
1110771 英語ⅣＡ（展開コース）（人文④）渡　寛法 前期 ・・・ 73
1110772 英語ⅣＢ（展開コース）（人文④）渡　寛法 後期 ・・・ 75
1110781 英語ⅣＡ（展開コース）（人文⑤）坂本　輝世 前期 ・・・ 77
1110782 英語ⅣＢ（展開コース）（人文⑤）坂本　輝世 後期 ・・・ 79
1130090 情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文a) 山本　洋紀※ 前期 ・・・ 81
1130100 情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文b) 亀田　彰喜※ 前期 ・・・ 83
1130110 情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文c) 山本　洋紀※ 前期 ・・・ 85
1130120 情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文d) 山本　洋紀※ 前期 ・・・ 87
1130200 情報科学概論（人文b）亀田　彰喜※ 後期 ・・・ 89
1130210 情報科学概論（人文a）山本　洋紀※ 後期 ・・・ 91
1130220 情報科学概論（人文c）山本　洋紀※ 後期 ・・・ 93
1130230 情報科学概論（人文d）亀田　彰喜※ 後期 ・・・ 95
1150360 人間探求学（生活デザイン）学科教員 前期 ・・・ 97
1150451 川の未来学 村上　修一 前期 ・・・ 99
1150460 比較住居論 藤木　庸介 前期 ・・・ 101
1150540 History of Japanese Cinema Carl John Boland※ 前期 ・・・ 103
1150550 Patterns in Japanese Culture & Society Carl John Boland※ 後期 ・・・ 105
1150560 Model United States of America Benjamin John McCracken※ 前期 ・・・ 107
1150570 Model United Nations Benjamin John McCracken※ 後期 ・・・ 109
1201270 建築法規 戸川　勝紀※ 後期集中 ・・・ 111
1400070 一般構造 佐々木　一泰 前期 ・・・ 113
1400080 インテリア計画論 宮本　雅子 前期 ・・・ 115
1400088 インテリアコーディネート概説 藤木　庸介 前期 ・・・ 117
1400340 環琵琶湖文化論実習（生活デザイン）学科教員 通年 ・・・ 119
1400430 基礎設計製図 南　政宏 後期 ・・・ 121
1400440 基礎服飾デザイン 横田　尚美 後期 ・・・ 123
1400570 近代デザイン史 面矢　慎介 前期 ・・・ 125
1400580 空間デザイン論 佐々木　一泰 後期 ・・・ 127
1400640 現代産業デザイン論 森岡　誠※ 前期 ・・・ 129
1400705 建築計画論 藤木　庸介 後期 ・・・ 131
1400730 考現学概論 面矢　慎介 前期 ・・・ 133
1400820 構造計画（生活デザイン）渡邉　須美樹※ 後期 ・・・ 135
1400830 構造力学Ｉ（生活デザイン）渡邉　須美樹※ 後期 ・・・ 137
1400910 サステナブルデザイン論 南　政宏 前期 ・・・ 139
1400930 色彩学 宮本　雅子 前期 ・・・ 141
1400940 色彩学演習 宮本　雅子 後期 ・・・ 143
1401130 社会調査方法論 大野　光明 後期 ・・・ 145
1401140 社会調査論 中井　治郎※ 前期 ・・・ 147
1401210 住環境設計演習Ｉ 佐々木　一泰 前期 ・・・ 149

1401220 住環境設計演習Ⅱ 宮本　雅子 後期 ・・・ 151
1401230 住環境設計演習Ⅲ 佐々木　一泰 前期 ・・・ 153
1401250 住環境論 宮本　雅子 後期 ・・・ 155
1401350 消費科学Ⅰ 松永　伸洋※ 後期 ・・・ 157
1401360 消費科学Ⅱ 松永　伸洋※ 前期前半 ・・・ 159
1401370 消費者行動論 山田　歩 前期 ・・・ 161
1401380 消費生活論 小牧　美江※ 後期 ・・・ 163
1401540 心理学基礎 後藤　崇志 前期 ・・・ 165
1401560 生活経営論 山田　歩 後期 ・・・ 167
1401580 生活造形基礎演習 南　政宏 前期 ・・・ 169
1401620 生活素材論 三宅　肇※ 前期 ・・・ 171
1401630 生活デザイン学外演習 学科教員 通年集中 ・・・ 173
1401635 木匠塾（生活デザイン） 佐々木　一泰 通年集中 ・・・ 175
1401640 生活デザイン論 学科教員 後期 ・・・ 177
1401690 生活デザイン論演習Ⅰ 学科教員 前期 ・・・ 179
1401701 生活デザイン論演習Ⅱ 学科教員 後期 ・・・ 181
1401800 卒業研究・製作／論文（生活デザイン）/ 学科教員 通年研究 ・・・ 183
1402205 テキスタイルデザイン論/ 内丸　もと子※ 後期 ・・・ 185
1402230 デジタルデザイン演習/ 印南　比呂志 通年 ・・・ 187
1402260 デッサン法 冨原　仁美※ 前期 ・・・ 189
1402290 道具計画論 印南　比呂志 前期 ・・・ 191
1402300 道具デザイン演習Ⅰ 南　政宏 前期 ・・・ 193
1402310 道具デザイン演習Ⅱ 印南　比呂志 後期 ・・・ 195
1402320 道具デザイン演習Ⅲ 面矢　慎介 前期 ・・・ 197
1402340 道具デザイン史 面矢　慎介 後期 ・・・ 199
1402350 道具デザイン論 印南　比呂志 後期 ・・・ 201
1402360 統計学基礎 細馬　宏通 前期 ・・・ 203
1402510 人間工学 中村　孝之※ 後期 ・・・ 205
1402520 人間工学実習 森下　あおい 前期 ・・・ 207
1402540 人間文化論Ａ 細馬　宏通 前期 ・・・ 209
1402550 人間文化論Ｂ 小熊　猛 後期 ・・・ 211
1402560 人間文化論Ｃ 宮本　雅子 後期 ・・・ 213
1402630 比較衣装論 横田　尚美 前期 ・・・ 215
1402680 比較道具論 面矢　慎介 後期 ・・・ 217
1402780 服飾文化論 横田　尚美 前期 ・・・ 219
1402800 服飾心理学 横田　尚美 後期 ・・・ 221
1402830 服飾造形論 森下　あおい 前期 ・・・ 223
1402860 服飾デザイン演習Ⅰ 森下　あおい 前期 ・・・ 225
1402870 服飾デザイン演習Ⅱ 横田　尚美 後期 ・・・ 227
1402880 服飾デザイン演習Ⅲ 森下　あおい 前期 ・・・ 229
1402900 服飾デザイン論 森下　あおい 後期 ・・・ 231
1402910 プレゼンテーション技法 印南　比呂志 後期 ・・・ 233
1402999 マーケティングリサーチ演習 山田　歩 前期 ・・・ 235
1403000 マーケティング論 山田　歩 後期 ・・・ 237
1600443 保育学 吉村　啓子※ 前期集中 ・・・ 239
1600471 生活工学 堀江　健二郎※ 前期 ・・・ 241

| 講義名 | 英語ＩＡ（活性化コース）（人文①） | | | | | | | 担当教員 | 渡　寛法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110121 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101ENG101 | | | | | | | | |

## 授業概要

本授業では、TOEICの問題を教材に、英語能力、とくにリスニング能力の向上を目指します。聴く力を伸ばすためには、まず自分自身で発音できることが重要です。そこで授業では、リスニング問題を解くだけでなく、音読やシャドーイングなど英語を声に出して練習し、ペアやグループワークを通して英語に慣れる活動も行います。TOEICでのスコアアップには、英語の知識だけでなく、120分に耐える集中力や、英語を聞いて即座に反応する瞬発力も求められます。本授業ではこうした実践力を伸ばすことも念頭において、リスニング能力向上に向けたトレーニングを行います。

## 到達目標

（１）TOEICリスニング問題の特徴を理解し、時間内に解答することができる。
（２）TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。
（３）TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 60 | 到達目標（１）に関しては、到達度確認テスト、および期末試験で評価します（60%）。 |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 40 | 到達目標（２）に関しては、授業中の音読活動やペア、グループワークによって評価し（20%）、到達目標（３）に関しては、各回の小テストで評価します（20%）。 |

出欠状況は毎回確認します。授業を４回欠席した場合、成績評価はされませんので注意してください。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。

## 授業外学習

毎回授業の冒頭に、確認小テストがありますので、復習をかねて家で勉強してきてください。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 『STRIKE UP THE TOEICR TEST LISTENING』 | 塚田幸光 | 金星堂 | 978-4-7647-4005-1 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

初回授業には時間を測れるストップウォッチ（スマートフォンでも計測機能があればOK）を持ってきてください。

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 英語ＩＡ（活性化コース）（人文①） | | | | | | | 担当教員 | 渡　寛法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110121 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101ENG101 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | オリエンテーション | 自己紹介、授業の進め方についての説明、ワークシートの記入。 |
| 第2回 | Unit １ | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第3回 | Unit 2 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第4回 | Unit 3 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第5回 | Unit 4 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第6回 | Unit 5 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第7回 | Unit 6 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第8回 | Review 1 | ここまでの到達度確認テストを行う。 |
| 第9回 | Unit 7 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第10回 | Unit 8 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第11回 | Unit 9 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第12回 | Unit 10 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第13回 | Unit 11 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第14回 | Unit 12 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第15回 | Review 2 | 到達度確認テスト、および、振り返りシートの作成。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| 英語学習の基本は音読です。まずはTOEICレベルの英文をスラスラ声に出して読めるようにトレーニングしていきましょう！ |

| 講義名 | 英語ＩＢ（活性化コース）（人文①） | | | | | | | 担当教員 | 渡　寛法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110122 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101ENG102 | | | | | | | | |

## 授業概要

本授業では、TOEICの問題を教材に、英語能力、とくにリスニング能力の向上を目指します。聴く力を伸ばすためには、まず自分自身で発音できることが重要です。そこで授業では、リスニング問題を解くだけでなく、音読やシャドーイングなど英語を声に出して練習し、ペアやグループワークを通して英語に慣れる活動も行います。TOEICでのスコアアップには、英語の知識だけでなく、120分に耐える集中力や、英語を聞いて即座に反応する瞬発力も求められます。本授業ではこうした実践力を伸ばすことも念頭において、リスニング能力向上に向けたトレーニングを行います。

## 到達目標

（１）TOEICリスニング問題の特徴を理解し、時間内に解答することができる。
（２）TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。
（３）TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 60 | 到達目標（１）に関しては、到達度確認テスト、および期末試験で評価します（60%）。 |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 40 | 到達目標（２）に関しては、授業中の音読活動やペア、グループワークによって評価し（20%）、到達目標（３）に関しては、各回の小テストで評価します（20%）。 |

出欠状況は毎回確認します。授業を４回欠席した場合、成績評価はされませんので注意してください。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。

## 授業外学習

毎回授業の冒頭に、確認小テストがありますので、復習をかねて家で勉強してきてください。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 『STRIKE UP THE TOEICR TEST LISTENING』 | 塚田幸光 | 金星堂 | 978-4-7647-4005-1 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 英語ＩＢ（活性化コース）（人文①） | | | | | | | 担当教員 | 渡　寛法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110122 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101ENG102 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | オリエンテーション | 前期の振り返り、後期の目標確認。 |
| 第2回 | Unit 13 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第3回 | Unit 14 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第4回 | Unit 15 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第5回 | Unit 16 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第6回 | Unit 17 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第7回 | Unit 18 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第8回 | Review 1 | ここまでの到達度確認テストを行う。 |
| 第9回 | Unit 19 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第10回 | Unit 20 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第11回 | Unit 21 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第12回 | Unit 22 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第13回 | Unit 23 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第14回 | Unit 24 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第15回 | Review 2 | 到達度確認テスト、および、振り返りシートの作成。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| 音読のスラスラ度をさらに磨いていきましょう！ |

| 講義名 | 英語ＩＡ（活性化コース）（人文②） | | | | | | | 担当教員 | 香山　恵美※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110131 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101ENG101 | | | | | | | | |

## 授業概要

本授業では、英語コミュニケーション能力の向上と、TOEICの問題演習によってスコアアップを目指します。コミュニケーションはさまざまなトピックについてペア、またはグループで会話をし、自分の意見を述べることや相手の話を聞いて質問をする練習をします。TOEICでは、 テスト形式の練習問題でテストの概要に慣れ、問題を解くスピードを向上させます。また、スキミングやスキャンニングなどで英文を読むスピードと要点をつかむ練習や、動画や音楽をつかったリスニング練習などを行います。

## 到達目標

日常生活 、社会の出来事、自分自身について英語でスムーズに話すことができる。
TOEICの問題を解くことに慣れ、出題の傾向を理解して問題を解くことができる。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | | |

30%　授業内での取り組み
30%　授業内の課題
40%　到達度確認テスト（2回）

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | Effective Approaches to the TOEIC Test | 田中清美 | 南雲堂 | 9784523176220 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 英語ＩＡ（活性化コース）（人文②） | | | | | | | 担当教員 | 香山　恵美※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110131 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101ENG101 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | ガイダンス、自己紹介 | 授業の進め方説明、自己紹介 |
| 第2回 | Unit 1 | TOEIC問題演習<br>コミュニケーションアクティビティ |
| 第3回 | Unit 2 | TOEIC問題演習<br>コミュニケーションアクティビティ |
| 第4回 | Unit 3 | TOEIC問題演習<br>コミュニケーションアクティビティ |
| 第5回 | Unit 4 | TOEIC問題演習<br>コミュニケーションアクティビティ |
| 第6回 | Unit 5 | TOEIC問題演習<br>コミュニケーションアクティビティ |
| 第7回 | 到達度確認テスト | これまでの授業内容について確認テストを行う |
| 第8回 | Unit 6 | TOEIC問題演習<br>コミュニケーションアクティビティ |
| 第9回 | Unit 7 | TOEIC問題演習<br>コミュニケーションアクティビティ |
| 第10回 | Unit 8 | TOEIC問題演習<br>コミュニケーションアクティビティ |
| 第11回 | Unit 9 | TOEIC問題演習<br>コミュニケーションアクティビティ |
| 第12回 | Unit 10 | TOEIC問題演習<br>コミュニケーションアクティビティ |
| 第13回 | 復習 | これまでの授業で学んだ文法や表現などを復習する |
| 第14回 | 復習 | これまでの授業で学んだ文法や表現などを復習する |
| 第15回 | 到達度確認テスト | これまでの授業内容について確認テストを行う |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 英語ＩＢ（活性化コース）（人文②） | | | | | | | 担当教員 | 香山　恵美※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110132 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101ENG102 | | | | | | | | |

## 授業概要

本授業では、英語コミュニケーション能力の向上と、TOEICの問題演習によってスコアアップを目指します。コミュニケーションはさまざまなトピックについてペア、またはグループで会話をし、自分の意見を述べることや相手の話を聞いて質問をする練習をします。TOEICでは、 テスト形式の練習問題でテストの概要に慣れ、問題を解くスピードを向上させます。また、スキミングやスキャンニングなどで英文を読むスピードと要点をつかむ練習や、動画や音楽をつかったリスニング練習などを行います。

## 到達目標

日常生活 、社会の出来事、自分自身について英語でスムーズに話すことができる。
TOEICの問題を解くことに慣れ、出題の傾向を理解して問題を解くことができる。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | | |

30%　授業内での取り組み
30%　授業内の課題
40%　到達度確認テスト（2回）

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | Effective Approaches to the TOEIC Test | 田中清美 | 南雲堂 | 9784523176220 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 英語ＩＢ（活性化コース）（人文②） | | | | | | | 担当教員 | 香山　恵美※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110132 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101ENG102 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | Unit 11 | TOEIC問題演習<br>コミュニケーションアクティビティ |
| 第2回 | Unit 12 | TOEIC問題演習<br>コミュニケーションアクティビティ |
| 第3回 | Unit 13 | TOEIC問題演習<br>コミュニケーションアクティビティ |
| 第4回 | Unit 14 | TOEIC問題演習<br>コミュニケーションアクティビティ |
| 第5回 | Unit 15 | TOEIC問題演習<br>コミュニケーションアクティビティ |
| 第6回 | Unit 16 | TOEIC問題演習<br>コミュニケーションアクティビティ |
| 第7回 | 到達度確認テスト | これまでの授業内容について確認テストを行う |
| 第8回 | Unit 17 | TOEIC問題演習<br>コミュニケーションアクティビティ |
| 第9回 | Unit 18 | TOEIC問題演習<br>コミュニケーションアクティビティ |
| 第10回 | Unit 19 | TOEIC問題演習<br>コミュニケーションアクティビティ |
| 第11回 | Unit 20 | TOEIC問題演習<br>コミュニケーションアクティビティ |
| 第12回 | 問題演習 | TOEIC問題演習<br>コミュニケーションアクティビティ |
| 第13回 | 復習 | これまでの授業で学んだ文法や表現などを復習する |
| 第14回 | 復習 | これまでの授業で学んだ文法や表現などを復習する |
| 第15回 | 到達度確認テスト | これまでの授業内容について確認テストを行う |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 英語ＩＡ（活性化コース）（人文③） | | | | | | | 担当教員 | 佐久間　思帆※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110141 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101ENG101 | | | | | | | | |

## 授業概要

TOEIC形式の教科書を使い、書いてある、もしくは音声での英語を素早く理解し、そしてアウトプットできるようなることを目標として、演習形式で特訓します。
英語を読み・聞きくだけでは実力はつきません。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになっての演習や音読が大事となります。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。
毎回の授業の初めに復習テスト（筆記式）と授業の最後にグループ単位での課題提出があります。

## 到達目標

（１）語彙力の向上
（２）リスニング力の向上
（３）読解力の向上
（４）英語での思考力の向上
（５）英語での発信力の向上

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 50 | （１）語彙力10%<br>（２）リスニング力10%<br>（３）読解力10% |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 50 | （１）語彙力10%<br>（２）リスニング力10%<br>（３）読解力10% |

6回の欠席で評価対象から除外されます（出席回数はお知らせしません）。なお学校が認めた公欠以外は一切認めません。

## 授業外学習

授業で扱った英文を、日本語から英語に、英語から日本ｄ語にクイックレスポンスできるまで復習しておくこと。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | FIRST TIME TRAINER FOR THE TOEIC TEST Revised Edition | 妻鳥千鶴子、田平真澄 | センゲージラーニング | 978-4-86312-293-2 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

必ず購入のこと。

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

どのような物でも構わないので辞書を持参のこと。

## 前提学力等

※２回生以上の特例処置での再履修を希望する学生は、本シラバスを確認した上で必ず１回目の授業に出席すること。出席しなかった学生の再履修は認めない。

## 履修資格

| 講義名 | 英語ＩＡ（活性化コース）（人文③） | | | | | | | 担当教員 | 佐久間　思帆※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110141 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101ENG101 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | 英語の基礎事項の確認 | 基礎事項の確認 |
| 第2回 | Part1の演習 | Unit1～6のPart1 |
| 第3回 | Unit1 | Part2，3，6を演習 |
| 第4回 | Unit1 | Part4，5，7を演習 |
| 第5回 | Unit2 | Part2，3，6を演習 |
| 第6回 | Unit2 | Part4，5，7を演習 |
| 第7回 | Unit3 | Part2，3，6を演習 |
| 第8回 | Unit3 | Part4，5，7を演習 |
| 第9回 | Unit4 | Part2，3，6を演習 |
| 第10回 | Unit4 | Part4，5，7を演習 |
| 第11回 | Unit5 | Part2，3，6を演習 |
| 第12回 | Unit5 | Part4，5，7を演習 |
| 第13回 | Unit6 | Part2，3，6を演習 |
| 第14回 | Unit6 | Part4，5，7を演習 |
| 第15回 | Unit1～6の復習 | Unit1～6の復習 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| ※授業の進行を妨げ、他の学生が学習する機会を損なう行為（私語、Twitter、Line等の使用、ペアワークへの不参加等）をする者の受講は認めません。 |

| 講義名 | 英語ＩＢ（活性化コース）（人文③） | | | | | | | 担当教員 | 佐久間　思帆※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110142 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101ENG102 | | | | | | | | |

## 授業概要

TOEIC形式の教科書を使い、書いてある、もしくは音声での英語を素早く理解し、そしてアウトプットできるようなることを目標として、演習形式で特訓します。
英語を読み・聞きくだけでは実力はつきません。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになっての演習や音読が大事となります。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。
毎回の授業の初めに復習テスト（筆記式）と授業の最後にグループ単位での課題提出があります。

## 到達目標

（１）語彙力の向上
（２）リスニング力の向上
（３）読解力の向上
（４）英語での思考力の向上
（５）英語での発信力の向上

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 50 | （１）語彙力10%<br>（２）リスニング力10%<br>（３）読解力10% |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 50 | （１）語彙力10%<br>（２）リスニング力10%<br>（３）読解力10% |

6回の欠席で評価対象から除外されます（出席回数はお知らせしません）。なお学校が認めた公欠以外は一切認めません。

## 授業外学習

授業で扱った英文を、日本語から英語に、英語から日本ｄ語にクイックレスポンスできるまで復習しておくこと。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | FIRST TIME TRAINER FOR THE TOEIC TEST Revised Edition | 妻鳥千鶴子、田平真澄 | センゲージラーニング | 978-4-86312-293-2 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

必ず購入のこと。

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

どのような物でも構わないので辞書を持参のこと。

## 前提学力等

※２回生以上の特例処置での再履修を希望する学生は、本シラバスを確認した上で必ず１回目の授業に出席すること。出席しなかった学生の再履修は認めない。

## 履修資格

| 講義名 | 英語ＩＢ（活性化コース）（人文③） | | | | | | | 担当教員 | 佐久間　思帆※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110142 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101ENG102 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | Part1の演習 | Unit7～12のPart1 |
| 第2回 | Unit7 | Part2，3，6を演習 |
| 第3回 | Unit7 | Part4，5，7を演習 |
| 第4回 | Unit8 | Part2，3，6を演習 |
| 第5回 | Unit8 | Part4，5，7を演習 |
| 第6回 | Unit9 | Part2，3，6を演習 |
| 第7回 | Unit9 | Part4，5，7を演習 |
| 第8回 | Unit10 | Part2，3，6を演習 |
| 第9回 | Pre-test演習 | 12月2日のTOEIC受験の予行練習 |
| 第10回 | Unit10 | Part4，5，7を演習 |
| 第11回 | Unit11 | Part2，3，6を演習 |
| 第12回 | Unit11 | Part4，5，7を演習 |
| 第13回 | Unit12 | Part2，3，6を演習 |
| 第14回 | Unit12 | Part4，5，7を演習 |
| 第15回 | Unit7～12の復習 | Unit7～12の復習 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| ※授業の進行を妨げ、他の学生が学習する機会を損なう行為（私語、Twitter、Line等の使用、ペアワークへの不参加等）をする者の受講は認めません。 |

| 講義名 | 英語ＩＡ（活性化コース）（人文④） | | | | | | | 担当教員 | 西澤　裕一※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110151 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101ENG101 | | | | | | | | |

## 授業概要

この授業では、TOEICの受験を念頭に置いて、主に語彙力の向上、読解力、あるいはリスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。　語彙の確認、映画によるリスニングの演習、内容を理解した英文を使った発信力の演習、さらに投げ込み教材を使用した読解の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。

## 到達目標

1.TOEICで高得点を取るのに必要な英語の語彙力を身につけること。
2. 映画を利用してTOEICで高得点が狙えるような英語のリスニング力を身につけること。
3. 映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。
4. 映画の表現に親しむことで各学生が英語による自己表現力を高めること。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 50% | 100点満点中50点以下は評価をしません。 |
| レポート課題 | 40% | リスニングに関するレポート課題20%<br>語彙に関する小テスト20% |
| 上記以外 | 10% | 授業に参加する積極的な態度（授業内での読解演習などに積極的に参加しているかなど） |

半期で4回以上の欠席は評価をしません。
遅刻2回で欠席1回と考える場合があります。
予習をしっかりしていない者、提出物を提出しない者は評価の対象としない。

## 授業外学習

この授業における授業外の学習は、主に教科書の指定された範囲の語彙の学習、ならびに各自が決めた素材を使ったディクテーションとそれに関するレポートが中心になります。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 英語シナリオで楽しむ美女と野獣 | | Gakken | 9784053046420 |
| 2 | キクタンTOEIC TEST SCORE 500 | 一杉武史 | アルク | 9784757428584 |
| 3 | こまったカタカナ英語　つうじる英語に大変身！ | キャサリン・クラフト | 中公文庫 | 9784122058736 |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

特になし

## 履修資格

| 講義名 | 英語ＩＡ（活性化コース）（人文④） | | | | | | | 担当教員 | 西澤　裕一※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110151 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101ENG101 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | ガイダンス/映画（1） | 授業の進め方の説明と映画の視聴など |
| 第2回 | 映画（2） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第3回 | 映画（3） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第4回 | 映画（4） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第5回 | 映画（5） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第6回 | 映画（6） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第7回 | 映画（7） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第8回 | 映画（8） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第9回 | 映画（9） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第10回 | 映画（10） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第11回 | 映画（11） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第12回 | 映画（12） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第13回 | 映画（13） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第14回 | 映画（14） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第15回 | 映画（15） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第16回 | 映画（16） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第17回 | 映画（17） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第18回 | 映画（18） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第19回 | 映画（19） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第20回 | 映画（20） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第21回 | 映画（21） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第22回 | 映画（22） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第23回 | 映画（23） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第24回 | 映画（24） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第25回 | 映画（25） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第26回 | 映画（26） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第27回 | 映画（27） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第28回 | 映画（28） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第29回 | 映画（29） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第30回 | 映画（30）/まとめ | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |

| 担当者から一言 |
|---|
| 12月の学内TOEICに向けて学習していきますが、夏休みの間に学習した内容を忘れてしまわないように定期的に学習する習慣を身につけてください。とにかく授業中に集中して課題に取り組んでしっかりとした英語力を身につけてください。 |

| 講義名 | 英語ＩＢ（活性化コース）（人文④） | | | | | | | 担当教員 | 西澤　裕一※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110152 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101ENG102 | | | | | | | | |

## 授業概要

この授業では、TOEICの受験を念頭に置いて、主に語彙力の向上、読解力、あるいはリスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。　語彙の確認、映画によるリスニングの演習、内容を理解した英文を使った発信力の演習、さらに投げ込み教材を使用した読解の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。

## 到達目標

1.TOEICで高得点を取るのに必要な英語の語彙力を身につけること。
2. 映画を利用してTOEICで高得点が狙えるような英語のリスニング力を身につけること。
3. 映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。
4. 映画の表現に親しむことで各学生が英語による自己表現力を高めること。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 50% | 100点満点中50点以下は評価をしません。 |
| レポート課題 | 40% | リスニングに関するレポート課題20%<br>語彙に関する小テスト20% |
| 上記以外 | 10% | 授業に参加する積極的な態度（授業内での読解演習などに積極的に参加しているかなど） |

半期で4回以上の欠席は評価をしません。
遅刻2回で欠席1回と考える場合があります。
予習をしっかりしていない者、提出物を提出しない者は評価の対象としない。

## 授業外学習

この授業における授業外の学習は、主に教科書の指定された範囲の語彙の学習、ならびに各自が決めた素材を使ったディクテーションとそれに関するレポートが中心になります。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 英語シナリオで楽しむ美女と野獣 | | Gakken | 9784053046420 |
| 2 | キクタンTOEIC TEST SCORE 500 | 一杉武史 | アルク | 9784757428584 |
| 3 | こまったカタカナ英語　つうじる英語に大変身！ | キャサリン・クラフト | 中公文庫 | 9784122058736 |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

特になし

## 履修資格

| 講義名 | 英語ＩＢ（活性化コース）（人文④） | | | | | | | 担当教員 | 西澤　裕一※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110152 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101ENG102 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | ガイダンス/映画（1） | 授業の進め方の説明と映画の視聴など |
| 第2回 | 映画（2） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第3回 | 映画（3） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第4回 | 映画（4） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第5回 | 映画（5） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第6回 | 映画（6） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第7回 | 映画（7） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第8回 | 映画（8） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第9回 | 映画（9） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第10回 | 映画（10） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第11回 | 映画（11） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第12回 | 映画（12） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第13回 | 映画（13） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第14回 | 映画（14） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第15回 | 映画（15） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第16回 | 映画（16） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第17回 | 映画（17） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第18回 | 映画（18） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第19回 | 映画（19） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第20回 | 映画（20） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第21回 | 映画（21） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第22回 | 映画（22） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第23回 | 映画（23） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第24回 | 映画（24） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第25回 | 映画（25） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第26回 | 映画（26） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第27回 | 映画（27） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第28回 | 映画（28） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第29回 | 映画（29） | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |
| 第30回 | 映画（30）/まとめ | 語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 |

| 担当者から一言 |
|---|
| 12月の学内TOEICに向けて学習していきますが、夏休みの間に学習した内容を忘れてしまわないように定期的に学習する習慣を身につけてください。とにかく授業中に集中して課題に取り組んでしっかりとした英語力を身につけてください。 |

| 講義名 | 英語ＩＡ（活性化コース）（人文⑤） | | | | | | | 担当教員 | 関　初海※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110161 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101ENG101 | | | | | | | | |

## 授業概要

この授業では、国際紛争、国際協力、戦争、平和といったトピックを扱い、グローバル社会に生きる大学生に必要な社会問題に関する基礎知識を英語で学びます。そして、学んだ知識を英語で発信できるようにします。さらに、TOEIC受験を視野に入れ、プリント教材を用いて、TOEICの問題形式に慣れてもらい、スコアアップを目指します。

## 到達目標

(1) 英語の語彙力を身につける
(2) リスニング能力の向上
(3) リーディング能力の向上
(4) ライティング能力の向上
(5) スピーキング能力の向上

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 70 | 到達目標(2),(3),(4)について定期試験で評価する。 |
| レポート課題 | 0 | |
| 上記以外 | 30 | 到達目標(1)について２回の到達確認テストで評価(10%)<br>到達目標(5)について、授業内でのプレゼンテーションで評価（20%） |

授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | Global Issues Towards Peace | Keiso Tatsukawa他 | 南雲堂 | 9784523177418 |
| 2 | TOEICテストワードマスターアプローチ（単語熟語集） | 松井こずえ他 | 成美堂 | 9784791900725 |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 英語ＩＡ（活性化コース）（人文⑤） | | | | | | | 担当教員 | 関　初海※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110161 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101ENG101 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | オリエンテーションとUnit 1 | 授業の進め方についての説明<br>Unit 1　教育とジェンダー |
| 第2回 | Unit 1(2) | Unit 1　教育とジェンダー<br>（DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習） |
| 第3回 | Unit 2(1) | Unit 2　地球温暖化<br>（DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習） |
| 第4回 | Unit 2(2) | Unit 2　地球温暖化<br>（DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習） |
| 第5回 | Unit 3(1) | Unit 3 飲料水の確保<br>（DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習） |
| 第6回 | Unit 3(2) | Unit 3 飲料水の確保<br>（DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習） |
| 第7回 | Unit 4(1) | Unit 4 貧困と飢餓<br>（DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習） |
| 第8回 | 到達確認テスト①とフィードバック　Unit 4(2) | 到達確認テスト①実施と解説<br>Unit 4 貧困と飢餓 |
| 第9回 | Unit 5(1) | Unit 5 病との闘い<br>（DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習） |
| 第10回 | Unit 5(2) | Unit 5 病との闘い<br>（DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習） |
| 第11回 | Unit 6(1) | Unit 6　テロリズム<br>（DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習） |
| 第12回 | Unit 6(2) | Unit 6　テロリズム<br>（DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習） |
| 第13回 | Unit 7(1) | Unit 7 日本人強制収容所<br>（DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習） |
| 第14回 | Unit 7(2) | Unit 7 日本人強制収容所<br>（DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習） |
| 第15回 | 到達確認テスト②とフィードバック | 到達確認テスト②実施と解説<br>前期の総復習 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 英語ＩＢ（活性化コース）（人文⑤） | | | | | | | 担当教員 | 関　初海※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110162 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101ENG102 | | | | | | | | |

## 授業概要

この授業では、国際紛争、国際協力、戦争、平和といったトピックを扱い、グローバル社会に生きる大学生に必要な社会問題に関する基礎知識を英語で学びます。そして、学んだ知識を英語で発信できるようにします。さらに、TOEIC受験を視野に入れ、プリント教材を用いて、TOEICの問題形式に慣れてもらい、スコアアップを目指します。

## 到達目標

(1) 英語の語彙力を身につける
(2) リスニング能力の向上
(3) リーディング能力の向上
(4) ライティング能力の向上
(5) スピーキング能力の向上

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 70 | 到達目標(2),(3),(4)について定期試験で評価する。 |
| レポート課題 | 0 | |
| 上記以外 | 30 | 到達目標(1)について２回の到達確認テストで評価(10%)<br>到達目標(5)について、授業内でのプレゼンテーションで評価（20%) |

授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | Global Issues Towards Peace | Keiso Tatsukawa他 | 南雲堂 | 9784523177418 |
| 2 | TOEICテストワードマスターアプローチ(単語熟語集) | 松井こずえ他 | 成美堂 | 9784791900725 |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 英語ＩＢ（活性化コース）（人文⑤） | | | | | | | 担当教員 | 関　初海※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110162 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101ENG102 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | Unit 8(1) | Unit 8 核兵器<br>（DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習） |
| 第2回 | Unit 8(2) | Unit 8 核兵器<br>（DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習） |
| 第3回 | Unit 9(1) | Unit 9 カンボジア大量虐殺<br>（DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習） |
| 第4回 | Unit 9(2) | Unit 9 カンボジア大量虐殺<br>（DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習） |
| 第5回 | Unit 10(1) | Unit 10 地雷撤去<br>（DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習） |
| 第6回 | Unit 10(2) | Unit 10 地雷撤去<br>（DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習） |
| 第7回 | Unit 11(1) | Unit 11 難民<br>（DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習） |
| 第8回 | 到達確認テスト①とフィードバック　Unit 11(2) | 到達確認テスト①実施と解説<br>Unit 11 難民 |
| 第9回 | Unit 12(1) | Unit 12　ネルソン・マンデラ<br>（DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習） |
| 第10回 | Unit 12(2) | Unit 12　ネルソン・マンデラ<br>（DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習） |
| 第11回 | Unit 13(1) | Unit 13 アウン・サン・スー・チー<br>（DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習） |
| 第12回 | Unit 13(2) | Unit 13 アウン・サン・スー・チー<br>（DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習） |
| 第13回 | Unit 14(1) | Unit 14 国際赤十字の活動<br>（DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習） |
| 第14回 | Unit 14(2) | Unit 14 国際赤十字の活動<br>（DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習） |
| 第15回 | 到達確認テスト②とフィードバック | 到達確認テスト②実施と解説<br>後期の総復習 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 英語ⅡＡ（応用コース）（人文①） | | | | | | | 担当教員 | Carl John Boland※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110331 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101ENG103 | | | | | | | | |

## 授業概要

The course aims to progressively develop fluency skills and build on the learners' existing grammatical foundations. All four language skills will be covered with a primary emphasis on listening and speaking. This course emphasises the development of practical English skills through stimulating, ‘ socially interactive ’ classroom activities. Students will also be encouraged to express their ideas and opinions across a range of topics. Students will also be introduced to a number of learning techniques to empower their own learning experiences.

## 到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 25 | Mid-term writing test |
| レポート課題 | 25 | Mid-term speaking test/quiz |
| 上記以外 | 50 | Final Test |

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

Required Textbook: Living English I - by Karl Hedberg and Peter Mauser (Keystone Press).

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 英語ⅡＡ（応用コース）（人文①） | | | | | | | 担当教員 | Carl John Boland※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110331 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101ENG103 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | Course Introduction/Getting to Know You 1 | LE 1 Unit1, Part 1, Conversation phrases and strategies for talking about yourself and other people. |
| 第2回 | Getting to Know You 2 | LE 1 Unit1, Part 2, Conversation phrases and strategies for talking about yourself and other people. |
| 第3回 | Family & Friends 1 | LE 1 Unit 2 Part 1, Conversation phrases and strategies for talking about your family and friends. |
| 第4回 | Family & Friends 2 | LE 1 Unit 2 Part 2, Conversation phrases and strategies for talking about your family and friends. |
| 第5回 | Around Town 1 | LE 1 Unit 3 Part 1, Conversation phrases and strategies for talking about your hometown and places. |
| 第6回 | Around Town 2 | LE 1 Unit 3 Part 2, Conversation phrases and strategies for talking about your hometown and places. |
| 第7回 | School and Free Time 1 | LE 1 Unit 4 Part 1, Conversation phrases & strategies for talking about college life, study and free time activities. |
| 第8回 | School and Free Time 2 | LE 1 Unit 4 Part 2, Conversation phrases & strategies for talking about college life, study and free time activities. |
| 第9回 | Mid Term Test 1 | Students will take a writing test.<br>Students will take a speaking test/quiz with the teacher. |
| 第10回 | Mid Term Test 2 | Students will take a writing test.<br>Students will take a speaking test/quiz with the teacher. |
| 第11回 | What's going on? Pt.1 | LE 1 Unit 5 Part 1. Conversation phrases & strategies for talking about recent/current activities. |
| 第12回 | What's going on? Pt.2 | LE 1 Unit 5 Part 2. Conversation phrases & strategies for talking about recent/current activities. |
| 第13回 | Numbers & Money 1 | LE 2 Unit 6 Part 1. Conversations about money and personal spending. How to say large numbers. |
| 第14回 | Numbers & Money 2 | LE 2 Unit 6 Part 2. Conversations about money and personal spending. How to say large numbers. |
| 第15回 | Course Review/Test Preparation | Students will complete unit review and final test preparation exercises. |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| Students should be prepared to do some self-study in order to follow the course. In class, students will work in pairs and small groups and will be expected to participate actively at all times. |

| 講義名 | 英語ⅡＢ（応用コース）（人文①） | | | | | | | 担当教員 | Carl John Boland※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110332 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101ENG104 | | | | | | | | |

## 授業概要

The course aims to progressively develop fluency skills and build on the learners' existing grammatical foundations. All four language skills will be covered with a primary emphasis on listening and speaking. This course emphasises the development of practical English skills through stimulating, ‘ socially interactive ’ classroom activities. Students will also be encouraged to express their ideas and opinions across a range of topics. Students will also be introduced to a number of learning techniques to empower their own learning experiences.

## 到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 25 | Mid-term essay project |
| レポート課題 | 25 | Mid-term essay reading/speaking test |
| 上記以外 | 50 | Final test |

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

Required Textbook: Living English II - by Karl Hedberg and Peter Mauser (Keystone Press).

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 英語ⅡＢ（応用コース）（人文①） | | | | | | | 担当教員 | Carl John Boland※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110332 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101ENG104 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | Course Introduction/Memory and The Past 1 | LE 2 Unit 7 Part 1, Conversation phrases and strategies for talking about past activities and events. |
| 第2回 | Memory and The Past 2 | LE 2 Unit 7 Part 2, Conversation phrases and strategies for talking about past activities and events. |
| 第3回 | The Real You 1 | LE 2 Unit 8 Part 1, Conversation phrases and strategies for talking about past activities and events. |
| 第4回 | The Real You 2 | LE 2 Unit 8 Part 2, Conversation phrases and strategies for talking about past activities and events. |
| 第5回 | Preferences 1 | LE 2 Unit 9 Part 1, Conversation phrases & strategies for talking about favorites and preferences. |
| 第6回 | Preferences 2 | LE 2 Unit 9 Part 2, Conversation phrases & strategies for talking about favorites and preferences. |
| 第7回 | Food 1 | LE 2 Unit 10 Part 1, Conversation phrases & strategies for talking about food and eating out. |
| 第8回 | Food 2 | LE 2 Unit 10 Part 2, Conversation phrases & strategies for talking about food and eating out. |
| 第9回 | Mid Term Test 1 | Students read aloud their essay project to the teacher. Students will also work on unit review exercises. |
| 第10回 | Mid Term Test 2 | Students read aloud their essay project to the teacher. Students will also work on unit review exercises. |
| 第11回 | Sharing Experiences 1 | LE 2 Unit 11 Part 1, Conversation phrases & strategies for talking about experiences. |
| 第12回 | Sharing Experiences 2 | LE 2 Unit 11 Part 2, Conversation phrases & strategies for talking about experiences. |
| 第13回 | Future Plans 1 | LE 2 Unit 12 Part 1, Conversation phrases & strategies for talking about future plans. |
| 第14回 | Future Plans 2 | LE 2 Unit 12 Part 2, Conversation phrases & strategies for talking about future plans. |
| 第15回 | Course Review/Exam Preparation | Students will complete unit review and exam preparation exercises. |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| Students should be prepared to do some self-study in order to follow the course. In class, students will work in pairs and small groups and will be expected to participate actively at all times. |

| 講義名 | 英語ⅡＡ（応用コース）（人文②） | | | | | | | 担当教員 | Armando Duarte |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110341 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101ENG103 | | | | | | | | |

## 授業概要

Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable and educational communicative activities such as group discussions and writing activities.

Mid-term Presentation: Students write a one-page essay or story. The teacher meets with each student individually and gives advice about grammar and how to write interesting sentences. Students next read their essay or story aloud and the teacher corrects any pronunciation problems. Finally, students read their essays aloud to the class and the teacher gives grades for writing and speaking.

Homework: There will be speaking and writing homework in this class.

Final Presentation: Students read aloud 1 of their 8 essays to the class.

## 到達目標

Students will be able to speak English with good pronunciation, fluency, and good delivery (clear voice and good volume, address all class topics adequately, produce the required quantity of speech, apply class material such as vocabulary and sentence patterns). Their English will also be grammatically correct.

Students will be able to write grammatically correct, complex sentences and paragraphs that are spelled and punctuated correctly.

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 25 | Final Oral Presentation - Students will give a final presentation in class. Students will also submit a written speech. |
| レポート課題 | 50 | Mid-term Speaking test: Each Speaking Objective - 25% each<br>Mid-term Writing test: Writing Objectives 1 & 3 - 25% each, Writing Objective 3 - 50% |
| 上記以外 | 25 | Homework - There will be writing and speaking homework in this class. |

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated. 学生はクラスを３回以上欠席なると毎回欠席は採点から３点減らす。Students who miss more than 3 classes will lose 3 points for each class missed over 3 classes.

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | Writing Paragraphs: From Sentence to Paragraph | Dorothy Zemach, Carlos Islam | Macmillan | 978-02-30415-93-5 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

Students are encouraged to bring a Japanese-English/English-Japanese dictionary (any is OK).

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 英語ＩＩＡ（応用コース）（人文②） | | | | | | | 担当教員 | Armando Duarte |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110341 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101ENG103 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | Week 1 | Course introduction, syllabus quiz, getting to know other students.<br>Begin writing one-page story/essay. Topics will be discussed in class. |
| 第2回 | Week 2 | Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class.<br>Use the weekly writing skill in textbook and other activities. |
| 第3回 | Week 3 | Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class.<br>Use the weekly writing skill in textbook and other activities. |
| 第4回 | Week 4 | Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class.<br>Use the weekly writing skill in textbook and other activities. |
| 第5回 | Week 5 | Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class.<br>Use the weekly writing skill in textbook and other activities. |
| 第6回 | Week 6 | Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class.<br>Use the weekly writing skill in textbook and other activities. |
| 第7回 | Week 7 | Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class.<br>Use the weekly writing skill in textbook and other activities. |
| 第8回 | Week 8 | Students read aloud their writing to the class.<br>Teacher gives a grade for speaking and another grade for writing. |
| 第9回 | Week 9 | Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class.<br>Use the weekly writing skill in textbook and other activities. |
| 第10回 | Week 10 | Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class.<br>Use the weekly writing skill in textbook and other activities. |
| 第11回 | Week 11 | Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class.<br>Use the weekly writing skill in textbook and other activities. |
| 第12回 | Week 12 | Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class.<br>Use the weekly writing skill in textbook and other activities. |
| 第13回 | Week 13 | Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class.<br>Use the weekly writing skill in textbook and other activities. |
| 第14回 | Week 14 | Final presentations. |
| 第15回 | Week 15 | Final presentations. |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| It's OK to make mistakes as long as you try your best. A word on plagiarism (盗作): do your own original work on all assignments. Do not copy from the internet. Do not copy from other students. Students caught engaging in plagiarism will be subject to discipline |

| 講義名 | 英語ⅡＢ（応用コース）（人文②） | | | | | | | 担当教員 | Armando Duarte |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110342 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101ENG104 | | | | | | | | |

## 授業概要

Students will complete weekly speaking homework assignments using their smartphones and Google Drive. Students will receive weekly comments and feedback on their speaking abilities. Writing skills from the previous semester will be used again, and new writing skills will be introducted.

## 到達目標

Students will be able to speak English with good pronunciation, fluency, and good delivery (clear voice and good volume, address all class topics adequately, produce the required quantity of speech, apply class material such as vocabulary and sentence patterns). Their English will also be grammatically correct.

Students will be able to write grammatically correct, complex sentences and paragraphs that are spelled and punctuated correctly.

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 50 | Midterm Presentation: 50% (each speaking objective 25% each; writing objectives 1 & 3 25% each, writing objective 3 50%), in class time week 8. Students will write and present about their summer vacation. |
| レポート課題 | 25 | Homework: There will be writing and speaking homework on various topics. |
| 上記以外 | 25 | Final Presentation: Students will give a presentation about their success from this year academic year and their goals for the next year. |

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated. 学生はクラスを３回以上欠席なると毎回欠席は採点から３点減らす。Students who miss more than 3 classes will lose 3 points for each class missed over 3 classes.

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | Writing Paragraphs: From Sentence to Paragraph | Dorothy Zemach, Carlos Islam | Macmillan | 978-02-30415-93-5 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

Students are encouraged to bring a Japanese-English/English-Japanese dictionary (any is OK).

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 英語ＩＩＢ（応用コース）（人文②） | | | | | | | 担当教員 | Armando Duarte |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110342 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101ENG104 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | Week 1 | Homework: Begin writing midterm paper. |
| 第2回 | Week 2 | Pronunciation practice, using "would". |
| 第3回 | Week 3 | Interviewing someone. |
| 第4回 | Week 4 | Midterm practice presentations. |
| 第5回 | Week 5 | Respond to video media. |
| 第6回 | Week 6 | Using "after, before, when". |
| 第7回 | Week 7 | Writing groups/peer feedback. |
| 第8回 | Week 8 | Midterm presentations. |
| 第9回 | Week 9 | Cause and effect. |
| 第10回 | Week 10 | Using "whereas, however". |
| 第11回 | Week 11 | Respond to video media. |
| 第12回 | Week 12 | Writing groups/peer feedback.<br>Homework: None. |
| 第13回 | Week 13 | Final presentation preparation.<br>Homework: Work on final presentation. |
| 第14回 | Week 14 | Final presentation preparation and practice presentations.<br>Homework: Continue working on final. |
| 第15回 | Week 15 | Final presentations. |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| It's OK to make mistakes as long as you try your best. A word on plagiarism (盗作): do your own original work on all assignments. Do not copy from the internet. Do not copy from other students. Students caught engaging in plagiarism will be subject to discipline |

| 講義名 | 英語ⅡＡ（応用コース）（人文③） | | | | | | | 担当教員 | Ashley Stevens※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110351 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101ENG103 | | | | | | | | |

**授業概要**

Outline: Students write a one-page essay or story. The teacher meets each student individually and gives advice about grammar and how to write interesting sentences. Students next read aloud their essay or story and the teacher corrects any pronunciation problems. Finally, students read aloud their essays to the teacher and the teacher gives them grades for writing and speaking. Students will also have a final interview test. This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations.

**到達目標**

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

**成績評価**

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 100 | 25% Mid-term Speaking test.<br>25% Mid-term Writing test. |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | | |

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated.
Students who miss more than 3 classes will lose 3 points for each class missed over 3 classes.

**授業外学習**

Preparation for Quizzes (6 hours).Topic-related writing (6 hours).Pronunciation practice (3 hours).

**教科書**

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | English for the World | Stevens | 3C English | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

**参考書**

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

**前提学力等**

**履修資格**

| 講義名 | 英語ⅡＡ（応用コース）（人文③） | | | | | | | 担当教員 | Ashley Stevens※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110351 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101ENG103 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | Course Introduction | Explanation of schedule, grading, rubric. For homework: Students start to write a one-page story or essay. |
| 第2回 | Hotels, Airports and Taxis | Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad. Teacher checks students have begun their writing. |
| 第3回 | Hotels, Airports and Taxis | Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad. Teacher checks students have begun their writing. |
| 第4回 | How to get around | Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad. Teacher continues advising and correcting Students' writing. |
| 第5回 | How to get around | Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad. Teacher continues advising and correcting Students' writing. |
| 第6回 | Restaurants and Eating | Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad. Teacher corrects pronunciation of students' writing. |
| 第7回 | Restaurants and Eating | Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad. Teacher continues to correct pronunciation. |
| 第8回 | Shopping | Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad. Teacher continues to correct pronunciation. |
| 第9回 | Mid-Term Test | Mid-Term Test: Students read aloud their stories/essays to Teacher. Teacher gives a grade for speaking, and another grade for writing. |
| 第10回 | At the Doctors | Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad. |
| 第11回 | At the Doctors | Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad. |
| 第12回 | Going to the Movies | Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad. |
| 第13回 | Going to the Movies | Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad. |
| 第14回 | Test Guidelines and Practice | Guidelines and practice for final interview test. |
| 第15回 | Interview Test | One to one interviews with student and teacher covering the modules taught. |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 英語ⅡＢ（応用コース）（人文③） | | | | | | | 担当教員 | Ashley Stevens※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110352 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101ENG104 | | | | | | | | |

**授業概要**

Outline: Students write a one-page essay or story. The teacher meets each student individually and gives advice about grammar and how to write interesting sentences. Students next read aloud their essay or story and the teacher corrects any pronunciation problems. Finally, students read aloud their essays to the teacher and the teacher gives them grades for writing and speaking. Students will also have a final interview test and a final writing test. This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations.

**到達目標**

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

**成績評価**

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 100 | 25% Mid-term Speaking test.<br>25% Mid-term Writing test. |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | | |

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated.
Students who miss more than 3 classes will lose 3 points for each class missed over 3 classes.

**授業外学習**

Preparation for Quizzes (6 hours).Topic-related writing (6 hours).Pronunciation practice (3 hours).

**教科書**

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | Living English I | Hedberg & Mauser | Keystone English Press | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

**参考書**

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

**前提学力等**

**履修資格**

| 講義名 | 英語ＩＩＢ（応用コース）（人文③） | | | | | | | 担当教員 | Ashley Stevens※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110352 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101ENG104 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | Course Introduction and Useful English | Explanation of schedule, grading, rubric. For homework: Students start to write a one-page self-introduction. |
| 第2回 | Unit 1: Getting to know you | Communicative activities to learn about the other students in the class. Teacher checks that students have begun to write their self-introductions. |
| 第3回 | Pronunciation: learning to speak English | Teacher looks at Students’ self-introduction writing, gives advice on how to write better and more complex sentences. |
| 第4回 | Unit 2: Family and friends | Learning key vocabulary and how to talk about family and friends. Teacher continues advising and correcting Students’ self-introduction writing. |
| 第5回 | Unit 2: Family and friends | Learning key vocabulary and how to talk about family and friends. Teacher continues advising and correcting Students’ self-introduction writing. |
| 第6回 | Unit 3: Around town | Giving and receiving directions. Learning key vocabulary about places and directions. Students read aloud their self-introduction writing to Teacher. |
| 第7回 | Unit 3: Around town | Giving and receiving directions. Learning key vocabulary about places and directions. Teacher continues to correct pronunciation. |
| 第8回 | Unit 4: School and free time | Focusing on activities and how students spend their time. Teacher continues to correct pronunciation. |
| 第9回 | Mid-Term Test | Mid-Term Test: Students read aloud their writing to Teacher. Teacher gives a grade for speaking, and another grade for writing. |
| 第10回 | Unit 5: What's going on | Focus on present continous tense and communicative tasks about activities in daily life. |
| 第11回 | Unit 5: What's going on | Focus on present continous tense and communicative tasks about activities in daily life. |
| 第12回 | Unit 6: Numbers and money | Focus on both large and small numbers, how to pronounce them and diffictulties faced by Japanese learners with some English numbers. |
| 第13回 | Test Guidelines and Practice | Guidelines and practice for final interview test and writen exam. |
| 第14回 | Interview Tests | One to one interviews with student and teacher covering the modules taught. |
| 第15回 | Interview Test | One to one interviews with student and teacher covering the modules taught. |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 英語ⅡＡ（応用コース）（人文④） | | | | | | | 担当教員 | Gordon Maclaren※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110361 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101ENG103 | | | | | | | | |

## 授業概要

This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and speech presentations. Our text is a play made up of 20 short parts, most of which one-third of student pairs will intensively study at home (= major homework every 3nd week). In normal class weeks, from April to June, we'll practice one scene's pronunciation, intonation, movements and gestures as a class, then in pairs. After studying, the next week some pairs will perform the memorized scene as a test. Each student pair will do this four times.In July, those same student pairs will rewrite 5 pages worth of scene dialog, changing over half of it. Once the intructor corrects it, they will then perform 'their own' scene as a final test.

PAIR-ACT DRAMA SCENE (1/3 OF STUDENT PAIRS GRADED WEEKLY; FOLLOWING WEEK'S PRONUNCIATION PRACTICE)

## 到達目標

(1) Students will be able to speak English with good pronunciation.
(2) Students will be able to speak English with fluency.
(3) Students will be able to speak English with good delivery.
(4) Students will be able to speak grammatically correct English.

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 100% | 25% mid-term speaking test<br>25% mid-term writing test<br>50% weekly activity |

## 授業外学習

Study 4 scenes for pair performance from memory (8 hours total)Pairs rewrite 75-90% of a ‘ new ’ scene based on Scenes VII & VIII (4 hours) Study this combined scene for end-of-term performance from memory (3 hours)

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | Pop Stars[New Version] | | Drama Works, 2009 | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 英語ⅡＡ（応用コース）（人文④） | | | | | | | 担当教員 | Gordon Maclaren※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110361 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101ENG103 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | INTRODUCTION | Class ＆Pair reading of Luggage Mix-Up; Accusation and Apology |
| 第2回 | Patching Things Up | Offering Help and Getting to Know a Stranger [II]<br>第2回-13回 PAIR-ACT DRAMA SCENE |
| 第3回 | Realization Of & Panic Over a Mistake | Calming Someone Down [III] |
| 第4回 | Calling For Assistance | Giving Information over the Phone [IV] |
| 第5回 | Upholding Household Rules | Receiving and Confirming Good News [V] |
| 第6回 | Getting Over Jet Lag | Talking About Sleepiness and One’s Job [VI] |
| 第7回 | A ‘Thank You’ Coffee | Expressing Gratitude and Setting Up a Date [VII+VIII] |
| 第8回 | Sharing and Eliciting Wonderful News | Warning Over High Expectations [IX] |
| 第9回 | Relating a Tough Situation | Asking About Job Qualifications [X] |
| 第10回 | Returning to the Beginning | The Luggage Mix-Up Conflict [I] |
| 第11回 | First Date | Banter, Sharing Likes, Dislikes and Goals in Common [XI] |
| 第12回 | Under the Table | Sharing Suspicions and Teasing About Anxieties [XII] |
| 第13回 | Stand-In | Subbing For Someone ill at Work [XIII]；NEW SCENE BRAINSTORMING |
| 第14回 | COMPLETE FINAL VERSION & ACT OUT (in pairs) | THE 75-90% ORIGINAL SCENE YOU WROTE, BASED on SCENES VII and VIII joined together. |
| 第15回 | COMPLETE FINAL VERSION & ACT OUT (in pairs) | THE 75-90% ORIGINAL SCENE YOU WROTE, BASED on SCENES VII and VIII joined together. |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 英語ⅡＢ（応用コース）（人文④） | | | | | | | 担当教員 | Gordon Maclaren※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110362 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101ENG104 | | | | | | | | |

## 授業概要

This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues. Our text is a play made up of 20 short parts, half of which each pair of students will study at home (= homework every 2nd week). Most weeks in class, we'll practice one scene's pronunciation, intonation,choreography and gestures as a class. The next week, half of the class student pairs will perform the memorized scene. Each term, half the class -- in student pairs -- will rewrite then perform 1-2 scenes. In the middle of the other term (either June or November), students will individually write about themselves or something that interests them. This paper will form the basis of a private chat with me, conducted while the rest of the class is learning and listening to the dialog of an English movie.

## 到達目標

(1) Students will be able to speak English with good pronunciation.
(2) Students will be able to speak English with fluency.
(3) Students will be able to speak English with good delivery.
(4) Students will be able to speak grammatically correct English.

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 100% | 25% mid-term speaking test<br>25% mid-term writing test<br>50% weekly activity |

## 授業外学習

Study 2 scenes for pair performance (5 hours total) Study two or three Screen Plays for movie quiz (3 hours total) Write an extensive 350-550 word report on your life, an autobiography, in English (7 hours)

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | Pop Stars [New Version] | | (Drama Works, 2009) | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 英語ⅡＢ（応用コース）（人文④） | | | | | | | 担当教員 | Gordon Maclaren※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110362 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101ENG104 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | INTRODUCTION | Review Scenes I-XIII; Class>> Pair reading of Doing Someone ’ s Hair |
| 第2回 | Keeping Up With Friends ’ Lives | Shocking News Over the Phone [XV]<br>第2-8回PAIR-ACT DRAMA SCENE |
| 第3回 | Sharing Mixed Results | Celebrating, Evading and Consoling [XVI] |
| 第4回 | Adjusting to a Changed Situation | A Dream Future [XVII] |
| 第5回 | Breaking Some Bad News...But with a Silver Lining | Signing On [XVIII] |
| 第6回 | Working Out | Sharing Success; Asking a Big Favour [XIX] |
| 第7回 | The End' | The Drama's Resolution [XX] |
| 第8回 | Review Entire Story | Scene XIV Performance for any Excused Absence students |
| 第9回 | WRITE QUIZZES ON MOVIES WATCHED | WATCH FILMS WITH BILINGUAL SCREENPLAYS PREPARING FOR QUIZZES WHILE THE TEACHER INTERVIEWS ONE STUDENT ABOUT HER /HIS PERSONAL REPORT |
| 第10回 | WRITE QUIZZES ON MOVIES WATCHED | WATCH FILMS WITH BILINGUAL SCREENPLAYS PREPARING FOR QUIZZES WHILE THE TEACHER INTERVIEWS ONE STUDENT ABOUT HER /HIS PERSONAL REPORT |
| 第11回 | WRITE QUIZZES ON MOVIES WATCHED | WATCH FILMS WITH BILINGUAL SCREENPLAYS PREPARING FOR QUIZZES WHILE THE TEACHER INTERVIEWS ONE STUDENT ABOUT HER /HIS PERSONAL REPORT |
| 第12回 | WRITE QUIZZES ON MOVIES WATCHED | WATCH FILMS WITH BILINGUAL SCREENPLAYS PREPARING FOR QUIZZES WHILE THE TEACHER INTERVIEWS ONE STUDENT ABOUT HER /HIS PERSONAL REPORT |
| 第13回 | WRITE QUIZZES ON MOVIES WATCHED | WATCH FILMS WITH BILINGUAL SCREENPLAYS PREPARING FOR QUIZZES WHILE THE TEACHER INTERVIEWS ONE STUDENT ABOUT HER /HIS PERSONAL REPORT |
| 第14回 | WRITE QUIZZES ON MOVIES WATCHED | WATCH FILMS WITH BILINGUAL SCREENPLAYS PREPARING FOR QUIZZES WHILE THE TEACHER INTERVIEWS ONE STUDENT ABOUT HER /HIS PERSONAL REPORT |
| 第15回 | OFFICIAL EXAM DATE | Interviews for yet-to-be interviewed / late students & reports |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 英語ⅡＡ（応用コース）（人文⑤） | | | | | | | 担当教員 | Karl Hedberg※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110371 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101ENG103 | | | | | | | | |

**授業概要**

Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable communicative activities such as role-plays and short skits. TV comedy skits. Students are required to write a one-page essay or story. The teacher will meet with each student individually to give advice about content, grammar, and pronunciation. Students will practice reading their essays or stories in front of the teacher before having to do it again for a final evaluation. Students will be graded on both writing and speaking.

**到達目標**

Students will be able talk about activities encountered in everyday life using familiar grammatical constructions, and write about them fairly cohesively and logically.

**成績評価**

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | | |

25% Mid-term Speaking test. Each Speaking
25% Mid-term Writing test.
25% Vocabulary Quizzes

**授業外学習**

**教科書**

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | Living English I | Hedberg & Mauser | Keystone English Press | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

**参考書**

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

**前提学力等**

**履修資格**

| 講義名 | 英語ⅡＡ（応用コース）（人文⑤） | | | | | | | 担当教員 | Karl Hedberg※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110371 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101ENG103 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | Explanation of the course, | Course introduction, useful English and self introductions. |
| 第2回 | Getting to Know You | Making friends and exchanging (or not exchanging) personal information. |
| 第3回 | Getting to Know You | Learning to learn 1, going beyond first introductions, Quiz 1. |
| 第4回 | Family & Friends | Quiz 2, Talking about your family, memory game 1, song 1. |
| 第5回 | Family & Friends | Talking about your friends and learning to learn 2. |
| 第6回 | Around Town | Quiz 3, Describing your hometown and game 2. |
| 第7回 | Around Town | Getting to know Shiga, song 2. |
| 第8回 | School & Free Time | Quiz 4, School life, part-time jobs and schedules |
| 第9回 | Mid-Term Test | Students read aloud their writing to Teacher. Teacher gives a grade for speaking and another grade for writing. |
| 第10回 | School & Free Time | Free time and hobbies. Comparing Japanese / American college life. |
| 第11回 | What's Going On? | Quiz 5, Talking on the phone, leaving messages. |
| 第12回 | What's Going On? | Making invitations and suggestions, song 3. |
| 第13回 | Numbers & Money | Quiz 6, Numbers and money. |
| 第14回 | Numbers & Money | Do the math! |
| 第15回 | Review, Review, Review | Review. |
| 第16回 | Final Exam | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 英語ⅡＢ（応用コース）（人文⑤） | | | | | | | 担当教員 | Karl Hedberg※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110372 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101ENG104 | | | | | | | | |

## 授業概要

Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable communicative activities such as role-plays and short skits. TV comedy skits. Students are required to write a one-page essay or story. The teacher will meet with each student individually to give advice about content, grammar, and pronunciation. Students will practice reading their essays or stories in front of the teacher before having to do it again for a final evaluation. Students will be graded on both writing and speaking.

## 到達目標

Students will be able talk about activities encountered in everyday life using familiar grammatical constructions, and write about them fairly cohesively and logically.

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | | |

25% Mid-term Speaking test. Each Speaking
25% Mid-term Writing test.
25% Vocabulary Quizzes

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | Living English II | Hedberg & Mauser | Keystone English Press | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 英語ⅡＢ（応用コース）（人文⑤） | | | | | | | 担当教員 | Karl Hedberg※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110372 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101ENG104 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | Explanation of the course, | Course introduction, useful English and self introductions. |
| 第2回 | Memory and the Past | Talking about your weekend. |
| 第3回 | Memory and the Past | Quiz 1, Asking about the past. |
| 第4回 | The Real You | Quiz 2, Talking about your good and bad points, song 1. |
| 第5回 | The Real You | Your horoscope and learning to learn 2. |
| 第6回 | My Favorites | Quiz 3, Talking about books, movies, and music. |
| 第7回 | My Favorites | Which do you prefer...?, song 2. |
| 第8回 | Let's Eat! | Quiz 4, Talking about food and cuisine. |
| 第9回 | Mid-Term Test | Students read aloud their writing to Teacher. Teacher gives a grade for speaking and another grade for writing. |
| 第10回 | Let's Eat! | Tastes and textures. |
| 第11回 | Experiences | Quiz 5, Talking about some of you good and bad experiences. |
| 第12回 | Experiences | Have you...?, song 3. |
| 第13回 | Future Plans | Quiz 6, Can you see your future? |
| 第14回 | Future Plans | Hopes and dreams for the future. |
| 第15回 | Review, Review, Review | Review. |
| 第16回 | Final Exam | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 英語IIIA（充実コース）（人文①） | | | | | | | 担当教員 | 西澤　裕一※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110531 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 201ENG201 | | | | | | | | |

## 授業概要

この授業では、主に語彙力の向上、リスニング力の向上、さらにそれらを踏まえた発信力の向上を目標とします。教科書を使用した語彙の確認、映画を使用したリスニングの演習、内容を理解した英文を使用した発信の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。　また12月のTOEICに向けての演習も行う予定です。

## 到達目標

1. 大学生にふさわしい程度の英語の語彙(ビジネス英単語も含む）を身につけること。
2. 映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。
3. 映画の音声に親しむことで、Englishes,すなわちイギリス英語、アメリカ英語、イタリアなまりの英語などに慣れること。
4. 映画の表現に親しむことで各学生の英語による自己表現力を高めること。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 40% | 定期試験で100点満点中最低50点は取らないと評価はしません。 |
| レポート課題 | 40% | 家庭学習課題のレポートの提出がない場合は評価をしません。(20%)<br>毎回の小テストもこれに含みます。(20%) |
| 上記以外 | 20% | 授業態度(授業の準備はしっかりできているか、授業中の演習に集中して取り組んでいるかなど）を評価します。 |

2回の遅刻で1回の欠席とみなす場合があります。４回以上欠席は評価をしません。

## 授業外学習

この授業における授業外の学習は主に教科書を使った語彙の学習と、リスニング素材を利用したディクテーションによるリスニングの学習が中心となります。　通学時間などもうまく利用して毎日定期的に学習すればより学習効果が高まると思います。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ローマの休日 | | 電波実験社 | 9784864900133 |
| 2 | 新TOEICテスト英単語ターゲット1500 | | 旺文社 | 9784010943007 |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

特になし

## 履修資格

| 講義名 | 英語IIIA（充実コース）（人文①） | | | | | | | 担当教員 | 西澤　裕一※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110531 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 201ENG201 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | ガイダンス/Roman Holiday (1) | 授業の進め方等について解説して映画の視聴など |
| 第2回 | Roman Holiday (2)/英単(1) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解 |
| 第3回 | Roman Holiday (3)/英単(2) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習 |
| 第4回 | Roman Holiday (4)/英単(3) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解 |
| 第5回 | Roman Holiday (5)/英単(4) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習 |
| 第6回 | Roman Holiday (6)/英単(5) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解 |
| 第7回 | Roman Holiday (7)/英単(6) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習 |
| 第8回 | Roman Holiday (8)/英単(7) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解 |
| 第9回 | Roman Holiday (9)/英単(8) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習 |
| 第10回 | Roman Holiday (10)/英単(9) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解 |
| 第11回 | Roman Holiday (11)/英単(10) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習 |
| 第12回 | Roman Holiday (12)/英単(11) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解 |
| 第13回 | Roman Holiday (13)/英単(12) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習 |
| 第14回 | Roman Holiday (14)/英単(13) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解 |
| 第15回 | Roman Holiday (15)/英単(14) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習 |
| 第16回 | Roman Holiday (16)/英単(15) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解 |
| 第17回 | Roman Holiday (17)/英単(16) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習 |
| 第18回 | Roman Holiday (18)/英単(17) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解 |
| 第19回 | Roman Holiday (19)/英単(18) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習 |
| 第20回 | Roman Holiday (20)/英単(19) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解 |
| 第21回 | Roman Holiday (21)/英単(20) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習 |
| 第22回 | Roman Holiday (22)/英単(21) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解 |
| 第23回 | Roman Holiday (23)/英単(22) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習 |
| 第24回 | Roman Holiday (24)/英単(23) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解 |
| 第25回 | Roman Holiday (25)/英単(24) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習 |
| 第26回 | Roman Holiday (26)/英単(25) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解 |
| 第27回 | Roman Holiday (27)/英単(26) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習 |
| 第28回 | Roman Holiday (28)/英単(27) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解 |
| 第29回 | Roman Holiday (29)/英単(28) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習 |
| 第30回 | Roman Holiday (30)/英単(29) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解/全体のまとめ |

**担当者から一言**

初回の授業で、授業の進め方について詳しく説明するので必ず出席すること。
忙しい授業になると思いますが、がんばって授業に参加し、また指定された家庭学習もしっかりと行って大学生にふさわしい程度の英語力を身につ

| 講義名 | 英語IIIB（充実コース）（人文①） | | | | | | | 担当教員 | 西澤　裕一※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110532 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 201ENG202 | | | | | | | | |

## 授業概要

この授業では、主に語彙力の向上、リスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。教科書を使用した語彙の確認、映画を使用したリスニングの演習、内容を理解した英文を使用した発信の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。　また12月のTOEICに向けての演習も行う予定です。

## 到達目標

1. 大学生にふさわしい程度の英語の語彙(ビジネス英単語も含む）を身につけること。
2. 映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。
3. 映画の音声に親しむことで、Englishes,すなわちイギリス英語、アメリカ英語、イタリアなまりの英語などに慣れること。
4. 映画の表現に親しむことで各学生の英語による自己表現力を高めること。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 40% | 定期試験で100点満点中最低50点は取らないと評価はしません。 |
| レポート課題 | 40% | 家庭学習課題のレポートの提出がない場合は評価をしません。(20%)<br>毎回の小テストもこれに含みます。(20%) |
| 上記以外 | 20% | 授業態度(授業の準備はしっかりできているか、授業中の演習に集中して取り組んでいるかなど）を評価します。 |

2回の遅刻で1回の欠席とみなす場合があります。４回以上欠席は評価をしません。

## 授業外学習

この授業における授業外の学習は主に教科書を使った語彙の学習と、リスニング素材を利用したディクテーションによるリスニングの学習が中心となります。　通学時間などもうまく利用して毎日定期的に学習すればより学習効果が高まると思います。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ローマの休日 | | 電波実験社 | 9784864900133 |
| 2 | 新TOEICテスト英単語ターゲット1500 | | 旺文社 | 9784010943007 |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

特になし

## 履修資格

| 講義名 | 英語IIIB（充実コース）（人文①） | | | | | | | 担当教員 | 西澤　裕一※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110532 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 201ENG202 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | ガイダンス/Roman Holiday (1) | 授業の進め方等について解説して映画の視聴など |
| 第2回 | Roman Holiday (2)/英単(1) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解 |
| 第3回 | Roman Holiday (3)/英単(2) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習 |
| 第4回 | Roman Holiday (4)/英単(3) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解 |
| 第5回 | Roman Holiday (5)/英単(4) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習 |
| 第6回 | Roman Holiday (6)/英単(5) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解 |
| 第7回 | Roman Holiday (7)/英単(6) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習 |
| 第8回 | Roman Holiday (8)/英単(7) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解 |
| 第9回 | Roman Holiday (9)/英単(8) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習 |
| 第10回 | Roman Holiday (10)/英単(9) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解 |
| 第11回 | Roman Holiday (11)/英単(10) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習 |
| 第12回 | Roman Holiday (12)/英単(11) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解 |
| 第13回 | Roman Holiday (13)/英単(12) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習 |
| 第14回 | Roman Holiday (14)/英単(13) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解 |
| 第15回 | Roman Holiday (15)/英単(14) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習 |
| 第16回 | Roman Holiday (16)/英単(15) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解 |
| 第17回 | Roman Holiday (17)/英単(16) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習 |
| 第18回 | Roman Holiday (18)/英単(17) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解 |
| 第19回 | Roman Holiday (19)/英単(18) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習 |
| 第20回 | Roman Holiday (20)/英単(19) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解 |
| 第21回 | Roman Holiday (21)/英単(20) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習 |
| 第22回 | Roman Holiday (22)/英単(21) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解 |
| 第23回 | Roman Holiday (23)/英単(22) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習 |
| 第24回 | Roman Holiday (24)/英単(23) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解 |
| 第25回 | Roman Holiday (25)/英単(24) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習 |
| 第26回 | Roman Holiday (26)/英単(25) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解 |
| 第27回 | Roman Holiday (27)/英単(26) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習 |
| 第28回 | Roman Holiday (28)/英単(27) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解 |
| 第29回 | Roman Holiday (29)/英単(28) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習 |
| 第30回 | Roman Holiday (30)/英単(29) | TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解/全体のまとめ |

**担当者から一言**

初回の授業で、授業の進め方について詳しく説明するので必ず出席すること。
忙しい授業になると思いますが、がんばって授業に参加し、また指定された家庭学習もしっかりと行って大学生にふさわしい程度の英語力を身につ

| 講義名 | 英語IIIA（充実コース）（人文②） | | | | | | | 担当教員 | 真田　満※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110541 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 201ENG201 | | | | | | | | |

## 授業概要

現代社会の諸問題に関するエッセイや科学に関する文章を読み、英語の読解力を伸ばすとともに、批判的にテキストを読む力を養い、知的レベルの高いコミュニケーションに必要な教養を深める。またTEDの素材を使い、英語を聞き、理解する能力も養う。毎回の授業において、英語を音読し、発言することで弱強や強弱の英語独自のリズムに慣れ親しむ。

## 到達目標

①一般的な話題を扱うテキストの英文を正確に理解できる。
②テキストの英文に関する問題に、英語で答えることができる。
③テキストを批判的に読み、自分の考えを英語で述べることができる。
④自然なスピードで英語のネイティブスピーカーが話す内容を理解することができる。
⑤正しい発音を身につける。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 40 | 到達目標①②④について試験を行う。 |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 60 | 到達目標①②④に関し、2回小テストを行い、評価の20%とする。<br>到達目標③と⑤に関しては、授業での発表をもとに、評価の40%とする。この40%には毎回の宿題も含める。 |

総授業回数の3分の1以上欠席した場合、評価の対象としない。
30分以上の遅刻は認めない。
遅刻3回で1回の欠席扱いとする。

## 授業外学習

教科書のテキストを批判的に読み、設問に答えてくることで予習をしっかり行うこと。
TOEIC対策も兼ねた語彙と文法に関する問題プリントも毎回配付するので、解答してくること。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | Keynote 2 | David Bohlke | Cengage | 978-1-305-96504-1 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

随時、授業中にプリントを配付する。

## 前提学力等

英語Iと英語IIで身につけた英語力

## 履修資格

| 講義名 | 英語IIIA（充実コース）（人文②） | | | | | | | 担当教員 | 真田　満※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110541 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 201ENG201 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | Introduction | 授業の説明<br>予習の手順等の説明 |
| 第2回 | Unit 1<br>Lesson A and B | リーディング・パッセージの読解<br>ディクテーション |
| 第3回 | Unit 1<br>Lesson C, D, and E | TED Talkの聴解<br>教科書の設問、および教員の質問に英語で答える |
| 第4回 | Unit 2<br>Lesson A and B | リーディング・パッセージの読解<br>ディクテーション |
| 第5回 | Unit 2<br>Lesson C, D, and E | TED Talkの聴解<br>教科書の設問、および教員の質問に英語で答える |
| 第6回 | Unit 3<br>Lesson A and B | リーディング・パッセージの読解<br>ディクテーション |
| 第7回 | Unit 3<br>Lesson C, D, and E | TED Talkの聴解<br>教科書の設問、および教員の質問に英語で答える |
| 第8回 | 1st Quiz<br>Presentation | 第一回小テスト<br>英語で発表 |
| 第9回 | Unit 4<br>Lesson A and B | リーディング・パッセージの読解<br>ディクテーション |
| 第10回 | Unit 4<br>Lesson C, D, and E | TED Talkの聴解<br>教科書の設問、および教員の質問に英語で答える |
| 第11回 | Unit 5<br>Lesson A and B | リーディング・パッセージの読解<br>ディクテーション |
| 第12回 | Unit 5<br>Lesson C, D, and E | TED Talkの聴解<br>教科書の設問、および教員の質問に英語で答える |
| 第13回 | 2nd Quiz<br>Presentation | 第二回小テスト<br>英語で発表 |
| 第14回 | Unit 6<br>Lesson A and B | リーディング・パッセージの読解<br>ディクテーション |
| 第15回 | Unit 6<br>Lesson C, D, and E | TED Talkの聴解<br>教科書の設問、および教員の質問に英語で答える |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| 英語辞書だけでなく、英英辞書も持参すること。 |

| 講義名 | 英語IIIB（充実コース）（人文②） | | | | | | | 担当教員 | 真田　満※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110542 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 201ENG202 | | | | | | | | |

## 授業概要

現代社会の諸問題に関するエッセイや科学に関する文章を読み、英語の読解力を伸ばすとともに、批判的にテキストを読む力を養い、知的レベルの高いコミュニケーションに必要な教養を深める。また、正確な英文法に注意しながら、論理的な英語を書く力を養う。英語を書くだけでなく、自分の考えをメモ等に頼ることなく発表し、他学生と議論する能力も培う。

## 到達目標

①一般的な話題を扱うテキストの英文を正確に理解できる。
②テキストを批判的に読み、自分の考えを英語で書くことができる。
③テキストを批判的に読み、自分の考えを英語で述べることができる。
④自然なスピードで英語のネイティブスピーカーが話す内容を理解することができる。
⑤正しい発音を身につける。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 40 | 到達目標①②④について試験を行う。 |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 60 | 到達目標①②④に関し、2回小テストを行い、評価の20%とする。<br>到達目標③と⑤に関しては、授業での発表をもとに、評価の40%とする。この40%には毎回の宿題も含める。 |

総授業回数の3分の1以上欠席した場合、評価の対象としない。
30分以上の遅刻は認めない。
遅刻3回で1回の欠席扱いとする。

## 授業外学習

教科書のテキストを批判的に読み、設問に答えてくることで予習をしっかり行うこと。
TOEIC対策も兼ねた語彙と文法に関する問題プリントも毎回配付するので、解答してくること。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | Keynote 2 | David Bohlke | Cengage | 978-1-305-96504-1 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

随時、授業中にプリントを配付する。

## 前提学力等

英語Iと英語IIで身につけた英語力

## 履修資格

| 講義名 | 英語IIIB（充実コース）（人文②） | | | | | | | 担当教員 | 真田　満※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110542 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 201ENG202 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | Introduction | 授業の説明<br>英語III Aで学んだことの復習 |
| 第2回 | Unit 7<br>Lesson A and B | リーディング・パッセージの読解<br>ディクテーション |
| 第3回 | Unit 7<br>Lesson C, D, and E | TED Talkの聴解<br>教科書の設問、および教員の質問に英語で答える |
| 第4回 | Unit 8<br>Lesson A and B | リーディング・パッセージの読解<br>ディクテーション |
| 第5回 | Unit 8<br>Lesson C, D, and E | TED Talkの聴解<br>教科書の設問、および教員の質問に英語で答える |
| 第6回 | 1st Quiz<br>Presentation | 第一回小テスト<br>英語で発表 |
| 第7回 | Unit 9<br>Lesson A and B | リーディング・パッセージの読解<br>ディクテーション |
| 第8回 | Unit 9<br>Lesson C, D, and E | TED Talkの聴解<br>教科書の設問、および教員の質問に英語で答える |
| 第9回 | Unit 10<br>Lesson A and B | リーディング・パッセージの読解<br>ディクテーション |
| 第10回 | Unit 10<br>Lesson C, D, and E | TED Talkの聴解<br>教科書の設問、および教員の質問に英語で答える |
| 第11回 | Unit 11<br>Lesoon A and B | リーディング・パッセージの読解<br>ディクテーション |
| 第12回 | Unit 11<br>Lesson C, D, and E | TED Talkの聴解<br>教科書の設問、および教員の質問に英語で答える |
| 第13回 | 2nd Quiz<br>Presentation | 第二回小テスト<br>英語で発表 |
| 第14回 | Unit 12<br>Lesson A and B | リーディング・パッセージの読解<br>ディクテーション |
| 第15回 | Unit 12<br>Lesson C, D, and E | TED Talkの聴解<br>教科書の設問、および教員の質問に英語で答える |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| 英和辞書だけでなく、英英辞書も持参すること。 |

| 講義名 | 英語IIIA（充実コース）（人文③） | | | | | | | 担当教員 | Armando Duarte |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110551 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 201ENG201 | | | | | | | | |

## 授業概要

This class will introduce a new problem or aspect of society every week. Students will read authentic English materials about the topic, learn vocabulary, and complete comprehension activities. There will also be homework which will develop the 4 skills of language.

## 到達目標

Each class will have many activities. Is it important that students bring their textbook, paper, and pencils/pens to class every week.

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 20 | There will be 4 quizzes in this class, each worth 5% of your final grade. |
| レポート課題 | 30 | There will be 8 writing assignments in this class, each worth 3.75% of your grade. |
| 上記以外 | 50 | Final examination. |

Students who miss more than 3 classes will receive a 3% grade penalty for each class after 3 classes.
Homework and other late assignments will have a 10%.

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | Different Perspectives: Understanding Current World Issues | Allen, B., Ichioka, N., Iwamasa, S., Ohno, M., | | 978-4-7647-3980-2 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

There are many difficult vocabulary words in this textbook - be careful!

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 英語IIIA（充実コース）（人文③） | | | | | | | 担当教員 | Armando Duarte |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110551 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 201ENG201 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | Week 1 | Syllabus review, syllabus quiz; earthquakes and disasters. |
| 第2回 | Week 2 | Animal rights and animal issues. |
| 第3回 | Week 3 | Humans and animals. |
| 第4回 | Week 4 | War and arts. |
| 第5回 | Week 5 | Nationality and citizenship. |
| 第6回 | Week 6 | Education and women. |
| 第7回 | Week 7 | Gender issues and identity. |
| 第8回 | Week 8 | Guns and society. |
| 第9回 | Week 9 | Video games and violence. |
| 第10回 | Week 10 | Social media. |
| 第11回 | Week 11 | Families and society. |
| 第12回 | Week 12 | Environmental protection. |
| 第13回 | Week 13 | Foods and crops. |
| 第14回 | Week 14 | Child labor. |
| 第15回 | Week 15 | Religious and supernatural beliefs. |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| This class will be very challenging for you, but I am here to help you in any way. Please email me or talk to me before/after class about anything. I'm excited to meet you all! |

| 講義名 | 英語IIIＢ（充実コース）（人文③） | | | | | | | 担当教員 | 坂本　輝世 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110552 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 201ENG202 | | | | | | | | |

## 授業概要

この授業では、リーディングを中心に英語の全般的な運用力を総合的に高めることを目的とする。テキストは、文化、社会、テクノロジー、環境、経済の５つの分野にわたるトピックを扱ったもので、これを用いて、現代社会のさまざまな側面について、英語で読み、考え、発表する活動に取り組んでもらいたい。また、毎週必ずテキストの音源等を聞いてリスニング・ジャーナルに記録し、クラスでのアクティビティーに積極的に参加することで、リスニングとスピーキングの力も伸ばしていきたい。期末課題として、小グループ単位でテキストの内容についての英語プレゼンテーションを行う。

## 到達目標

（１）必要に応じて辞書を使いながら、英文の内容を確実に理解する力を養う。
（２）英語の音とリズムに慣れ、リスニング力を向上させる。
（３）英語で読んだり調べたりしたトピックについて、その内容を人に伝えるスピーキング力を向上させる。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 30% | 到達目標（１）（３）について、期末プレゼンテーションによって評価する。 |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 70% | 到達目標（１）（２）（３）について、予習（15%）とクイズ（30%）によって評価する。<br>到達目標（２）について、リスニング・ジャーナルの提出（15%）によって評価する。<br>到達目標（３）について、授業への参加度（10%）によって評価する。 |

正当な理由がなく全クラスの１／３以上欠席した場合、評価の対象としません。なお、遅刻３回で欠席１回、30分以上の遅刻は欠席として扱います。

## 授業外学習

語学の学習は、週１回のクラスだけではできません。英語を聞いたり読んだりする活動に、自宅や通学時にも積極的に取り組んでください。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | Understanding Our New Challenges | Dave Rear, 杉藤久志 | 成美堂 | 9784791934263 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

英和辞典（電子辞書または紙の辞書）と教科書は、必ず初回授業から持ってくること。

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 英語IIIB（充実コース）（人文③） | | | | | | | 担当教員 | 坂本　輝世 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110552 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 201ENG202 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | イントロダクション | 授業の進め方の説明<br>担当ユニットの決定 |
| 第2回 | Group activities | 担当ユニットの内容確認と発表に向けての話し合い<br>English activities |
| 第3回 | Unit #1 | クイズ<br>テキスト内容の確認と発展 |
| 第4回 | Unit #2 | クイズ<br>テキスト内容の確認と発展 |
| 第5回 | Unit #3 | クイズ<br>テキスト内容の確認と発展 |
| 第6回 | Unit #4 | クイズ<br>テキスト内容の確認と発展 |
| 第7回 | Unit #5 | クイズ<br>テキスト内容の確認と発展 |
| 第8回 | Mid-term preview | グループ発表の準備状況確認<br>English activities |
| 第9回 | Unit #6 | クイズ<br>テキスト内容の確認と発展 |
| 第10回 | Unit #7 | クイズ<br>テキスト内容の確認と発展 |
| 第11回 | Unit #8 | クイズ<br>テキスト内容の確認と発展 |
| 第12回 | Unit #9 | クイズ<br>テキスト内容の確認と発展 |
| 第13回 | Unit #10 | クイズ<br>テキスト内容の確認と発展 |
| 第14回 | Unit #11 | クイズ<br>テキスト内容の確認と発展 |
| 第15回 | 期末プレゼンテーション準備 | クイズ、English activities |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| 専門分野の国際的な研究を理解し、それに基づいて自分の研究を進めるためには、英語の文章を確実に読み取る力が必要です。また、理解した内容をわかりやすく人に伝える力も欠かせません。このクラスで、そのための第一歩を踏み出しましょう！ |

| 講義名 | 英語IIIA（充実コース）（人文④） | | | | | | | 担当教員 | 佐久間　思帆※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110561 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 201ENG201 | | | | | | | | |

## 授業概要

書いてある、もしくは音声での英語を素早く理解し、そしてアウトプットできるようなることを目標として、TOEIC問題とドラマ（Full　House）を使い演習形式で特訓します。
英語を読み・聞きくだけでは実力はつきません。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになっての演習や音読が大事となります。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。
毎回の授業の初めに復習テスト（筆記式）と授業の最後にグループ単位でのドラマのスクリプトを作る課題の提出があります。

## 到達目標

（1）語彙力の向上
（2）リスニング力の向上
（3）読解力の向上
（4）英語での思考力の向上
（5）英語での発信力の向上

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 50 | （1）語彙力10%<br>（2）リスニング力10%<br>（3）読解力10% |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 50 | （1）語彙力10%<br>（2）リスニング力10%<br>（3）読解力10% |

6回の欠席で評価対象から除外されます（出席回数はお知らせしません）。なお学校が認めた公欠以外は一切認めません。

## 授業外学習

授業で扱った英文を、日本語から英語に、英語から日本ｄ語にクイックレスポンスできるまで復習しておくこと。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | The TOEIC Test Practice with Core Vocabulary BOOK2 | 吉塚弘、Bill Benfield | 成美堂 | 978-4-7919-1093-9 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

必ず購入のこと。

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

どのような物でも構わないので辞書を持参のこと。

## 前提学力等

※３回生以上の特例処置での再履修を希望する学生は、本シラバスを確認した上で必ず１回目の授業に出席すること。出席しなかった学生の再履修は認めない。

## 履修資格

| 講義名 | 英語IIIA（充実コース）（人文④） | | | | | | | 担当教員 | 佐久間　思帆※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110561 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 201ENG201 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | 英語の基礎事項の確認 | 基礎事項の確認 |
| 第2回 | Unit1とFull House1 | Unit1とFull House1を演習 |
| 第3回 | Unit1とFull House2 | Unit1とFull House2を演習 |
| 第4回 | Unit2とFull House3 | Unit2とFull House3を演習 |
| 第5回 | Unit3とFull House4 | Unit3とFull House4を演習 |
| 第6回 | Unit4とFull House5 | Unit4とFull House5を演習 |
| 第7回 | Unit5とFull House6 | Unit5とFull House6を演習 |
| 第8回 | Unit6とFull House7 | Unit6とFull House7を演習 |
| 第9回 | Unit7とFull House8 | Unit7とFull House8を演習 |
| 第10回 | Unit8とFull House9 | Unit8とFull House9を演習 |
| 第11回 | Unit9とFull House10 | Unit9とFull House10を演習 |
| 第12回 | Unit10とFull House11 | Unit10とFull House11を演習 |
| 第13回 | Unit11とFull House12 | Unit11とFull House12を演習 |
| 第14回 | Unit12とFull House13 | Unit12とFull House13を演習 |
| 第15回 | Unit1～12の復習とFull House14 | Unit1～12の復習とFull House14を演習 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| ※授業の進行を妨げ、他の学生が学習する機会を損なう行為（私語、Twitter、Line等の使用、ペアワークへの不参加等）をする者の受講は認めません。 |

| 講義名 | 英語IIIＢ（充実コース）（人文④） | | | | | | | 担当教員 | 佐久間　思帆※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110562 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 201ENG202 | | | | | | | | |

## 授業概要

書いてある、もしくは音声での英語を素早く理解し、そしてアウトプットできるようなることを目標として、TOEIC問題とドラマ（Full　House）を使い演習形式で特訓します。
英語を読み・聞きくだけでは実力はつきません。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになっての演習や音読が大事となります。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。
毎回の授業の初めに復習テスト（筆記式）と授業の最後にグループ単位でのドラマのスクリプトを作る課題の提出があります。

## 到達目標

（１）語彙力の向上
（２）リスニング力の向上
（３）読解力の向上
（４）英語での思考力の向上
（５）英語での発信力の向上

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 50 | （１）語彙力10%<br>（２）リスニング力10%<br>（３）読解力10% |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 50 | （１）語彙力10%<br>（２）リスニング力10%<br>（３）読解力10% |

6回の欠席で評価対象から除外されます（出席回数はお知らせしません）。なお学校が認めた公欠以外は一切認めません。

## 授業外学習

授業で扱った英文を、日本語から英語に、英語から日本ｄ語にクイックレスポンスできるまで復習しておくこと。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | The TOEIC Test Practice with Core Vocabulary BOOK2 | 吉塚弘、Bill Benfield | 成美堂 | 978-4-7919-1093-9 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

必ず購入のこと。

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

どのような物でも構わないので辞書を持参のこと。

## 前提学力等

※３回生以上の特例処置での再履修を希望する学生は、本シラバスを確認した上で必ず１回目の授業に出席すること。出席しなかった学生の再履修は認めない。

## 履修資格

| 講義名 | 英語IIIＢ（充実コース）（人文④） | | | | | | | 担当教員 | 佐久間　思帆※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110562 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 201ENG202 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | 前期の復習とFull House15 | 前期の復習とFull House15を演習 |
| 第2回 | Unit13とFull House16 | Unit13とFull House16を演習 |
| 第3回 | Unit14とFull House17 | Unit14とFull House17を演習 |
| 第4回 | Unit15とFull House18 | Unit15とFull House18を演習 |
| 第5回 | Unit16とFull House19 | Unit16とFull House19を演習 |
| 第6回 | Unit17とFull House20 | Unit17とFull House20を演習 |
| 第7回 | Unit18とFull House21 | Unit18とFull House21を演習 |
| 第8回 | Pre-test | TOEICの予行練習 |
| 第9回 | Unit19とFull House22 | Unit19とFull House22を演習 |
| 第10回 | Unit20とFull House23 | Unit20とFull House23を演習 |
| 第11回 | Unit21とFull House24 | Unit21とFull House24を演習 |
| 第12回 | Unit22とFull House25 | Unit22とFull House25を演習 |
| 第13回 | Unit23とFull House26 | Unit23とFull House26を演習 |
| 第14回 | Unit24とFull House27 | Unit24とFull House27を演習 |
| 第15回 | Unit13～24の復習とFull House28 | Unit13～24の復習とFull House28を演習 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| ※授業の進行を妨げ、他の学生が学習する機会を損なう行為（私語、Twitter、Line等の使用、ペアワークへの不参加等）をする者の受講は認めません。 |

| 講義名 | 英語IIIA（充実コース）（人文⑤） | | | | | | | 担当教員 | Carl John Boland※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110571 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 201ENG201 | | | | | | | | |

## 授業概要

This social studies themed course focuses on building vocabulary as well as improving reading comprehension and listening skills. This approach will have clear benefits for those students taking the TOEIC test. Students will also work on their paragraph/essay writing skills and receive coaching from the tutor. In class, the students will work in pairs and small groups on discussion exercises related to course text topics. Students will also be introduced to a number of self-study techniques to empower their own learning experiences.

## 到達目標

Reading: Students will be able to read and comprehend longer articles written using complex English sentences and topic-specific vocabulary.
Writing: Students will be able to write grammatically correct complex sentences and paragraphs that are spelled and punctuated correctly.
Speaking: Students will be able to articulate simple opinions and express agreement/disagreement in class discussions.

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 25 | Mid-term essay speaking/reading test |
| レポート課題 | 25 | Mid-term essay writing |
| 上記以外 | 50 | Final Test |

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

Required Text: Hot Topics Japan I - Stephanie Alexander [Compass Publishing].

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 英語IIIA（充実コース）（人文⑤） | | | | | | | 担当教員 | Carl John Boland※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110571 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 201ENG201 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | Course Introduction/ People & Society Pt.1 | Overview of Assignments.<br>Hot Topics Japan 1, Unit 1 'Personal Space'. |
| 第2回 | People & Society Pt.2 | Hot Topics Japan 1, Unit 2, 'Japanese Restaurant Culture'. |
| 第3回 | People & Society Pt.3 | Hot Topics Japan 1, Unit 3, 'Collectivism'. |
| 第4回 | Health & Fitness Pt.1 | Hot Topics Japan 1, Unit 4, 'Natural vs. Artificial Ingredients'. |
| 第5回 | Health & Fitness Pt.2 | Hot Topics Japan 1, Unit 5, 'Medical Masks in Japan'. |
| 第6回 | Health & Fitness Pt.3 | Hot Topics Japan 1, Unit 6, 'Japanese Tea'. |
| 第7回 | Children & Education Pt.1 | Hot Topics Japan 1, Unit 7, 'Youth Subcultures'. |
| 第8回 | Children & Education Pt.2 | Student mid-term essay reading/speaking tests<br>Hot Topics Japan 1, Unit 8, 'Juku Culture'. |
| 第9回 | Children & Education Pt.3 | Student mid-term essay reading/speaking tests<br>Hot Topics Japan 1, Unit 9, 'Studying Abroad'. |
| 第10回 | Science & Technology Pt.1 | Hot Topics Japan 1, Unit 10, 'Cell phone ettiquette'. |
| 第11回 | Science & Technology Pt.2 | Hot Topics Japan 1, Unit 11, 'Vending Machines'. |
| 第12回 | Science & Technology Pt.3 | Hot Topics Japan 1, Unit 12, 'Robotics Research'. |
| 第13回 | Art & Culture Pt.1 | Hot Topics Japan 1, Unit 13, 'Manga'. |
| 第14回 | Art & Culture Pt.2 | Hot Topics Japan 1, Unit 14, 'Karaoke'. |
| 第15回 | Art & Culture Pt.3 | Hot Topics Japan 1, Unit 15, 'Japanese Gardens'. |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| Students should be prepared to do some self-study in order to follow the course. In class, students will work in pairs and small groups and will be expected to participate actively at all times. |

| 講義名 | 英語IIIB（充実コース）（人文⑤） | | | | | | | 担当教員 | Carl John Boland※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110572 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 201ENG202 | | | | | | | | |

## 授業概要

This social studies themed course focuses on building vocabulary as well as improving reading comprehension and listening skills. This approach will have clear benefits for those students taking the TOEIC test. Students will also work on their paragraph/essay writing skills and receive coaching from the tutor. In class, the students will work in pairs and small groups on discussion exercises related to course text topics. Students will also be introduced to a number of self-study techniques to empower their own learning experiences.

## 到達目標

Reading: Students will be able to read and comprehend longer articles written using complex English sentences and topic-specific vocabulary.
Writing: Students will be able to write grammatically correct complex sentences and paragraphs that are spelled and punctuated correctly.
Speaking: Students will be able to articulate simple opinions and express agreement/disagreement in class discussions.

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 25 | Mid-term essay speaking/reading test |
| レポート課題 | 25 | Mid-term essay writing |
| 上記以外 | 50 | Final Test |

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

Required Text: Hot Topics Japan II - Stephanie Alexander [Compass Publishing].

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 英語IIIB（充実コース）（人文⑤） | | | | | | | 担当教員 | Carl John Boland※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110572 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 201ENG202 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | Course Introduction/ People & Society Pt.1 | Overview of Assignments.<br>Hot Topics Japan 2, Unit 1 'Holidays in Japan'. |
| 第2回 | People & Society Pt.2 | Hot Topics Japan 2, Unit 2, 'The low crime rate of Japan'. |
| 第3回 | People & Society Pt.3 | Hot Topics Japan 2, Unit 3, 'Divorce in Japan'. |
| 第4回 | Health & Fitness Pt.1 | Hot Topics Japan 2, Unit 4, 'The healthy habits of Japanese women'. |
| 第5回 | Health & Fitness Pt.2 | Hot Topics Japan 2, Unit 5, 'Otsukare'. |
| 第6回 | Health & Fitness Pt.3 | Hot Topics Japan 2, Unit 6, 'Traditional Japanese foods'. |
| 第7回 | Children & Education Pt.1 | Hot Topics Japan 2, Unit 7, 'Martial Arts in Schools'. |
| 第8回 | Children & Education Pt.2 | Student mid-term essay reading/speaking tests<br>Hot Topics Japan 2, Unit 8, 'Whole Person Education'. |
| 第9回 | Children & Education Pt.3 | Student mid-term essay reading/speaking tests<br>Hot Topics Japan 2, Unit 9, 'The Suzuki Method'. |
| 第10回 | Science & Technology Pt.1 | Hot Topics Japan 2, Unit 10, 'Internet Cafe Kids'. |
| 第11回 | Science & Technology Pt.2 | Hot Topics Japan 2, Unit 11, 'E-wallets'. |
| 第12回 | Science & Technology Pt.3 | Hot Topics Japan 2, Unit 12, 'The Space Program'. |
| 第13回 | Art & Culture Pt.1 | Hot Topics Japan 2, Unit 13, 'J-pop sensation'. |
| 第14回 | Art & Culture Pt.2 | Hot Topics Japan 2, Unit 14, 'Taboo Tattoos'. |
| 第15回 | Art & Culture Pt.3 | Hot Topics Japan 2, Unit 15, 'The Business of Cosplay'. |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| Students should be prepared to do some self-study in order to follow the course. In class, students will work in pairs and small groups and will be expected to participate actively at all times. |

| 講義名 | 英語IVA（展開コース）（人文①） | | | | | | | 担当教員 | 神田　眞喜子 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110741 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 201ENG203 | | | | | | | | |

## 授業概要

本授業では、４技能を統合的に活用し、英語力の向上を目指します。英語の4技能をバランスよく伸ばすために、語彙学習、文法学習、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングといった様々な活動を通して英語を学びます。ペアワークやグループワークを通してインプットからアウトプットにつなげる活動もします。

## 到達目標

（1）リスニング力を向上させる
（2）リーディング力を向上させる
（3）語彙力や文法力を向上させる。
（4）積極的に英語でコミュニケーションすることができる。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 40% | 到達目標（1）（2）（3）について、期末試験で40%として評価。 |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 60% | 到達目標（1）（2）（3）について、到達度確認テストを２回行い、30%として評価。<br>到達目標（2）（3）について、毎回の課題で20%として評価。<br>到達目標（4）について、授業中の積極的な発言や発表で10%として評価。 |

## 授業外学習

学習内容を効果的に定着させるため、授業の復習・予習などの授業外学習は欠かさず行うこと。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | Ｊａｐａｎ　Ｇｏｅｓ　Ｇｌｏｂａｌ | Stuart Gale他 | 南雲堂 | 978-4-523-17860-6 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

初回授業でテキストの説明・導入を予定しているため、各自必ず購入を済ませて持参すること。辞書を必ず持参すること。

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 英語IVA（展開コース）（人文①） | | | | | | | 担当教員 | 神田　眞喜子 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110741 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 201ENG203 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | オリエンテーション | 授業概要や方針についての説明。　受講者同士の自己紹介。テキストを用いて、授業の流れや予習範囲の確認。 |
| 第2回 | Unit 1  One Piece and the world's favorite pirates | リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。 |
| 第3回 | Unit 1  One Piece and the world's favorite pirates | リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。 |
| 第4回 | Unit 2 Japan's company culture | リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。 |
| 第5回 | Unit 2 Japan's company culture | リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。 |
| 第6回 | Unit 3 The genious of Japanese animation | リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。 |
| 第7回 | Unit 3 The genious of Japanese animation | リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。 |
| 第8回 | 到達度確認テスト（1） | Ｕｎｉｔ １～Ｕｎｉｔ ３までの確認テストを実施する。 |
| 第9回 | Unit 4 How supersitious is Japan? | リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。 |
| 第10回 | Unit 4 How supersitious is Japan? | リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。 |
| 第11回 | Unit 5 Bousouzoku: very Japanese rebels | リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。 |
| 第12回 | Unit 5 Bousouzoku: very Japanese rebels | リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。 |
| 第13回 | Unit 6 Why do Japanese students sleep in class? | リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。 |
| 第14回 | Unit 6 Why do Japanese students sleep in class? | リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。 |
| 第15回 | 到達度確認テスト（2） | Ｕｎｉｔ ４～Ｕｎｉｔ ６までの確認テストを実施する。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 英語IVB（展開コース）（人文①） | | | | | | | 担当教員 | 神田　眞喜子 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110742 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 201ENG204 | | | | | | | | |

## 授業概要

本授業では、４技能を統合的に活用し、英語力の向上を目指します。英語の4技能をバランスよく伸ばすために、語彙学習、文法学習、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングといった様々な活動を通して英語を学びます。ペアワークやグループワークを通してコミュニケーション活動も行います。

## 到達目標

（1）リスニング力を向上させる
（2）リーディング力を向上させる
（3）語彙力や文法力を向上させる。
（4）積極的に英語でコミュニケーションすることができる。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 40% | 到達目到達目標（1）（2）（3）について、期末試験で40%として評価。 |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 60% | 到達目標（1）（2）（3）について、到達度確認テストを２回行い、30%として評価。<br>到達目標（2）（3）について、毎回の課題で20%として評価。<br>到達目標（4）について、授業中の積極的な発言や発表で10%として評価。 |

## 授業外学習

学習内容を効果的に定着させるため、授業の復習・予習などの授業外学習は欠かさず行うこと。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | Ｊａｐａｎ　Ｇｏｅｓ　Ｇｌｏｂａｌ | Stuart Gale他 | 南雲堂 | 978-4-523-17860-6 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

初回授業でテキストの説明・導入を予定しているため、各自必ず購入を済ませて持参すること。辞書を必ず持参すること。

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 英語IVB（展開コース）（人文①） | | | | | | | 担当教員 | 神田　眞喜子 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110742 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 201ENG204 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | Unit 7 Attraction of onsen | リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。 |
| 第2回 | Unit 7 Attraction of onsen | リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。 |
| 第3回 | Unit 8 Virtual love | リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。 |
| 第4回 | Unit 8 Virtual love | リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。 |
| 第5回 | Unit 9 Otaku and proud! | リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。 |
| 第6回 | Unit 9 Otaku and proud! | リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。 |
| 第7回 | Unit 10 Similar but not the same | リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。 |
| 第8回 | 到達度確認テスト（1） | Ｕｎｉｔ ７～Ｕｎｉｔ １０までの確認テストを実施する。 |
| 第9回 | Unit 11 The Japanese writing systmen | リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。 |
| 第10回 | Unit 11 The Japanese writing systmen | リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。 |
| 第11回 | Unit 12 The grey area of gambling | リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。 |
| 第12回 | Unit 12 The grey area of gambling | リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。 |
| 第13回 | Unit 13 Pokemon:Do we really have to catch'em all? | リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。 |
| 第14回 | Unit 13 Pokemon:Do we really have to catch'em all? | リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。 |
| 第15回 | 到達度確認テスト（2） | Ｕｎｉｔ １１~Ｕｎｉｔ １３までの確認テストを実施する。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 英語IVA（展開コース）（人文②） | | | | | | | 担当教員 | 渡　寛法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110751 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 201ENG203 | | | | | | | | |

## 授業概要

本授業は、英語の発音の仕方を学び、TOEICリスニング・セクションのスコアアップを目指します。英語力の基礎は発音力です。なぜ日本人は英語を聞き取れないのか、また逆に、なぜ日本人の話す英語（ジャングリッシュ）は聞き取ってもらえないのか。伝わらないカタカナ発音と通じる英語発音の違いを理解することで、リスニング能力だけでなくスピーキング能力も育成します。授業では、教科書を用いて音読やシャドーイングなど英語を声に出して練習し、ペアワークやグループワークで実際に英語を使う訓練も積み重ねていきます。

## 到達目標

（１）英語発音の特徴を理解し、TOEICレベルのリスニング問題を聞き取れる。
（２）TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。
（３）TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 60 | 到達目標（１）に関しては、期末試験で評価します（60%）。 |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 40 | 到達目標（２）に関しては、授業中の音読活動やペア、グループワークによって評価し（20%）、到達目標（３）に関しては、各回の小テストで評価します（20%）。 |

出欠状況は毎回確認します。授業を４回欠席した場合、成績評価はされませんので注意してください。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。

## 授業外学習

毎回授業の冒頭に、確認小テストがありますので、復習をかねて家で勉強してきてください。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 『Listening Steps』 | 米山明日香 / Lindsay Wells 著 | 金星堂 | 978-4-7647-4039-6 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

初回授業では音読のタイムトライアルなどを行うので、スマートフォンを持ってきてください。

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 英語IVA（展開コース）（人文②） | | | | | | | 担当教員 | 渡　寛法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110751 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 201ENG203 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | オリエンテーション | 自己紹介、授業の進め方についての説明、ワークシートの記入。 |
| 第2回 | Unit 1 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第3回 | Unit 2 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第4回 | Unit 3 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第5回 | Unit 4 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第6回 | Unit 5 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第7回 | Unit 6 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第8回 | Unit 7 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第9回 | Unit 8 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第10回 | Unit 9 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第11回 | Unit 10 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第12回 | Unit 11 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第13回 | Unit 12 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第14回 | Unit 13 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第15回 | Unit 14 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| 英語学習の基本は音読です。まずは教科書にでてくる英文をスラスラ声に出して読めるようにトレーニングしていきましょう！ |

| 講義名 | 英語IVB（展開コース）（人文②） | | | | | | | 担当教員 | 渡　寛法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110752 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 201ENG204 | | | | | | | | |

**授業概要**

前期に引き続き、世界各国を旅するレポーターからの英語ニュースとインタビューを視聴しながら、その国の言語・文化への理解を深めつつ、英語の四技能（聞く、話す、読む、書く）を総合的に養う。後期は特に、英語が世界共通語と呼ばれるまでに至った背景的知識を得るため、サブテキストとしてDavid Crystal著 English as a Global Language を参照する。前期同様、受講者には、翻訳作業を除いて、可能な限り英語で受け答えをし、ディスカッションすることが求められる。リーディングとリスニング問題を軸に、英語でレポートを作成したり（ライティング）、英語の質問に対して英語で答え、それを録音する（スピーキング）などの課題も随時提示される。

**到達目標**

(1) “World Englishes”に関する発展問題に、自らの意見や引用文を用いて解答する
(2) 世界の旅事情、今後の英語事情について議論し、その結果を英語で発表する
(3) 世界の国々の特色について、英語で詳細に説明する

**成績評価**

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 40% | 到達目標（１）について、期末テストを行い、全体の40%として評価。 |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 60% | 到達目標（２）について、到達度確認テストを行い、全体の30%として評価。<br>到達目標（３）について、隔週の小テスト(10%)および各回のレポート作成・録音作業(20%)で評価。 |

＜出席について＞
授業への積極的な参加は前提である。出欠状況は毎回確認するが、いわゆる出席点というものはない。なお、正当な理由なく４回以上授業を欠席した場合は、単位を認めない。遅刻は３回で欠席１回とみなし、30分以上の遅刻は欠席扱いとなる。

**授業外学習**

これまでの学習内容、これからの学習内容を効果的に定着させるため、授業の復習・予習などの授業外学習は欠かさず行うこと。

**教科書**

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | On Board for More World Adventures | Scott Berlin・小林めぐみ | 金星堂 | 978-4-7647-3991-8 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

初回授業でテキストの説明・導入を予定しているため、各自必ず購入を済ませて持参すること。また、受講者自らが問題に取り組み、理解を深めて

**参考書**

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | English as a Global Language | David Crystal | Cambridge University Press | 978-1107611801 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

・適宜、授業中にプリント配布する。

**前提学力等**

＜辞書について＞
外国語学習にとって辞書は必須アイテムである。英語の電子辞書または紙媒体の辞書を必ず持参すること。なお、携帯電話やスマートフォンなどの

**履修資格**

| 講義名 | 英語IVB（展開コース）（人文②） | | | | | | | 担当教員 | 渡　寛法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110752 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 201ENG204 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | オリエンテーション | ・前期の振り返り＆後期の目標確認<br>・サブテキストの紹介 |
| 第2回 | Chapter 2<br>INDONESIA - Reading | 【前半】<br>・ディスカッション |
| 第3回 | Chapter 2<br>INDONESIA - Listening | 【前半】<br>・小テスト |
| 第4回 | Unit 4<br>CHINA - Reading | 【前半】<br>・ディスカッション |
| 第5回 | Unit 4<br>CHINA - Listening | 【前半】<br>・小テスト |
| 第6回 | Unit 6<br>MEXICO - Reading | 【前半】<br>・ディスカッション |
| 第7回 | Unit 6<br>MEXICO - Listening | 【前半】<br>・小テスト |
| 第8回 | Unit 8<br>FINLAND - Reading | 【前半】<br>・ディスカッション |
| 第9回 | Unit 8<br>FINLAND - Listening | 【前半】<br>・小テスト |
| 第10回 | Unit 10<br>SPAIN - Reading | 【前半】<br>・ディスカッション |
| 第11回 | Unit 10<br>SPAIN - Listening | 【前半】<br>・小テスト |
| 第12回 | Unit 13<br>MOROCCO -Reading | 【前半】<br>・ディスカッション |
| 第13回 | Unit 13<br>MOROCCO - Listening | 【前半】<br>・小テスト |
| 第14回 | Review | ・世界の言語について<br>・サブテキストの講読 |
| 第15回 | 到達度確認テスト | グループで前期のまとめ課題に取り組む<br>・トラベルガイド作成完了 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| 後期は、インドネシア、中国、メキシコ、フィンランド、スペイン、モロッコを英語で旅します！前期に引き続き、言語とは何かについて、また英語の将来について考えていきましょう。 |

| 講義名 | 英語IVA（展開コース）（人文③） | | | | | | | 担当教員 | 菰田　真由美 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110761 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 201ENG203 | | | | | | | | |

**授業概要**

海外旅行や留学などの機会において、私たちは、他の文化について多くを学びます。この授業では、日本人学生の体験を通して、私たちが外国で遭遇しがちなさまざまな問題とその解決法について学びながら、同時にリスニング、スピーキング、リーディング能力の向上を目指します。授業内の小テストで語彙を確認し、ペア・ワークによって会話の練習を行います。さらに、テーマにまつわる文章を聴いて、読み、その内容を理解します。

**到達目標**

(1)海外旅行や留学の際、想定されるさまざまな場面で必要な語彙を習得する。
(2)正しい発音とイントネーションを身に付け、音読することができる。
(3)テーマごとに、まとまった内容の文章を聴いて、読み、理解することができる。

**成績評価**

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 60% | 到達目標(3)については、期末試験によって評価する。 |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 40% | 到達目標(1)については、授業内の小テスト(20%)、到達目標(2)については、授業中の活動への積極的な参加(20%)によって評価する。 |

授業を４回以上欠席した場合は、評価の対象となりません。また、３０分以上の遅刻は欠席扱いとなります。授業中は携帯電話等の通信機器は鞄に入れる必要があります。また、居眠りや私語、内職等は減点対象となります。

**授業外学習**

毎週末までに、授業内容に関して、語彙の確認とテキストの音読をする習慣を付けてください。

**教科書**

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | Communicate Abroad | Simon Cookson, Chihiro Tajima | センゲージ・ラーニング | 978-4-86312-277-2 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

英和辞書または英英辞書は毎回忘れずに持参すること。

**参考書**

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

**前提学力等**

**履修資格**

| 講義名 | 英語IVA（展開コース）（人文③） | | | | | | | 担当教員 | 菰田　真由美 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110761 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 201ENG203 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | Introduction/授業概要 | 自己紹介/授業の進め方等の説明 |
| 第2回 | Unit1: My Suitcase Is Overweight | 導入、語彙確認、音読活動 |
| 第3回 | Unit1: My Suitcase Is Overweight | パッセージの内容理解、質問応答、応用表現 |
| 第4回 | Unit2 : I'm Suffering from Jet Lag | 小テスト、導入、語彙確認、音読活動 |
| 第5回 | Unit2 : I'm Suffering from Jet Lag | パッセージの内容理解、質問応答、応用表現 |
| 第6回 | Unit3 : Each Host Family Is Different | 小テスト、導入、語彙確認、音読活動 |
| 第7回 | Unit3 : Each Host Family Is Different | パッセージの内容理解、質問応答、応用表現 |
| 第8回 | 復習とまとめ① | 小テスト、Unit 1, 2, 3のまとめ |
| 第9回 | Unit4 : I'm Experiencing Culture Shock | 導入、語彙確認、音読活動 |
| 第10回 | Unit4 : I'm Experiencing Culture Shock | パッセージの内容理解、質問応答、応用表現 |
| 第11回 | Unit5 : My Dormitory Is too Noisy | 小テスト、導入、語彙確認、音読活動 |
| 第12回 | Unit5 : My Dormitory Is too Noisy | パッセージの内容理解、質問応答、応用表現 |
| 第13回 | Unit6 : How Can I Make Friends? | 小テスト、導入、語彙確認、音読活動 |
| 第14回 | Unit6 : How Can I Make Friends? | パッセージの内容理解、質問応答、応用表現 |
| 第15回 | 復習とまとめ② | 小テスト、Unit 4, 5, 6のまとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| 授業内の学習だけで英語力を身に付けることは難しいので、隙間時間等を利用して語彙力の定着やリスニング力の養成に努めて下さい。具体的な教材や学習方法についてのアドバイスを行いますので、気軽に質問してください。 |

| 講義名 | 英語IVB（展開コース）（人文③） | | | | | | | 担当教員 | 菰田　真由美 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110762 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 201ENG204 | | | | | | | | |

**授業概要**

海外旅行や留学などの機会において、私たちは、他の文化について多くを学びます。この授業では、日本人学生の体験を通して、私たちが外国で遭遇しがちなさまざまな問題とその解決法について学びながら、同時にリスニング、スピーキング、リーディング能力の向上を目指します。授業内の小テストで語彙を確認し、ペア・ワークによって会話の練習を行います。さらに、テーマにまつわる文章を聴いて、読み、その内容を理解します。

**到達目標**

(1)海外旅行や留学の際、想定されるさまざまな場面で必要な語彙を習得する。
(2)正しい発音とイントネーションを身に付け、音読することができる。
(3)テーマごとに、まとまった内容の文章を聴いて、読み、理解することができる。

**成績評価**

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 60% | 到達目標(3)については、期末試験によって評価する。 |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 40% | 到達目標(1)については、授業内の小テスト(20%)、到達目標(2)については、授業中の活動への積極的な参加(20%)によって評価する。 |

授業を４回以上欠席した場合は、評価の対象となりません。また、３０分以上の遅刻は欠席扱いとなります。授業中は携帯電話等の通信機器は鞄に入れる必要があります。また、居眠りや私語、内職等は減点対象となります。

**授業外学習**

毎週末までに、授業内容に関して、語彙の確認とテキストの音読をする習慣を付けてください。

**教科書**

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | Communicate Abroad | Simon Cookson, Chihiro Tajima | センゲージ・ラーニング | 978-4-86312-277-2 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

英和辞書または英英辞書は毎回忘れずに持参すること。

**参考書**

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

**前提学力等**

**履修資格**

| 講義名 | 英語IVB（展開コース）（人文③） | | | | | | | 担当教員 | 菰田　真由美 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110762 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 201ENG204 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | Introduction/授業概要 | 授業の進め方等の説明/ウォームアップ |
| 第2回 | Unit7: What Should I Talk About? | 導入、語彙確認、音読活動 |
| 第3回 | Unit7: What Should I Talk About? | パッセージの内容理解、質問応答、応用表現 |
| 第4回 | Unit8: I Feel Homesick | 小テスト、導入、語彙確認、音読活動 |
| 第5回 | Unit8: I Feel Homesick | パッセージの内容理解、質問応答、応用表現 |
| 第6回 | Unit9: How Do I Order Food? | 小テスト、導入、語彙確認、音読活動 |
| 第7回 | Unit9: How Do I Order Food? | パッセージの内容理解、質問応答、応用表現 |
| 第8回 | 復習とまとめ① | 小テスト、Unit 7, 8, 9のまとめ |
| 第9回 | Unit10: I Lost My Passport | 導入、語彙確認、音読活動 |
| 第10回 | Unit10: I Lost My Passport | パッセージの内容理解、質問応答、応用表現 |
| 第11回 | Unit11: I Need to Go to Hospital | 小テスト、導入、語彙確認、音読活動 |
| 第12回 | Unit11: I Need to Go to Hospital | パッセージの内容理解、質問応答、応用表現 |
| 第13回 | Unit12: I Don't Want to Leave | 小テスト、導入、語彙確認、音読活動 |
| 第14回 | Unit12: I Don't Want to Leave | パッセージの内容理解、質問応答、応用表現 |
| 第15回 | 復習とまとめ② | 小テスト、Unit 10, 11, 12のまとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| 授業内の学習だけで英語力を身に付けることは難しいので、隙間時間等を利用して語彙力の定着やリスニング力の養成に努めて下さい。具体的な教材や学習方法についてのアドバイスを行いますので、気軽に質問してください。 |

| 講義名 | 英語IVA（展開コース）（人文④） | | | | | | | 担当教員 | 渡　寛法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110771 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 201ENG203 | | | | | | | | |

**授業概要**

本授業は、英語の発音の仕方を学び、TOEICリスニング・セクションのスコアアップを目指します。英語力の基礎は発音力です。なぜ日本人は英語を聞き取れないのか、また逆に、なぜ日本人の話す英語（ジャングリッシュ）は聞き取ってもらえないのか。伝わらないカタカナ発音と通じる英語発音の違いを理解することで、リスニング能力だけでなくスピーキング能力も育成します。授業では、教科書を用いて音読やシャドーイングなど英語を声に出して練習し、ペアワークやグループワークで実際に英語を使う訓練も積み重ねていきます。

**到達目標**

（１）英語発音の特徴を理解し、TOEICレベルのリスニング問題を聞き取れる。
（２）TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。
（３）TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。

**成績評価**

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 60 | 到達目標（１）に関しては、期末試験で評価します（60%）。 |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 40 | 到達目標（２）に関しては、授業中の音読活動やペア、グループワークによって評価し（20%）、到達目標（３）に関しては、各回の小テストで評価します（20%）。 |

出欠状況は毎回確認します。授業を４回欠席した場合、成績評価はされませんので注意してください。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。

**授業外学習**

毎回授業の冒頭に、確認小テストがありますので、復習をかねて家で勉強してきてください。

**教科書**

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 『Listening Steps』 | 米山明日香 / Lindsay Wells 著 | 金星堂 | 978-4-7647-4039-6 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

初回授業では音読のタイムトライアルなどを行うので、スマートフォンを持ってきてください。

**参考書**

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

**前提学力等**

**履修資格**

| 講義名 | 英語IVA（展開コース）（人文④） | | | | | | | 担当教員 | 渡　寛法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110771 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 201ENG203 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | オリエンテーション | 自己紹介、授業の進め方についての説明、ワークシートの記入。 |
| 第2回 | Unit 1 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第3回 | Unit 2 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第4回 | Unit 3 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第5回 | Unit 4 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第6回 | Unit 5 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第7回 | Unit 6 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第8回 | Unit 7 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第9回 | Unit 8 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第10回 | Unit 9 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第11回 | Unit 10 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第12回 | Unit 11 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第13回 | Unit 12 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第14回 | Unit 13 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| 第15回 | Unit 14 | テキストの問題演習と音読活動を行う。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| 英語学習の基本は音読です。まずは教科書にでてくる英文をスラスラ声に出して読めるようにトレーニングしていきましょう！ |

| 講義名 | 英語IVB（展開コース）（人文④） | | | | | | | 担当教員 | 渡　寛法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110772 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 201ENG204 | | | | | | | | |

## 授業概要

TEDからの素材を使い、英文を読み、Video教材を視聴することで、英語の読解力と聴解力を伸ばす。また、批判的にテキストを読み、聞く力を養い、知的レベルの高いコミュニケーションに必要な教養を深める。英語を読み、聞くだけの受け身の授業ではなく、教科書の文章をもとに、英語を書き、話す際の表現力をさらに向上させることを目標とする。毎回の授業において、音読により弱強や強弱の英語独自のリズムに慣れ親しむ。

## 到達目標

①テキストの英文を正確に理解できる。
②テキストの英文に関する問題に、英語で答えることができる。
③テキストを批判的に読み、自分の考えを英語で述べることができる。
④正しい文法を身につけ、英語を書くことができる。
⑤正しい発音を身につける。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 40% | 到達目標①と④について試験を行う。 |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 60% | 到達目標①と④に関し、2回小テストを行い、評価の30%とする。<br>到達目標②と③に関しては、毎回の宿題と授業でのプレゼンテーションをもとに、評価の30%とする。 |

総授業回数の3分の1以上欠席した場合、評価の対象としない。
30分以上の遅刻は認めない。
遅刻3回で1回の欠席扱いとする。

## 授業外学習

教科書のテキストを批判的に読み、設問に答えてくることで予習をしっかり行うこと。
TOEIC対策も兼ねた語彙と文法に関する問題プリントも毎回配付するので、解答してくること。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | Keynote 2 | David Bohlke | Cengage | 9781305965041 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

随時、授業中にプリントを配付する。

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 英語IVB（展開コース）（人文④） | | | | | | | 担当教員 | 渡　寛法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110772 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 201ENG204 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | Introduction | 英語IVAで学んだことの復習 |
| 第2回 | Unit 7. Lessons A, B, and C | 教科書の練習問題<br>覚えておくべき、使える英語表現の演習 |
| 第3回 | Unit 7. Lessons E and D | 教科書の練習問題<br>覚えておくべき、使える英語表現の演習 |
| 第4回 | Unit 8.  Lessons A, B, and C | 教科書の練習問題<br>覚えておくべき、使える英語表現の演習 |
| 第5回 | Unit 8. Lessons E and D | 教科書の練習問題<br>覚えておくべき、使える英語表現の演習 |
| 第6回 | Unit 9.  Lessons A, B, and C | 教科書の練習問題<br>覚えておくべき、使える英語表現の演習 |
| 第7回 | Unit 9. Lessons E and D | 教科書の練習問題<br>覚えておくべき、使える英語表現の演習 |
| 第8回 | 1st Quiz and Review | 第1回小テスト<br>これまでの復習 |
| 第9回 | Unit 10.  Lessons A, B, and C | 教科書の練習問題<br>覚えておくべき、使える英語表現の演習 |
| 第10回 | Unit 10. Lessons E and D | 教科書の練習問題<br>覚えておくべき、使える英語表現の演習 |
| 第11回 | Unit 11.  Lessons A, B, and C | 教科書の練習問題<br>覚えておくべき、使える英語表現の演習 |
| 第12回 | Unit 11. Lessons E and D | 教科書の練習問題<br>覚えておくべき、使える英語表現の演習 |
| 第13回 | 2nd Quiz and Review | 第2回小テスト<br>これまでの復習 |
| 第14回 | Unit 12.  Lessons A, B, and C | 教科書の練習問題<br>覚えておくべき、使える英語表現の演習 |
| 第15回 | Unit 12. Lessons E and D | 教科書の練習問題<br>覚えておくべき、使える英語表現の演習 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| 英和辞書だけでなく、英英辞書も持参すること。 |

| 講義名 | 英語IVA（展開コース）（人文⑤） | | | | | | | 担当教員 | 坂本　輝世 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110781 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 201ENG203 | | | | | | | | |

## 授業概要

この授業で用いるテキストは、「書きたくなる、あるいは書くにふさわしいような話題について」、「聞いたり話したり、という口頭コミュニケーション活動も行いながら」、「クラスメートとアドバイスを交換しながら」、「英語的なパラグラフとして表現する練習をする」ために作られたものである。クラスでは、さまざまなアクティビティーによって、ライティングとスピーキングを中心に英語の運用能力を総合的に高めることを目標とする。また、読むことでの英語のインプットを増やすために、易しい多読用図書を読んでリーディング・ジャーナルに記録していく。課題やクラスでのアクティビティーに積極的に取り組んで、英語力を伸ばしていってもらいたい。

## 到達目標

（1）英語のパラグラフを書く力を養う。
（2）多読によって英語を英語のまま読めるようになる。
（3）自分が書いた英文を発表する中で、相手に伝わるスピーキング力を身につける。
（4）積極的に英語でコミュニケーションする経験を積む。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 100% | 到達目標（1）について、ライティング課題（40%）によって評価する。<br>到達目標（2）について、リーディング・ジャーナル（20%）によって評価する。<br>到達目標（3）について、Oral presentation（20%）によって評価する。 |

正当な理由がなく全クラスの１／３以上欠席した場合、評価の対象としません。なお、遅刻３回で欠席１回、30分以上の遅刻は欠席として扱います。

## 授業外学習

語学の学習は、週１回のクラスだけではできません。多読などの自宅学習に積極的に取り組んでください。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 構造から学べるパラグラフライティング入門 | 静 哲人 | 松柏社 | 9784881985373 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

教科書は、必ず初回授業から持ってくること。英和・和英辞典は、電子辞書または紙の辞書を準備しておくこと。

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

英語が苦手だという自覚のある人は、できるだけ早く個人面談に来てください。特別扱いはしませんが、アドバイスと応援をします。

## 履修資格

| 講義名 | 英語IVA（展開コース）（人文⑤） | | | | | | | 担当教員 | 坂本　輝世 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110781 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 201ENG203 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | イントロダクション | 授業の進め方・評価方法の説明、自己紹介、English activities |
| 第2回 | Unit 1 A Paragraph as a Product | テキスト内容の確認と発展、English activities |
| 第3回 | Unit 2 Writing a Topic Sentence | テキスト内容の確認と発展、English activities |
| 第4回 | Unit 3 Writing Supporting Sentences | テキスト内容の確認と発展、English activities |
| 第5回 | Unit 4 Writing a Concluding Sentence | テキスト内容の確認と発展、English activities |
| 第6回 | The Process of Paragraph Writing | テキスト内容の確認と発展、English activities |
| 第7回 | Unit 5 Explaining Your Character | テキスト内容の確認と発展、English activities |
| 第8回 | Unit 6 Describing Your Daily Life | テキスト内容の確認と発展、English activities |
| 第9回 | Unit 7 Expressing an Opinion | テキスト内容の確認と発展、English activities |
| 第10回 | Unit 8 Giving Advice and Instructions | テキスト内容の確認と発展、English activities |
| 第11回 | Unit 9 Comparing and Contrasting | テキスト内容の確認と発展、English activities |
| 第12回 | Unit 10 Explaining Japanese Culture | テキスト内容の確認と発展、English activities |
| 第13回 | Unit 11 Describing Data Expressed in Graphs | テキスト内容の確認と発展、English activities |
| 第14回 | Unit 12 Summarizing What You Have Read | テキスト内容の確認と発展、English activities |
| 第15回 | Oral presentation | Summary of the class |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

**担当者から一言**

ライティングは総合力です。リーディングでインプットされた表現をどんどん取り入れ、自分が書いたものを声に出して読み、伝わりやすさを耳で確認し、クラスで口頭発表することでフィードバックを得られます。クラスメートの書いたものを参考にし、お互いにアドバイスし合って、英語を

| 講義名 | 英語IVB（展開コース）（人文⑤） | | | | | | | 担当教員 | 坂本　輝世 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110782 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 201ENG204 | | | | | | | | |

## 授業概要

この授業では、リーディングを中心に英語の全般的な運用力を総合的に高めることを目的とする。テキストは、文化、社会、テクノロジー、環境、経済の５つの分野にわたるトピックを扱ったもので、これを用いて、現代社会のさまざまな側面について、英語で読み、考え、発表する活動に取り組んでもらいたい。また、毎週必ずテキストの音源等を聞いてリスニング・ジャーナルに記録し、クラスでのアクティビティーに積極的に参加することで、リスニングとスピーキングの力も伸ばしていきたい。期末課題として、小グループ単位でテキストの内容についての英語プレゼンテーションを行う。

## 到達目標

（１）必要に応じて辞書を使いながら、英文の内容を確実に理解する力を養う。
（２）英語の音とリズムに慣れ、リスニング力を向上させる。
（３）英語で読んだり調べたりしたトピックについて、その内容を人に伝えるスピーキング力を向上させる。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 25% | 到達目標（１）（３）について、期末プレゼンテーションによって評価する。 |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 75% | 到達目標（１）（２）（３）について、予習（15%）、クイズ（25%）、TOEICスコア（10%）によって評価する。<br>到達目標（２）について、リスニング・ジャーナルの提出（15%）によって評価する。<br>到達目標（３）について、授業への参加度（10%）によって評価する。 |

正当な理由がなく全クラスの１／３以上欠席した場合、評価の対象としません。なお、遅刻３回で欠席１回、30分以上の遅刻は欠席として扱います。

## 授業外学習

語学の学習は、週１回のクラスだけではできません。英語を聞いたり読んだりする活動に、自宅や通学時にも積極的に取り組んでください。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | Understanding Our New Challenges | Dave Rear, 杉藤久志 | 成美堂 | 9784791934263 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

英和辞典（電子辞書または紙の辞書）と教科書は、必ず初回授業から持ってくること。

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 英語IVB（展開コース）（人文⑤） | | | | | | | 担当教員 | 坂本　輝世 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1110782 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 201ENG204 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | イントロダクション | 授業の進め方の説明<br>担当ユニットの決定 |
| 第2回 | Group activities | 担当ユニットの内容確認と発表に向けての話し合い<br>English activities |
| 第3回 | Unit #1 | クイズ<br>テキスト内容の確認と発展 |
| 第4回 | Unit #2 | クイズ<br>テキスト内容の確認と発展 |
| 第5回 | Unit #3 | クイズ<br>テキスト内容の確認と発展 |
| 第6回 | Unit #4 | クイズ<br>テキスト内容の確認と発展 |
| 第7回 | Unit #5 | クイズ<br>テキスト内容の確認と発展 |
| 第8回 | Mid-term preview | グループ発表の準備状況確認<br>English activities |
| 第9回 | Unit #6 | クイズ<br>テキスト内容の確認と発展 |
| 第10回 | Unit #7 | クイズ<br>テキスト内容の確認と発展 |
| 第11回 | Unit #8 | クイズ<br>テキスト内容の確認と発展 |
| 第12回 | Unit #9 | クイズ<br>テキスト内容の確認と発展 |
| 第13回 | Unit #10 | クイズ<br>テキスト内容の確認と発展 |
| 第14回 | Unit #11 | クイズ<br>テキスト内容の確認と発展 |
| 第15回 | 期末プレゼンテーション準備 | クイズ、English activities |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| 専門分野の国際的な研究を理解し、それに基づいて自分の研究を進めるためには、英語の文章を確実に読み取る力が必要です。また、理解した内容をわかりやすく人に伝える力も欠かせません。このクラスで、そのための第一歩を踏み出しましょう！ |

| 講義名 | 情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文a) | | | | | | | 担当教員 | 山本　洋紀※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1130090 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101INF102 | | | | | | | | |

## 授業概要

情報機器はありふれた存在になり、これらを活用し、効率的に仕事をこなしていくことが今後とも求められている。本演習では今後学習や研究を行っていく上で必要とされるレポート作成や論文作成に役立つワープロおよび表計算を中心とした情報処理技術の習得を目指す。使用するOSはWindowsとし、学習用のアプリケーションとしてはWord、Excelなどを用いる。また技術的な面だけでなく、情報化社会において必要な倫理観を養うことも目指す。

## 到達目標

（1）本学演習室が利用できるように環境を整えること。
（2）情報化社会における倫理について自分の考えが持てるようになること。
（3）情報を発信する際必要となるルールやマナーを身につけること。
（4）ワープロの機能を活用し文書作成ができるようになること。
（5）表計算ソフトの仕組みを理解し、簡単なデータ集計ができるようになること。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 100 | 各回の出席および演習課題の提出(80%)と最終課題の達成度(20%）。 |

## 授業外学習

各回の演習課題が授業時間内に提出できなかった場合は、必ず、次回までに提出すること。また、進度に応じて宿題を課す。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

初回講義時に指示する。

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文a) | | | | | | | 担当教員 | 山本　洋紀※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1130090 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101INF102 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | 講義概要 | 演習室利用上の注意、環境設定 |
| 第2回 | 図書検索 | 文献検索の方法 |
| 第3回 | Windowsの基本 | 基本操作、タッチタイピング、日本語入力 |
| 第4回 | 電子メール | 電子メールのしくみ、マナー |
| 第5回 | 情報倫理（１） | インターネットの利用と安全性 |
| 第6回 | 情報倫理（２） | 著作権、研究倫理 |
| 第7回 | WORDによる文書作成（１） | 基本操作 |
| 第8回 | WORDによる文書作成（２） | 書式 |
| 第9回 | WORDによる文書作成（３） | 表 |
| 第10回 | WORDによる文書作成（４） | 図 |
| 第11回 | Excelによる表計算（１） | 基本操作 |
| 第12回 | Excelによる表計算（２） | 書式 |
| 第13回 | Excelによる表計算（３） | 関数 |
| 第14回 | Excelによる表計算（４） | グラフ |
| 第15回 | 総合演習 | WordとExcelの連携による文書作成 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文b) | | | | | | | 担当教員 | 亀田　彰喜※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1130100 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 101INF102 | | | | | | | | |

**授業概要**

情報技術の習得は、我々の生活においても必要不可欠なファクターである。まして、大学で学問をしていく上で、情報処理のリテラシーを習得しておくことは今や必須である。そこで、本講では高年次で開講される講義や演習及び実習に必要とされる情報技術、すなわち、Webブラウザの操作と活用、電子メール、文書処理などをMS Windows環境で習得するとともに情報倫理についても学ぶ。さらに、レポートや学術論文の作成の基本を習得し、プレゼンテーションソフトなどにより、学術論文発表の手法を習得する。

**到達目標**

（1）情報ネットワークの活用によって学術情報の検索ができ、文献検索により学術図書や学術情報の検索ができることともに、情報倫理についても収得すること。
（2）学術論文作成のため情報を検索で得た情報を加工し、統計処理し、プレゼンテーションソフト等によって発表でき、さらに、検索で得られた情報によりレポート作成や学術論文を作成する基本を習得すること。

**成績評価**

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | 50% | 学術論文作成のため情報を検索で得た情報を加工し、統計処理し、プレゼンテーションソフト等によって発表でき、さらに、検索で得られた情報によりレポート作成や学術論文を作成する基本を習得すること。 |
| 上記以外 | 50% | 情報ネットワークの活用によって学術情報の検索ができ、文献検索により学術図書や学術情報の検索ができることともに、情報倫理についても収得すること。 |

**授業外学習**

**教科書**

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 情報学 | 勝木・亀田 | 多賀出版 | |
| 2 | 現代の情報処理 | 亀田彰喜 | 朝倉書店 | |
| 3 | | | | |

**参考書**

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

**前提学力等**

初歩的な統計処理、Webによる情報検索、パソコンによる文書処理が前提

**履修資格**

| 講義名 | 情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文b) | | | | | | | 担当教員 | 亀田　彰喜※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1130100 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 101INF102 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | 基本構成と操作 | コンピュータの基本構成と操作 |
| 第2回 | アカウントの設定 | 情報ネットワークの理論とアカウントの設定 |
| 第3回 | システムの操作 | 情報システムとOSおよびファイル操作 |
| 第4回 | 情報検索 | Webブラウザの操作と情報検索とネットワーク上でのセキュリティ |
| 第5回 | 情報収集 | インターネットによる情報収集とウィルスおよびスパイウエア |
| 第6回 | 文献情報検索 | 図書情報検索と論文および著作等の情報検索 |
| 第7回 | 情報倫理 | 電子メールの利用と情報倫理としてのメールでのマナー |
| 第8回 | 文書作成 | 文書作成ソフトによるレポート作成の基本の習得 |
| 第9回 | レポートの基本 | レポートと学術論文の概念と論文作成の基本 |
| 第10回 | 情報収集と加工 | レポートと学術論文の書式と情報収集と加工の基本 |
| 第11回 | 画像等の処理 | レポートと学術論文の書式と画像等の処理の基本 |
| 第12回 | 統計データ処理 | レポートと学術論文の書式と統計データ処理の基本 |
| 第13回 | 論文の作成のまとめ | レポートと学術論文の作成のまとめ |
| 第14回 | 課題の作成 | レポート課題の作成 |
| 第15回 | 課題のまとめ | レポート課題と学術論文発表のまとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文c) | | | | | | | 担当教員 | 山本　洋紀※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1130110 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101INF102 | | | | | | | | |

## 授業概要

情報機器はありふれた存在になり、これらを活用し、効率的に仕事をこなしていくことが今後とも求められている。本演習では今後学習や研究を行っていく上で必要とされるレポート作成や論文作成に役立つワープロおよび表計算を中心とした情報処理技術の習得を目指す。使用するOSはWindowsとし、学習用のアプリケーションとしてはWord、Excelなどを用いる。また技術的な面だけでなく、情報化社会において必要な倫理観を養うことも目指す。

## 到達目標

（1）本学演習室が利用できるように環境を整えること。
（2）情報化社会における倫理について自分の考えが持てるようになること。
（3）情報を発信する際必要となるルールやマナーを身につけること。
（4）ワープロの機能を活用し文書作成ができるようになること。
（5）表計算ソフトの仕組みを理解し、簡単なデータ集計ができるようになること。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 100 | 各回の出席および演習課題の提出(80%)と最終課題の達成度(20%）。 |

## 授業外学習

各回の演習課題が授業時間内に提出できなかった場合は、必ず、次回までに提出すること。また、進度に応じて宿題を課す。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

初回講義時に指示する。

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文c) | | | | | | | 担当教員 | 山本　洋紀※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1130110 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101INF102 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | 講義概要 | 演習室利用上の注意、環境設定 |
| 第2回 | 図書検索 | 文献検索の方法 |
| 第3回 | Windowsの基本 | 基本操作、タッチタイピング、日本語入力 |
| 第4回 | 電子メール | 電子メールのしくみ、マナー |
| 第5回 | 情報倫理（１） | インターネットの利用と安全性 |
| 第6回 | 情報倫理（２） | 著作権、研究倫理 |
| 第7回 | WORDによる文書作成（１） | 基本操作 |
| 第8回 | WORDによる文書作成（２） | 書式 |
| 第9回 | WORDによる文書作成（３） | 表 |
| 第10回 | WORDによる文書作成（４） | 図 |
| 第11回 | Excelによる表計算（１） | 基本操作 |
| 第12回 | Excelによる表計算（２） | 書式 |
| 第13回 | Excelによる表計算（３） | 関数 |
| 第14回 | Excelによる表計算（４） | グラフ |
| 第15回 | 総合演習 | WordとExcelの連携による文書作成 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文d) | | | | | | | 担当教員 | 山本　洋紀※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1130120 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101INF102 | | | | | | | | |

## 授業概要

情報機器はありふれた存在になり、これらを活用し、効率的に仕事をこなしていくことが今後とも求められている。本演習では今後学習や研究を行っていく上で必要とされるレポート作成や論文作成に役立つワープロおよび表計算を中心とした情報処理技術の習得を目指す。使用するOSはWindowsとし、学習用のアプリケーションとしてはWord、Excelなどを用いる。また技術的な面だけでなく、情報化社会において必要な倫理観を養うことも目指す。

## 到達目標

（1）本学演習室が利用できるように環境を整えること。
（2）情報化社会における倫理について自分の考えが持てるようになること。
（3）情報を発信する際必要となるルールやマナーを身につけること。
（4）ワープロの機能を活用し文書作成ができるようになること。
（5）表計算ソフトの仕組みを理解し、簡単なデータ集計ができるようになること。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 100 | 各回の出席および演習課題の提出(80%)と最終課題の達成度(20%）。 |

## 授業外学習

各回の演習課題が授業時間内に提出できなかった場合は、必ず、次回までに提出すること。また、進度に応じて宿題を課す。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

初回講義時に指示する。

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文d) | | | | | | | 担当教員 | 山本　洋紀※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1130120 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101INF102 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | 講義概要 | 演習室利用上の注意、環境設定 |
| 第2回 | 図書検索 | 文献検索の方法 |
| 第3回 | Windowsの基本 | 基本操作、タッチタイピング、日本語入力 |
| 第4回 | 電子メール | 電子メールのしくみ、マナー |
| 第5回 | 情報倫理（１） | インターネットの利用と安全性 |
| 第6回 | 情報倫理（２） | 著作権、研究倫理 |
| 第7回 | WORDによる文書作成（１） | 基本操作 |
| 第8回 | WORDによる文書作成（２） | 書式 |
| 第9回 | WORDによる文書作成（３） | 表 |
| 第10回 | WORDによる文書作成（４） | 図 |
| 第11回 | Excelによる表計算（１） | 基本操作 |
| 第12回 | Excelによる表計算（２） | 書式 |
| 第13回 | Excelによる表計算（３） | 関数 |
| 第14回 | Excelによる表計算（４） | グラフ |
| 第15回 | 総合演習 | WordとExcelの連携による文書作成 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 情報科学概論（人文b） | | | | | | | 担当教員 | 亀田　彰喜※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1130200 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 101INF101 | | | | | | | | |

**授業概要**

インターネットや電子メールなどの情報技術の基本的な技術の習得の下に、さらに高年次での講義や演習及び実習で必要となるデータ処理の手法について学ぶ。特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について、表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ。さらに、学術論文作成のためのデータ処理と論文発表の手法などについても学ぶ。

**到達目標**

（1）Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。
（2）データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

**成績評価**

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | 50% | Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得し、レポート課題を提出する。 |
| 上記以外 | 50% | データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。 |

**授業外学習**

**教科書**

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 現代の情報処理 | 亀田彰喜 | 朝倉書店 | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

**参考書**

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

**前提学力等**

初歩的な表計算処理、レポートと学術論文の基本概念と書式、コンピュータによる統計処理が前提

**履修資格**

| 講義名 | 情報科学概論（人文b） | | | | | | | 担当教員 | 亀田　彰喜※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1130200 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 101INF101 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | 情報社会と倫理 | 情報化社会の問題点と情報倫理 |
| 第2回 | フォルダー作成 | データ処理とファイル処理 |
| 第3回 | データ処理の基本 | 研究の基本とデータ処理の基本 |
| 第4回 | レポート作成の基本 | プレゼンテーションソフトの基本と作成 |
| 第5回 | レポート作成の応用 | プレゼンテーションソフトの活用 |
| 第6回 | Webの基本 | Webデザインの基本と理論 |
| 第7回 | Webの応用 | Webデザインの応用と活用 |
| 第8回 | Webと画像 | Webデザインの画像の応用と活用 |
| 第9回 | 統計処理の基本 | 学術論文の概念と統計処理の基本 |
| 第10回 | 統計データ処理 | 学術論文の書式と統計データ処理の基本 |
| 第11回 | グラフの処理 | 学術論文の書式と統計処理とグラフの処理 |
| 第12回 | 回帰分析 | 学術論文の書式と回帰分析 |
| 第13回 | データの検定 | 学術論文の作成とデータの検定 |
| 第14回 | 小論文の作成 | 課題レポートおよび小論文の作成 |
| 第15回 | 論文作成のまとめ | 課題レポートと論文作成のまとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 情報科学概論（人文a） | | | | | | | 担当教員 | 山本　洋紀※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1130210 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101INF101 | | | | | | | | |

**授業概要**

ンピュータによる文章作成やインターネット操作などの基礎的な情報技術の習得の下に、さらに高年次での演習及び学術論文作成で必要となるデータ処理の基本的手法について学ぶ。特に、インターネットなどから得られる各種統計データを表計算ソフトを利用して加工し、関数による計算処理や基礎的な統計手法などを用いて解析する技法について学ぶ。さらに、これらデータを活用した学術論文作成のための基本的な手法などについても学ぶ。

**到達目標**

（１）表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。
（２）データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

**成績評価**

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 100 | 各回の出席及び演習課題の提出（８０%）と最終課題の達成度（２０%） |

**授業外学習**

毎回行う演習課題が授業時間内に終了しない場合、必ず、次回までに提出すること。また、適宜、宿題を課す。

**教科書**

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | Excelで学ぶ統計･データ解析入門 | 中村永友・山田智哉・金明哲 | 丸善出版 | 978-4-621-08297-3 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

**参考書**

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

**前提学力等**

Excelを用いた初歩的な表計算とグラフ作成能力。

**履修資格**

| 講義名 | 情報科学概論（人文a） | | | | | | | 担当教員 | 山本　洋紀※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1130210 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101INF101 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | エクセルの基本操作1 | 計算、数式 |
| 第2回 | エクセルの基本操作2 | グラフ |
| 第3回 | データの抽出・集計1 | データの並べ替え<br>集計 |
| 第4回 | データの抽出・集計2 | 自動集計<br>クロス表 |
| 第5回 | データの特徴をつかむ1 | 合計<br>比率 |
| 第6回 | データの特徴をつかむ2 | 平均<br>モード |
| 第7回 | データの特徴をつかむ3 | 分散<br>標準偏差 |
| 第8回 | 量的データの関連性を見る1 | 散布図<br>相関係数 |
| 第9回 | 量的データの関連性を見る2 | 相関係数の定義<br>類似度 |
| 第10回 | 量的データの関連性を見る3 | 相関解析演習 |
| 第11回 | 質的データの関連性を見る1 | クロス表とその視覚化<br>期待度数 |
| 第12回 | 質的データの関連性を見る2 | カイ２乗値<br>統計検定 |
| 第13回 | 回帰分析と予測1 | 単回帰分析<br>残差と決定係数 |
| 第14回 | 回帰分析と予測2 | 時系列データの分析<br>回帰係数の計算 |
| 第15回 | 最終課題 | 実データを用いたクロス表分析、相関解析、回帰分析の演習 |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 情報科学概論（人文c） | | | | | | | 担当教員 | 山本　洋紀※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1130220 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101INF101 | | | | | | | | |

**授業概要**

ンピュータによる文章作成やインターネット操作などの基礎的な情報技術の習得の下に、さらに高年次での演習及び学術論文作成で必要となるデータ処理の基本的手法について学ぶ。特に、インターネットなどから得られる各種統計データを表計算ソフトを利用して加工し、関数による計算処理や基礎的な統計手法などを用いて解析する技法について学ぶ。さらに、これらデータを活用した学術論文作成のための基本的な手法などについても学ぶ。

**到達目標**

（1）表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。
（2）データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

**成績評価**

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 100 | 各回の出席及び演習課題の提出（８０%）と最終課題の達成度（２０%） |

**授業外学習**

毎回行う演習課題が授業時間内に終了しない場合、必ず、次回までに提出すること。また、適宜、宿題を課す。

**教科書**

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | Excelで学ぶ統計･データ解析入門 | 中村永友・山田智哉・金明哲 | 丸善出版 | 978-4-621-08297-3 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

**参考書**

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

**前提学力等**

Excelを用いた初歩的な表計算とグラフ作成能力。

**履修資格**

| 講義名 | 情報科学概論（人文c） | | | | | | | 担当教員 | 山本　洋紀※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1130220 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 101INF101 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | エクセルの基本操作1 | 計算、数式 |
| 第2回 | エクセルの基本操作2 | グラフ |
| 第3回 | データの抽出・集計1 | データの並べ替え<br>集計 |
| 第4回 | データの抽出・集計2 | 自動集計<br>クロス表 |
| 第5回 | データの特徴をつかむ1 | 合計<br>比率 |
| 第6回 | データの特徴をつかむ2 | 平均<br>モード |
| 第7回 | データの特徴をつかむ3 | 分散<br>標準偏差 |
| 第8回 | 量的データの関連性を見る1 | 散布図<br>相関係数 |
| 第9回 | 量的データの関連性を見る2 | 相関係数の定義<br>類似度 |
| 第10回 | 量的データの関連性を見る3 | 相関解析演習 |
| 第11回 | 質的データの関連性を見る1 | クロス表とその視覚化<br>期待度数 |
| 第12回 | 質的データの関連性を見る2 | カイ２乗値<br>統計検定 |
| 第13回 | 回帰分析と予測1 | 単回帰分析<br>残差と決定係数 |
| 第14回 | 回帰分析と予測2 | 時系列データの分析<br>回帰係数の計算 |
| 第15回 | 最終課題 | 実データを用いたクロス表分析、相関解析、回帰分析の演習 |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 情報科学概論（人文d） | | | | | | | 担当教員 | 亀田　彰喜※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1130230 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 101INF101 | | | | | | | | |

**授業概要**

インターネットや電子メールなどの情報技術の基本的な技術の習得の下に、さらに高年次での講義や演習及び実習で必要となるデータ処理の手法について学ぶ。特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について、表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ。さらに、学術論文作成のためのデータ処理と論文発表の手法などについても学ぶ。

**到達目標**

（1）Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。
（2）データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

**成績評価**

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | 50% | Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得し、レポート課題を提出する。 |
| 上記以外 | 50% | データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。 |

**授業外学習**

**教科書**

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 情報学 | 勝木・亀田 | 多賀出版 | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

**参考書**

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

**前提学力等**

初歩的な表計算処理、レポートと学術論文の基本概念と書式、コンピュータによる統計処理が前提

**履修資格**

| 講義名 | 情報科学概論（人文d） | | | | | | | 担当教員 | 亀田　彰喜※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1130230 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 101INF101 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | 情報社会と倫理 | 情報化社会の問題点と情報倫理 |
| 第2回 | フォルダー作成 | データ処理とファイル処理 |
| 第3回 | データ処理の基本 | 研究の基本とデータ処理の基本 |
| 第4回 | レポート作成の基本 | プレゼンテーションソフトの基本と作成 |
| 第5回 | レポート作成の応用 | プレゼンテーションソフトの活用 |
| 第6回 | Webの基本 | Webデザインの基本と理論 |
| 第7回 | Webの応用 | Webデザインの応用と活用 |
| 第8回 | Webと画像 | Webデザインの画像の応用と活用 |
| 第9回 | 統計処理の基本 | 学術論文の概念と統計処理の基本 |
| 第10回 | 統計データ処理 | 学術論文の書式と統計データ処理の基本 |
| 第11回 | グラフの処理 | 学術論文の書式と統計処理とグラフの処理 |
| 第12回 | 回帰分析 | 学術論文の書式と回帰分析 |
| 第13回 | データの検定 | 学術論文の作成とデータの検定 |
| 第14回 | 小論文の作成 | 課題レポートおよび小論文の作成 |
| 第15回 | 論文作成のまとめ | 課題レポートと論文作成のまとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 人間探求学（生活デザイン） | | | | | | | 担当教員 | 学科教員／印南　比呂志／面矢　慎介／佐々木　一泰／藤木　庸介／南　政宏／宮本　雅子／森下　あおい／山田　歩／横田　尚美 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1150360 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 101HUM101 | | | | | | | | |

## 授業概要

この講義は、学生自らが「人間」を探求し、新しい視点を発想・発見することを支援する。これは、対話型の少人数教育の機会を増やし、個々の学生の質や能力、理解度に応じた学習を支援するものである。学科の１年生を少人数グループ（３～４名）に分け、担当教員を割り当てる。学期を前半と後半に分け、各グループは前半と後半とでそれぞれ別の教員から指導を受ける。

## 到達目標

(1)自らの考えを他者にわかりやすく説明する能力や、他者の考えをじっくり理解する能力を養う。
(2)多様なコミュニケーション手段や自己表現活動によって発信し、応答し、共感し、批判しあえる能力を身につける。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 100 | 出席を重視する。3回以上の欠席者は授業期間終了後に呼び出し、面談して個別に指導する。成績には授業での発言、レポート、プレゼンテーション等に対する各担当教員の評価を加味する。 |

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

参考書：担当教員が指示する。

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 人間探求学（生活デザイン） | | | | | | | 担当教員 | 学科教員／印南　比呂志／面矢　慎介／佐々木　一泰／藤木　庸介／南　政宏／宮本　雅子／森下　あおい／山田　歩／横田　尚美 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1150360 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 101HUM101 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | オリエンレーション | 履修計画も含め大学で学ぶべき内容について理解を深める。 |
| 第2回 | レポートの書き方 | 講義等の課題として出されるレポートの書き方について解説する。 |
| 第3回 | 図書館の利用方法 | 図書館の利用の仕方、図書の検索方法についての説明を受ける。 |
| 第4回 | 消費者問題について | 消費者問題に関する講義を受ける。 |
| 第5回 | 防犯について | 防犯に関する講義を受ける。 |
| 第6回 | 人権学習 | 人権に関する講義を受ける。 |
| 第7回 | グループワークA1 | 教員一人当たり３～4名のグループに分かれ指導を受ける。（計　8回） |
| 第8回 | グループワークA2 | 教員一人当たり３～4名のグループに分かれ指導を受ける。（計　8回） |
| 第9回 | グループワークA3 | 教員一人当たり３～4名のグループに分かれ指導を受ける。（計　8回） |
| 第10回 | グループワークA4 | 教員一人当たり３～4名のグループに分かれ指導を受ける。（計　8回） |
| 第11回 | グループワークB1 | 教員一人当たり３～4名のグループに分かれ指導を受ける。（計　8回） |
| 第12回 | グループワークB2 | 教員一人当たり３～4名のグループに分かれ指導を受ける。（計　8回） |
| 第13回 | グループワークB3 | 教員一人当たり３～4名のグループに分かれ指導を受ける。（計　8回） |
| 第14回 | グループワークB4 | 教員一人当たり３～4名のグループに分かれ指導を受ける。（計　8回） |
| 第15回 | 環境整備活動 | 学部内の環境整備活動を行う。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 川の未来学 | | | | | | | 担当教員 | 村上　修一 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1150451 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | | | | | | | | | |

## 授業概要

本科目は，専門家あるいは一般市民として必ず関わりを有することになる，川の問題をとりあげる。まず，国内における川の未来像の決め方について現状を理解する。次に，川の未来像の決め方における問題点を特定できるようになる。その上で，川の未来像の決め方に対して改善策を案出できるようになる。

## 到達目標

(1) 国内における川の未来像の決め方について現状を理解する。
(2) 川の未来像の決め方における問題点を特定できるようになる。
(3) 川の未来像の決め方に対して改善策を案出できるようになる。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 0 | |
| レポート課題 | 0 | |
| 上記以外 | 100 | 到達目標（1）： ワークシート1（30%）<br>到達目標（2）： ワークシート2（30%）<br>到達目標（3）： ワークシート3（40%） |

ワークシート1，2，3は，それぞれ第5，10，14回の授業時間内に履修生が記述し，回収される。第6，11，15回に解説が行われ，履修生は理解を深める。

## 授業外学習

授業時間内に紹介される参考図書資料や参考サイトを閲覧すること。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 第十堰日誌 | 姫野雅義 | 七つ森書館 | 978-4822811426 |
| 2 | 吉野川住民投票―市民参加のレシピ | 武田真一郎 | 東信堂 | 978-4798911922 |
| 3 | 再帰的近代の政治社会学―吉野川可動堰問題と民主主義の実験 | 久保田滋　他 | ミネルヴァ書房 | 978-4623050826 |

授業時間内に参考図書資料や参考サイトを紹介する。

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 川の未来学 | | | | | | | 担当教員 | 村上　修一 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1150451 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | あなたにとって川とは？ | 川との関わりを再認識し，川の未来を考えることの重要性を意識するようになる。 |
| 第2回 | 川の未来像を決める5W1H | 国内における川の未来像の決め方について基本を理解する。 |
| 第3回 | 川の未来像を決める最初の一歩 | 河川整備基本方針の内容を理解する。 |
| 第4回 | 川の未来像を決める具体的な内容とは？ | 河川整備計画の内容を理解する。 |
| 第5回 | ワークシート1 | 国内における川の未来像の決め方について理解したことを書いてみる。 |
| 第6回 | ワークシート1の解説 | 国内における川の未来像の決め方について理解を深める。 |
| 第7回 | これだけは変えられない？ | 川の未来像を決める二重構造－河川整備基本方針と河川整備計画との間に存在する問題点を理解する。 |
| 第8回 | 川は「溝」なのか？ | 河道主義にもとづく川の未来像の決め方について現状と問題点を理解する。 |
| 第9回 | 川の未来像を決める「みんな」とは？ | 流域委員会の現状と問題点を理解する。 |
| 第10回 | ワークシート2 | 川の未来像の決め方における問題点を特定し書いてみる。 |
| 第11回 | ワークシート2の解説 | 川の未来像の決め方における問題点について理解を深める。 |
| 第12回 | 国内の事例にはどのようなヒントがある？ | 川の未来像の決め方はどうあるべきか，新たな方向を示す国内の事例について理解しヒントを得る。 |
| 第13回 | 海外の事例にはどのようなヒントがある？ | 川の未来像の決め方はどうあるべきか，新たな方向を示す海外の事例について理解しヒントを得る。 |
| 第14回 | ワークシート3 | 川の未来像の決め方に対して改善策を案出し書いてみる。 |
| 第15回 | ワークシート3の解説 | 川の未来像の決め方に対する改善策について理解を深める。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 比較住居論 | | | | | | | 担当教員 | 藤木　庸介 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1150460 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 101HUM1761,33RED121,135LAH206 | | | | | | | | |

## 授業概要

世界には、生態や文化、社会の違いにより、地域に固有な（ヴァナキュラーな）さまざまな住まいが存在する。ヴァナキュラーな住まいの空間について、主に中国、東南アジアから西アジア、インド、アフリカ、ヨーロッパの事例を紹介しながら、その形式や技術、住まいに対する思想について解説するとともに、風土、歴史、文化、社会制度、生活様式など多様な観点から、その構成原理を考える。

## 到達目標

(1) 世界の多様な住居のあり方を理解し、事例を挙げて説明ができる。
(2) 人々の生活と住居構成に関する相関性を理解し、説明ができる。
(3) 様々な居住文化のあり方に対して、自らの生活を相対化して位置づけられる。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 100 | 到達目標に挙げた(1)(2)(3)の内容を包含した小テストを２回行い評価する。<br>成績への寄与率は小テストの合計を100%とし、60%以上を合格とする。 |

やむを得ない事由により小テストを欠席する場合には、必ず事前に申し出ること。
また、当日の急病等によって事前の申し出ができずに欠席した場合には、病状に関する診断書を提出すること。
上記以外により小テストを欠席した者は、単位取得を認めない。

## 授業外学習

教科書、並びに授業で配布されるプリントを復読することが望ましい。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 住まいがつたえる世界のくらし-今日の居住文化誌 | 藤木庸介（編） | 世界思想社 | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

教科書は第4回目の授業から使用する。

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

教科書に記載の無い講義内容については、プリントを配布する。

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 比較住居論 | | | | | | | 担当教員 | 藤木　庸介 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1150460 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 101HUM1761,33RED121,135LAH206 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | イントロダクション | 本講義の内容と目的、講義の進め方、評価の方法等を解説する。 |
| 第2回 | 住居構成の基礎 | 建築物の構造や素材といった、住居構成の基礎的な仕組みについて解説する。 |
| 第3回 | 中国の住居（１） | 中国中原、並びに南方の四合院における居住文化と住居構成について解説する。 |
| 第4回 | 中国の住居（２） | 中国中原における窰洞の居住文化と住居構成について解説する。 |
| 第5回 | 中国の住居（３） | 中国内モンゴル自治区におけるゲルの居住文化と住居構成について解説する。 |
| 第6回 | 東アジアの住居 | 台湾北部の山岳少数民族地域・他における居住文化と住居構成について解説する。 |
| 第7回 | 世界のトイレ事情・世界のスラム事情 | 世界におけるトイレ文化、スラム街とそこでの暮らしについて解説する。<br>第１回目の小テストを行う。 |
| 第8回 | 東南アジアの住居（１） | フィリピン北部の山岳少数民族地域における居住文化と住居構成について解説する。 |
| 第9回 | 東南アジアの住居（２） | インドネシア北部の山岳少数民族地域における居住文化と住居構成について解説する。 |
| 第10回 | 南アメリカの住居 | ペルー・ティティカカ湖の浮島における居住文化と住居構成について解説する。 |
| 第11回 | インドの住居 | インド北部・ヴァーラーナシーにおける居住文化と住居構成について解説する。 |
| 第12回 | 西アジアの住居 | かつてイラクにあった家族島における居住文化と住居構成について解説する。 |
| 第13回 | アフリカの住居 | アフリカ北部の居住文化と住居構成について解説する。 |
| 第14回 | イギリスの住居 | イギリス・コッツウォルズの居住文化と住居構成について解説する。 |
| 第15回 | まとめ | 本講義の総括を行い、居住文化と住居構成の多様性について考察を行う。<br>第２回目の小テストを行う。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| 本講義の定員は、原則130名とする。<br>定員を超える受講希望者があった場合には、レポート課題により受講者の選考を行う。 |

| 講義名 | History of Japanese Cinema | | | | | | | 担当教員 | Carl John Boland※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1150540 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | | | | | | | | | |

## 授業概要

'History of Japanese Cinema' is a culture studies course that examines Japan's world-renowned cinematic output over the last one hundred years. The defining developmental periods and 'golden eras' of Japanese cinema will be examined through the work of major studios, auteur directors, and landmark films. The course will contextualise changes within the film industry and aesthetic developments against the socio-cultural background of particular periods (e.g. post-war/late modern, postmodern).

## 到達目標

This course aims to:

1. Deliver a comprehensive introductory course on the history of Japanese narrative cinema; one tailored for students who are not film majors.

2. Instruct students on approaches to film analysis as a means to broaden their study of Japanese society and culture.

3. Encourage students to develop a scholarly appreciation of film.

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 20 | Mid-term paper |
| レポート課題 | 40 | Presentation |
| 上記以外 | 40 | Final Test |

Students are required to complete a film review paper and presentation project. The final test will address key topics and concepts covered in the lectures.

## 授業外学習

This is a lecture-based course. Due to time limitations, only film clips will be screened in class. Students will be provided with access to lecture materials and readings online.

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

No prior film studies knowledge is required. Non-native speakers of English should ideally have a solid intermediate skill level (e.g. TOEFL iBT score of around 70).

## 履修資格

| 講義名 | History of Japanese Cinema | | | | | | | 担当教員 | Carl John Boland※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1150540 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | Introduction | Course Overview. An Introduction to Film Studies: Paradigms, Concepts and Theories. |
| 第2回 | The Birth of an Industry | Early Developments in Japanese Film. Experimentalism and Art Movements. |
| 第3回 | The 1st Golden Age | The 1920's and 1930's: The 1st 'Golden Age' of Japanese Film. Modernist influences. Studios & Genre (Gendai-geki. Jidai-geki) |
| 第4回 | Propaganda & Censorship | National policy films and the motion picture law.<br>Post-war occupation and censorship: Critical reactions in Japanese film. |
| 第5回 | The 2nd Golden Age Part I | Gendai-geki films. Post-occupation humanism in Japanese film. Director case studies: Mikio Naruse, Yasujiro Ozu. |
| 第6回 | The 2nd Golden Age Part 2 | Jidai-geki films. Director case studies: Kenji Mizoguchi, Akira Kurosawa. |
| 第7回 | Voices of Rebellion | Sun Tribe (taiyozoku) films. Japanese 'New Wave' Cinema.<br>Director Case Studies: Shohei Imamura, Nagisa Oshima. |
| 第8回 | Post-Modern Transitions | Studio decline and the rise of independent film. Sex, violence and dark satire in indie film. |
| 第9回 | The Yakuza on Film | A Brief History of Yakuza Films. Director Case Studies: Juzo Itami, Takeshi Kitano. |
| 第10回 | Monsters, Ghosts and Horror | Tokusatsu and Daikaiju Movies. 'Vengeful Spirits'- Narrative themes in Japanese Horror. Nouvelle horror genre and western remakes. |
| 第11回 | A Settled Picture | Genre films and Anime. Current industry Status and notable recent releases. |
| 第12回 | The Fictive Japan in Western Film | Representing Japan in Western Film. Semiotics and film analysis. |
| 第13回 | Japanese Documentary Films | Styles of documentary (non-fiction film). The value of documentary as ethnography. Documenting Japanese society. |
| 第14回 | Group Presentations | Groups will present a critical review of a Japanese film. Class Q&A and feedback. |
| 第15回 | Group Presentations/ Course Review | Groups will present a critical review of a Japanese film. Class Q&A and feedback. Course Review and final questions. |

| 担当者から一言 |
|---|
| Students should be prepared to do some self-study in order to follow the course. This includes completing background readings and watching films. |

| 講義名 | Patterns in Japanese Culture & Society | | | | | | | 担当教員 | Carl John Boland※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1150550 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | | | | | | | | | |

## 授業概要

This introductory Japan studies course sets out to critically examine paradigms that have shaped academic and lay perceptions of Japanese social structures, identity and collective consciousness. The selection of topic domains is intended to underpin a broad based contextual analysis of contemporary social issues facing Japan. Concordantly, this enquiry is supported by an interdisciplinary conceptual framework that draws on salient perspectives from sociology, social psychology and cultural studies. The course adopts a simple unit structure and a lecture / seminar format. Students will be expected to participate actively in seminar discussions.

## 到達目標

1. To introduce the research principles that define interdisciplinary sociocultural studies.
2. To encourage students to adopt an interdisciplinary perspective towards sociocultural studies of Japan.
3. To stimulate informed debate about contemporary issues affecting Japanese society.

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 20 | Seminar Participation |
| レポート課題 | 40 | Essay |
| 上記以外 | 40 | Final Test |

Students are required write an essay based on a relevant topic from the course. The final test will require students to answer topic review questions taken from the seminar classes.

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | Patterns in Japanese Culture & Society | | | | | | | 担当教員 | Carl John Boland※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1150550 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | Lecture 1: Geopolitical History | Course Overview / Interdisciplinary Sociocultural Studies / Geopolitics and the shaping of modern Japan. |
| 第2回 | Seminar 1: Cross-Cultural Influence | Group work and class discussions. Iitoko-dori / From Japonisme to Cool Japan. |
| 第3回 | Lecture 2: Japan Studies | Japan Studies: Paradigms & Debates / Cultural Relativism / Emic & Etic Concepts. |
| 第4回 | Seminar 2: 'In the Field' | Ethnography and Fieldwork. Group work and discussions based on lecture 2 and HW readings. |
| 第5回 | Lecture 3: The Empire of Signs | Semiotics and Cultural Studies / Filmic Representations of Japan. |
| 第6回 | Seminar 3: Food Culture | Analysing Japanese Food Culture / Group work and discussions based on lecture 3 and HW readings. |
| 第7回 | Lecture 4: Lensing the Media | Patterns in the Japanese media / Censorship and scandals. |
| 第8回 | Seminar 4: Japanese Advertising | Analysing patterns in Japanese advertising / Group work and discussions based on lecture 4 and HW. |
| 第9回 | Lecture 5: Social Structure | The Family System / Social Stratification / Wealth & Cultural Capital / Social Order. |
| 第10回 | Seminar 5: Beneath the Veneer | Documentary Analysis / Group work and discussions based on lecture 5 and HW. |
| 第11回 | Lecture 6: The Japanese Mind | The Self and Social Identity / Collectivism / Emic Psychological Concepts. |
| 第12回 | Lecture 7: The Societal Conundrum | Japan's social demographic dilemmas / Economic impacts. |
| 第13回 | Seminar 6: Engineering Social Change | Group work and discussion based on lectures 6, 7 and HW. |
| 第14回 | Lecture 8: The Road Ahead | Recent Political History / Abenomics / Social Policy / Geopolitics / Regional Security. |
| 第15回 | Seminar 7: Japan 2020 | Course Review / Group work and discussions / Essay preparation workshop. |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| Students must have English skills that allow them to participate actively in class discussions as well as a good standard of academic writing for assignments. Having a TOEFL ibt level of 70 or higher is advisable, or a study abroad experience. |

| 講義名 | Model United States of America | | | | | | | 担当教員 | Benjamin John McCracken※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1150560 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | | | | | | | | | |

## 授業概要

Model USA is an educational simulation in which students will learn about the United States of America (“USA”) and its unique form of government. This course requires students to research issues and topics, which they will debate as a senator from one of the 50 states that make up the USA. Through this process students will build public speaking, debating, and writing skills, in addition to critical thinking, teamwork, and leadership abilities. Students will also learn to empathize and understand people from the USA.

## 到達目標

(1) Students will learn about US history and how it impact the current policital environment. (2) Students will learn about the US governmental system and the role political parties play in it. (3) Students will learn current events and debate potentail solutions to these issues. (4) Students will learn to present facts and conduct a debate inorder to reach a solution to a problem.

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | 20 | Students will write a three page paper on their expereince. |
| 上記以外 | 80 | Presentation 30 points x2 and 20 points for particpation in class and group activities. |

Students are expected to actively participate in class. Failure to activily participate will cause grades to be reduced.

## 授業外学習

Students will need to be aware of current events in the US. Students will need to spend some time outside of class reading online newspapers or doing online research.

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | Model United States of America | | | | | | | 担当教員 | Benjamin John McCracken※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1150560 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | Introduction | Course overview |
| 第2回 | Basic USA History | Lecture on US history |
| 第3回 | US Government I | Lecture on the US governmental system |
| 第4回 | US Government II | Lecture on the US governmental system |
| 第5回 | Seminar I | Group work - Students will be devided into states and assigned political parties and committees |
| 第6回 | Political Parties | Lecture on US political parties |
| 第7回 | Seminar II | Group work - Students prepare for presentations on US states and issue presentations |
| 第8回 | State Presentations I | Students present on their respective states |
| 第9回 | State Presentations II | Students present on their respective states |
| 第10回 | Seminar III | Group work - Students prepare for issue presenations |
| 第11回 | Issue and disucssion I | Students present and discuss issue in mock debate |
| 第12回 | Issue and discussion II | Students present and discuss issue in mock debate |
| 第13回 | Issue and discussion III | Students present and discuss issue in mock debate |
| 第14回 | Issue and discussion IV | Students present and discuss issue in mock debate |
| 第15回 | Review | Course review and essay preperation workshop |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| Students will be provided with all materials including handouts that are intended for self-study. |

| 講義名 | Model United Nations | | | | | | | 担当教員 | Benjamin John McCracken※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1150570 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | | | | | | | | | |

## 授業概要

Model United Nations is an educational simulation in which students will learn about the United Nations (UN) and its role in the world. This course requires students to research issues and topics, which they will debate as a representative of from one of of the many nations that make up the UN. Through this process students will build public speaking, debating, and writing skills, in addition to critical thinking, teamwork, and leadership abilities. Students will also learn to empathize and understand people from around the world.

## 到達目標

(1) Students will learn about the history of the United Nations and how it impacts our world. (2) Students will learn about parlimentary procedure and how issues are debated at the UN. (3) Students will learn current events and debate potentail solutions to these issues. (4) Students will learn to present facts and conduct a debate inorder to reach a solution to a problem.

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | 20 | Students will write a three page paper on their expereince. |
| 上記以外 | 80 | Presentation 30 points x2 and 20 points for particpation in class and group activities. |

Students are expected to actively participate in class. Failure to activily participate will cause grades to be reduced.

## 授業外学習

Students will need to be aware of current events in the world. Students will need to spend some time outside of class reading online newspapers or doing online research.

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | Model United Nations | | | | | | | 担当教員 | Benjamin John McCracken※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1150570 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | Introduction | Course overview |
| 第2回 | History of the UN | Introduction to the UN and its history |
| 第3回 | Parlimentary Procedure | Introduction to parlimentary procedure and roberts rules of order |
| 第4回 | Simulation | Practice simulation |
| 第5回 | Seminar I | Group work - Students will be devided into countries and assigned committees |
| 第6回 | Seminar II | Lecture on committees.  Group work - Students prepare for country presentations |
| 第7回 | Seminar III | Group work - Students prepare for country presnetations |
| 第8回 | Country Presentations I | Students present on their respective countries |
| 第9回 | Country Presentations II | Students present on their respective countries |
| 第10回 | Seminar IV | Group work - Students prepare for issue presentations and discussion |
| 第11回 | Issue I | Students present and discuss issue in mock debate |
| 第12回 | Issue II | Students present and discuss issue in mock debate |
| 第13回 | Issue III | Students present and discuss issue in mock debate |
| 第14回 | Issue IV | Students present and discuss issue in mock debate |
| 第15回 | Review | Course review and essay workshop |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| Students will be provided with all materials including handouts that are intended for self-study. |

| 講義名 | 建築法規 | | | | | | | 担当教員 | 戸川　勝紀※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1201270 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期集中 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 313ARC225,333RED224 | | | | | | | | |

**授業概要**

法治国家の目的は、正義及び公平の原則に従って、社会を規律し、かつ法的安定性をもたらすことであり、社会秩序を維持し、国民間の利害を調整して国民に経済的･文化的に人間に値する生活を営ませることである。そして、建築基準法の目的は、建築物の敷地、構造、設備及び用途に関する最低の基準を定めて、国民の生命、健康及び財産の保護を図り、もって公共の福祉の増進に資することである。　これらを踏まえて、都市デザイン、建築デザイン及び生活デザインを行うために、建築関係法令の役割及び規制の概説だけでなく、誘導及び取組み方も解説する。また、具体的な事例をもとに制限や可能性を解説し、都市、建築及び生活に取り巻く今日的課題と法整備の状況を解説する。

**到達目標**

(1)　法律制度を説明できる。(2)　建築法規の目的を説明できる。(3)　都市デザインを考える上で法規制の基礎を理解できる。(4)　建築デザインを考える上で法規制の基礎を理解できる。(5)　生活デザインを考える上で法規制の基礎を理解できる。

**成績評価**

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 100 | 定期試験を行う。１００点満点のうち、６０点以上を合格とする。 |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | | |

毎回講義開始時に出席を確認する。
また、毎回小試験を行う。小試験も定期試験も、教科書１（平成30年版建築基準法〔法令偏〕）、教科書２（建築法規用教材2018）及び講義ノートを閲覧可能とするので、教科書への書き込み、講義ノートへの記帳をすると圧倒的に試験に有利である。★故に初日から教科書１及び教科書２を用

**授業外学習**

（成績評価備考２）　講義中に質問を行うので正解した学生には成績に大きく加点する。また、授業内容に関しての意見についても成績に加点する。発言に対しての減点はなく加点のみである。故に恥ずかしく思うこと無く果敢に発言を行い講義内容を習得されたい。

**教科書**

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 平成30年版建築基準法〔法令偏〕 | 国土交通省住宅局・日本建築学会編 | 技法堂 | |
| 2 | 建築法規用教材2018 | 日本建築学会 | 日本建築学会 | |
| 3 | | | | |

教科書１及び教科書２は講義に必要となるので、★必ず初日から持参すること。小試験及び定期試験中での閲覧が可能であることから、持参しない

**参考書**

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

**前提学力等**

**履修資格**

| 講義名 | 建築法規 | | | | | | | 担当教員 | 戸川　勝紀※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1201270 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期集中 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 313ARC225,333RED224 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | 建築法規の概要 | 建築法規の構成及び法令用語の読み方を学ぶ。 |
| 第2回 | 建築基準法の目的 | 建築基準法の目的、法令構成・内容、基本用語の定義及び面積・高さ・階数の算定方法を学ぶ。 |
| 第3回 | 建築基準法の制度規定1 | 手続の種類、開発許可と建築の手続及び建築物の確認等について学ぶ。 |
| 第4回 | 建築基準法の制度規定2 | 許可を要する建築物、認定を要する建築物、違反建築物に対する措置及び建築審査会等について学ぶ。 |
| 第5回 | 建築基準法の単体規定1 | 単体規定のあらまし及び構造強度について学ぶ。 |
| 第6回 | 建築基準法の単体規定2 | 防火・避難関係規定1（耐火建築物、防火区画及び避難施設）について学ぶ。 |
| 第7回 | 建築基準法の単体規定3 | 防火・避難関係規定2（排煙設備、非常用の照明装置及び内装制限）について学ぶ。 |
| 第8回 | 建築基準法の単体規定4 | 一般構造・設備1（居室の採光及び換気）について学ぶ。 |
| 第9回 | 建築基準法の単体規定5 | 一般構造・設備2（便所及び昇降機）について学ぶ。 |
| 第10回 | 建築基準法の集団規定1 | 集団規定のあらまし及び道路と敷地・建築物等について学ぶ。 |
| 第11回 | 建築基準法の集団規定2 | 建築物の用途の制限、建蔽率及び容積率について学ぶ。 |
| 第12回 | 建築基準法の集団規定3 | 前面道路による斜線制限、隣地境界からの斜線制限、天空率による斜線制限の特例及び日影による中高層建築物の高さの制限について学ぶ。 |
| 第13回 | 建築基準法の集団規定4 | 地区計画、防火上の地域内の建築物の制限、建築基準法のその他の規定及び工事現場の安全について学ぶ。 |
| 第14回 | 建築関連規定1 | 消防法、都市計画法及び建築士法について学ぶ。 |
| 第15回 | 建築関連規定2 | 建設業法、労働安全衛生法及び建築法規の歴史について学ぶ。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

**担当者から一言**

●建築法規は社会に出てから生きる武器を得る絶好の機会となる。それは、建築法規が建築士受検のための必須科目となっているからである。国家資格である建築士は当然のことながら全国で保障される資格であり、配偶者の転勤、親の介護、子供の世話等があって、遠方に行くことになって

| 講義名 | 一般構造 | | | | | | | 担当教員 | 佐々木　一泰 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1400070 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 233RED222 | | | | | | | | |

## 授業概要

建築やインテリアに関する技術論。建築物を成立させている部位の構成や仕組みがどのようなものかを理解し、建築やインテリアを学ぶ上で知っておきたい基礎的な建築技術の概要や構造、架構の知識を身につける。

## 到達目標

(1)建築技術、構造の全体像を把握する。
(2)各種構造を把握する。
(3)建築やインテリアに携わる人が必要とする建築技術専門用語を修得する。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 80 | |
| レポート課題 | 20 | |
| 上記以外 | | |

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 図説やさしい建築一般構造 | 今村仁美・田中美都　著 | 学芸出版社 | 978-4761524777 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 必携建築資料 | 柳原正人　他 | 実況出版株式会社 | 978-4-407-30782-5 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

建築やインテリアに関する技術論。技術に興味がある学生なら、分野を問わない。
2年次以降の履修が望ましい。

## 履修資格

| 講義名 | 一般構造 | | | | | | | 担当教員 | 佐々木　一泰 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1400070 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 233RED222 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | 講義概要、建築一般構造全体について | 講義概要、建築一般構造全体について |
| 第2回 | 各種構造概要 | |
| 第3回 | 木構造-1 | |
| 第4回 | 木構造-2 | |
| 第5回 | 木構造-3 | |
| 第6回 | 木構造-4 | |
| 第7回 | 木構造-5 | |
| 第8回 | 鉄筋コンクリート造-1 | |
| 第9回 | 鉄筋コンクリート造-2 | |
| 第10回 | 鉄筋コンクリート造-3 | |
| 第11回 | 鋼構造-1 | |
| 第12回 | 鋼構造-2 | |
| 第13回 | 鋼構造-3 | |
| 第14回 | その他・各種構造 | |
| 第15回 | まとめ | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | インテリア計画論 | | | | | | | 担当教員 | 宮本　雅子 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1400080 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 233RED221 | | | | | | | | |

## 授業概要

ここでは主に住居の内部空間の設計に必要な知識を習得することを目的とする。まず、インテリア計画のプロセスを説明した上で、住宅の構造、構法および住宅のインテリア構成要素について解説する。その上で、各室における機能とインテリア計画上の要点についてグループワークを交えながら講義する。

## 到達目標

(1)住居のインテリアを構成している要素を理解し、説明できる。
(2)平面計画から住生活を読み解く力をつける。
(3)実際のインテリア空間を観察、評価できる。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 100 | 到達目標の(1)住居のインテリアを構成している要素を理解し、説明できる、については、期末試験35%、レスポンスペーパー15%、(2)平面計画から住生活を読み解く力をつける、については、期末試験15%、レスポンスペーパー10%、(3)実際のインテリア空間を観察、評価できる。については、レポート25%で評価する。 |

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | インテリアの計画と設計 | | 彰国社 | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | インテリア計画論 | | | | | | | 担当教員 | 宮本　雅子 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1400080 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 233RED221 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | インテリアとは | インテリア計画のプロセス |
| 第2回 | 住宅の構造 | 住宅の構造と構法 |
| 第3回 | 内装材について | 内装材の種類と性質 |
| 第4回 | 床と壁 | 床、壁の性能と構法 |
| 第5回 | 天井と開口部 | 天井、開口部の性能と構法 |
| 第6回 | 照明方式 | 照明方式、光源の種類と特徴 |
| 第7回 | 照明計画 | 行為と照明との関係について |
| 第8回 | 室内配色 | 配色パターンについて |
| 第9回 | 人と空間 | 人と空間のもつ意味、視線と空間の関わり |
| 第10回 | リビングルーム | 団らん空間の計画 |
| 第11回 | ダイニングルーム | 食事空間の計画 |
| 第12回 | キッチン | 調理空間の計画 |
| 第13回 | ベッドルーム | 作業空間・就寝空間の計画 |
| 第14回 | バリアフリー | バリアフリーとユニバーサルデザイン<br>高齢者の住宅改修事例 |
| 第15回 | まとめ | 全体まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | インテリアコーディネート概説 | | | | | | | 担当教員 | 藤木　庸介 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1400088 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 333RED222 | | | | | | | | |

## 授業概要

生活に関わるデザイン現場において、インテリアコーディネートに対する基礎知識は今や必須の要件と言えよう。ここでは特に、店舗や住宅におけるインテリアコーディネートの実践について、実社会やデザイン現場で必要不可欠、且つ、有用な知識を習得する。
尚、本演習で習得する知識は、公益社団法人インテリア産業協会が主催する「インテリアコーディネーター資格試験」に応用可能な知識と成り得る。

## 到達目標

(1) インテリアコーディネートの基礎知識を習得し、実社会において応用する事ができる。
(2) 公益社団法人インテリア産業協会が主催する「インテリアコーディネーター資格試験」の合格に必要な知識を習得する。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 100 | 到達目標に記載した(1)(2)の内容を包含した小テスト３回により評価。<br>成績への寄与率は小テストの合計を100%とし、60%以上を合格とする。 |

授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない。

## 授業外学習

インテリアコーディネーター資格試験の合格を目指す者は、継続的な自主勉強が必要であり、予習復習が必須である。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | インテリアコーディネーター資格試験年度別過去問題集 | HIPS合格対策プロジェクト（編） | ハウジングエージェンシー | |
| 2 | インテリアコーディネーター1次試験合格教本（上巻） | HIPS合格対策プロジェクト（編） | ハウジングエージェンシー | |
| 3 | インテリアコーディネーター1次試験合格教本（下巻） | HIPS合格対策プロジェクト（編） | ハウジングエージェンシー | |

問題集と合格教本は毎年更新されるので、最新のものを入手すること。

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | インテリアコーディネート概説 | | | | | | | 担当教員 | 藤木　庸介 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1400088 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 333RED222 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | イントロダクション | 本演習の内容と目的、演習の進め方、評価方法について解説する。 |
| 第2回 | インテリアに関する基礎知識 | インテリアに関する基礎知識について解説の上、設問解答によって知識の定着を目指す。 |
| 第3回 | インテリアに関する販売知識 | インテリアに関する基礎知識について解説の上、設問解答によって知識の定着を目指す。 |
| 第4回 | インテリア情報 | インテリア情報について解説の上、設問解答によって知識の定着を目指す。 |
| 第5回 | 販売に関する法規の基礎知識１ | 販売に関する法規の基礎知識について解説の上、設問解答によって知識の定着を目指す。 |
| 第6回 | インテイリアコンサルティングに関する基礎知識 | インテイリアコンサルティングに関する基礎知識について解説の上、設問解答によって知識の定着を目指す。 |
| 第7回 | インテリア構成材の基礎知識 | インテリア構成材の基礎知識について解説の上、設問解答によって知識の定着を目指す。 |
| 第8回 | 住宅の構造に関する基礎知識 | 住宅の構造に関する基礎知識について解説の上、設問解答によって知識の定着を目指す。 |
| 第9回 | 室内環境に関する基礎知識 | 室内環境に関する基礎知識について解説の上、設問解答によって知識の定着を目指す。 |
| 第10回 | 販売に関する法規の基礎知識 | 販売に関する法規の基礎知識について解説の上、設問解答によって知識の定着を目指す。 |
| 第11回 | インテリア計画に関する基礎知識 | インテリア計画に関する基礎知識について解説の上、設問解答によって知識の定着を目指す。 |
| 第12回 | 表現技法に関する基礎知識 | 表現技法に関する基礎知識について解説の上、設問解答によって知識の定着を目指す。 |
| 第13回 | インテリア基礎に関する法規 | インテリア基礎に関する法規について解説の上、設問解答によって知識の定着を目指す。 |
| 第14回 | インテリアの歴史 | インテリアの歴史について解説の上、設問解答によって知識の定着を目指す。 |
| 第15回 | まとめ | インテリアコーディネートの基礎を総括し、総合的な設問解答によって知識を確かなものへ導くことを目指す。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| インテリアコーディネーター資格試験の合格を目指す者は、相応の学習が必要であることから、本気で勉強する覚悟を以て演習を行うことを求める。 |

| 講義名 | 環琵琶湖文化論実習（生活デザイン） | | | | | | | 担当教員 | 学科教員／印南　比呂志／面矢　慎介／佐々木　一泰／藤木　庸介／南　政宏／宮本　雅子／森下　あおい／山田　歩／横田　尚美 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1400340 | 単位数 | 2 | 開講期 | 通年 | 授業種別 | 実習 | | |
| ナンバリング番号 | 133LVD101 | | | | | | | | |

## 授業概要

滋賀県の歴史、文化、生活をその対象として実習をおこなう。各学科ごとに地域、テーマ別に班編成をし、事前学習、泊りがけでの実習、さらに実習後の報告書の作成をおこなう。

## 到達目標

(1)フィールドワークをおこなうことによって、地域の歴史、文化、生活に対する意識を高める。
(2)調査の手法、報告書のまとめかた等の技術を習得する。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 100 | 到達目標の(1)フィールドワークをおこなうことによって、地域の歴史、文化、生活に対する意識を高める、については、実習への参加・貢献40%、(2)調査の手法、報告書のまとめかた等の技術を習得する、については、事前学習への貢献40%、事後学習への貢献20%で評価する。 |

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

テキスト：各班担当の教員の指示による

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 環琵琶湖文化論実習（生活デザイン） | | | | | | | 担当教員 | 学科教員／印南　比呂志／面矢　慎介／佐々木　一泰／藤木　庸介／南　政宏／宮本　雅子／森下　あおい／山田　歩／横田　尚美 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1400340 | 単位数 | 2 | 開講期 | 通年 | 授業種別 | 実習 | | |
| ナンバリング番号 | 133LVD101 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | オリエンテーション | 調査地について |
| 第2回 | 事前学習 | 調査対象について事前調査を行い、各自が調べた内容について発表を毎週行う |
| 第3回 | 夏休み期間中　宿泊実習 | 1泊2日で実地調査等を行う |
| 第4回 | 後期　報告書の作成 | 事前学習、実地調査によって得られた内容について報告書にまとめる |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 基礎設計製図 | | | | | | | 担当教員 | 南　政宏／藤木　庸介 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1400430 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 133RED221 | | | | | | | | |

## 授業概要

建築設計製図に必要である基本的な製図技術と技法を習得する。建築家による設計図面のトレースや、模型の制作によって、製図や模型制作の基礎を学ぶ。アクソノメトリックやインテリアパースの作成によって空間の視覚的な表現力を身に付ける。建築の基礎的な表現技法を学ぶとともに、図面を通して空間を想像し把握する力を養う。小規模な空間を自身で設計することで、空間的思考力と計画力、製図能力を習得する。

## 到達目標

（１）建築製図の基本的なルールを理解し、製図技法を習得する。
（２）建築模型の製作技法を習得する。
（３）小規模空間を計画し、破綻のない設計が出来るようになる。
（４）自身の制作物や設計のプレゼンテーションが出来るようになる。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 100 | 課題の提出物（８０%）<br>講評会でのプレゼンテーション（２０%） |

全課題の提出が単位認定の最低条件とする（一つでも課題未提出がある場合は単位不認定）
成績は全ての課題作品評価の合計点に、講評会でのプレゼンテーション評価を加えて算出する。

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 初歩からの建築製図 | 藤木庸介・柳沢究（編著） | 学芸出版社 | ISBN978-4-7615-2587-3 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

第３回目授業までに指定した教科書を用意すること。

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 基礎設計製図 | | | | | | | 担当教員 | 南　政宏／藤木　庸介 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1400430 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 133RED221 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | ガイダンス | 授業の進め方、諸注意などを説明。第１課題出題。 |
| 第2回 | 第１課題の講評 | 第１課題の講評 |
| 第3回 | 第２課題「線の練習」 | 製図用具の使い方の講義と実習 |
| 第4回 | 第３課題「編集者の家」 | 「編集者の家」の図面トレース |
| 第5回 | 第３課題「編集者の家」 | 「編集者の家」の図面トレース |
| 第6回 | 第４課題「アクソメの作成」 | 「アクソメ」に関する講義と実習 |
| 第7回 | 第５課題「インテリアパースの作成」 | 「インテリアパース」に関する講義と実習 |
| 第8回 | 第６課題「模型の作成」 | 「模型作成」に関する講義と実習 |
| 第9回 | 第６課題「模型の作成」 | 「模型作成」の実習 |
| 第10回 | 第７課題「６メートル立方の空間」 | 第７課題についての説明と実習 |
| 第11回 | 第７課題「６メートル立方の空間」 | コンセプトのチェック |
| 第12回 | 第７課題「６メートル立方の空間」 | スケッチのチェック |
| 第13回 | 第７課題「６メートル立方の空間」 | プレゼンテーション作成 |
| 第14回 | 第７課題「６メートル立方の空間」 | プレゼンテーション作成 |
| 第15回 | 第７課題「６メートル立方の空間」 | 「６メートル立方の空間」の作品講評会 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| 本演習では、基本的な製図用具を各自で用意する必要があります。<br>用意すべき製図用具は授業内で説明します。 |

| 講義名 | 基礎服飾デザイン | | | | | | | 担当教員 | 横田　尚美／森下　あおい |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1400440 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 133FSD261 | | | | | | | | |

## 授業概要

服飾デザインの基礎知識を身につけるために、まずデザイン画の基本的な技法を学び、人体のプロポーションと着装の関係を把握する。服飾デザインに必要な専門用語や商品知識を学び、服飾が持つ文化的な側面にも目を向けさせる。服飾デザインを生活者視点から捉えるために、ファッションマーケティングについても学ぶ。実際の企業やブランドを題材に用いて、リサーチの演習を行う。

## 到達目標

(1) 基本的なデザイン画の技法を理解する。
(2) 服飾について最低限の専門用語や商品知識がわかる。
(3) 基本的なアイテムの構造について理解できる。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 100% | 到達目標（1）～(3)について、毎回の提出物とレポートによって評価する |

## 授業外学習

授業でまとめきれなかった分を宿題とすることがある。また、事前に課題を与えることがある。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

中高の家庭科の教科書を持っていれば、それを参考にしてほしい。持参してもらう場合があるかもしれない。

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

授業内で適宜紹介する。

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 基礎服飾デザイン | | | | | | | 担当教員 | 横田　尚美／森下　あおい |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1400440 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 133FSD261 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | オリエンテーション | この演習の進め方について説明する。<br>服づくりの基礎について解説する。 |
| 第2回 | デザイン画とは | デザイン画の目的と表現の種類を知る。 |
| 第3回 | 人体のプロポーション | 基本プロポーションの描き方を学ぶ。 |
| 第4回 | ポーズと衣服に関係 | デザインに応じたポーズの表現についてを学ぶ。 |
| 第5回 | 人体と衣服のシルエット | 着装シルエットの描き方を学ぶ。 |
| 第6回 | 服づくりの基礎 | アイロンの使い方、縫い方の基礎を学ぶ。（実習）<br>ハンカチから布の特性を知る。 |
| 第7回 | 服の構造（スカート） | スカートの構造を学ぶ。（実習）<br>スカートの商品知識を身に着ける。 |
| 第8回 | 服の構造（パンツ） | パンツの構造を学ぶ。（実習）<br>パンツなどの商品知識を身に着ける。 |
| 第9回 | 服の構造（シャツ、ブラウス） | シャツやブラウスの構造を学ぶ。<br>シャツの商品知識を身に着ける。 |
| 第10回 | 服の構造（ジャケット、コート） | ジャケットやコートの構造を学ぶ。（実習） |
| 第11回 | 服の構造（ジャケット、コート）続き | ジャケットやコートの構造を学ぶ。（実習）<br>ジャケットやコートの商品知識を身に着ける。 |
| 第12回 | 服づくりの現場 | 服づくりについて映像から理解する。 |
| 第13回 | 服のディテールと付属品 | 服のディテールと付属品について商品知識を身に着ける。<br>ボタン付け。（実習） |
| 第14回 | 小物づくり | 服づくりに必要なピンクッションの製作。（実習）<br>服づくりの態度を理解する。 |
| 第15回 | 衣装の現存資料の見学 | 京都服飾文化研究財団で、衣装の展示と修復作業を見学する。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| デザイン画の課題時には、ファッション雑誌を持参することを課す場合がある。<br>前半については、裁縫道具のセットを持っている学生には持参してもらう。 |

| 講義名 | 近代デザイン史 | | | | | | | 担当教員 | 面矢　慎介 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1400570 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 233LVD202 | | | | | | | | |

## 授業概要

近代になって、産業革命、市民社会の成立、科学技術の発展などによって、社会は大きく変化した。なかでも、合理主義・機能主義により、われわれの生活空間は、徐々にモダニズムのデザインにおおわれてきた。そして現代、豊かさ、情報化、都市化、グローバル化によって、我々の生活や意識（価値観、美意識、家族観）も変りつつある。このようななかで、近代はじめより現代にいたるまでの間の生活デザイン、主として、道具、インテリア、印刷物などのデザインにおいて、どのような変革の試みがなされてきたのかを、具体例を通して概観する。

## 到達目標

（１）モダンデザインの流れの全体像をつかむ。
（２）種々のデザイン運動グループの位置付けと特徴を知る。
（３）有名デザイナーの名とその作品に親しむ。
（４）デザイナーの作品の特徴や他との影響関係を調べ、文章にまとめることができる。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 30 | 期末筆記試験 |
| レポート課題 | 55 | 宿題 |
| 上記以外 | 15 | レスポンスペーパー |

授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象としない。

## 授業外学習

期間中の宿題として、モダンデザインで活躍したデザイナーで、自分の気に入った人物の評伝と作品について、手描きスケッチ入りでレポートする。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | デザインの２0世紀 | 柏木博 | ＮＨＫブックス | 4-14-001656 C1370 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 近代デザイン史 | | | | | | | 担当教員 | 面矢　慎介 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1400570 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 233LVD202 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | はじめに | 近代の始まり、産業革命 |
| 第2回 | プレモダンデザイン① | モリスとアーツアンドクラフツ運動 |
| 第3回 | プレモダンデザイン② | アールヌーボーとグラスゴー派 |
| 第4回 | プレモダンデザイン③ | ウィーン工房 |
| 第5回 | プレモダンデザイン④ | ドイツ工作連盟 |
| 第6回 | モダンデザイン① | マシーンエイジ、フォーディズム、未来派 |
| 第7回 | モダンデザイン② | ロシア構成主義 |
| 第8回 | モダンデザイン③ | デ・スティル |
| 第9回 | モダンデザイン④ | バウハウス |
| 第10回 | モダンデザイン⑤ | インダストリアルデザイン |
| 第11回 | モダンデザイン⑥ | アールデコ |
| 第12回 | モダンデザイン⑦ | MOMAとミッドセンチュリー、ウルム造形大学 |
| 第13回 | モダンデザイン⑧ | スカンジナビア・モダン |
| 第14回 | モダンデザイン⑨ | イタリアン・モダン |
| 第15回 | ポストモダンデザイン | ポストモダンデザイン |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 空間デザイン論 | | | | | | | 担当教員 | 佐々木　一泰 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1400580 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 333RED223 | | | | | | | | |

## 授業概要

われわれは日常的にデザインの最終的な成果を目にするが、その背景や仕組みを理解する機会は少ない。そこでこの講義では、風土からの影響、図学や心理的効果による視覚伝達手法、構法や動線などの機能的条件などを、西洋と日本の近現代における建築や店舗、公共空間のデザイン・デザイナーを比較し、デザインの背景とその制作過程から、空間デザインを成り立たせる手法や仕組みを分析し、デザインを行う上での構成原理を考え身につける。

## 到達目標

（1）空間に対する理解や設計、デザインを行う際の、思考の助けとなる様な基礎知識を習得する。
（2）デザインに関しての論理的フレームを、 構成理論や技術に基づいて理解する。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 0 | |
| レポート課題 | 100 | 全15回の授業内全てに小レポートを課し、その内容で評価する。 |
| 上記以外 | | |

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

## 授業外学習

あらかじめ配布されたプリントを授業までに読解し、背景を理解したうえで授業に臨むこと。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 作家たちのモダニズム | 黒田智子　他 | 学芸出版社 | 4-7615-2307-7 |
| 2 | 近代日本の作家たち―建築をめぐる空間表現 | 黒田智子　他 | 学芸出版社 | 4761523794 |
| 3 | | | | |

授業中プリント配布

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 空間デザイン論 | | | | | | | 担当教員 | 佐々木　一泰 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1400580 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 333RED223 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | イントロダクション | 本講義の内容と目的、講義の進め方、評価の方法等の解説。 |
| 第2回 | 風土の比較（1） | 日本の風土特性とデザインとの関係について解説する。 |
| 第3回 | 風土の比較（2） | 西洋の風土特性とデザインとの関係について解説する。 |
| 第4回 | 視覚伝達デザインの比較（1） | 基礎的な視覚伝達デザインの考え方について解説する。 |
| 第5回 | 視覚伝達デザインの比較（2） | 基礎的な視覚伝達デザインの考え方について解説する。 |
| 第6回 | 視覚伝達デザインの比較（3） | 応用的な視覚伝達デザインの考え方について解説する。 |
| 第7回 | 視覚伝達デザインの比較（4） | 視覚伝達デザインの考え方を実践し考察する。 |
| 第8回 | 近代空間デザインの比較（1） | 基礎的な近代における建築デザインの考え方について解説する。 |
| 第9回 | 近代空間デザインの比較（2） | 基礎的な近代における空間デザインの考え方について解説する。 |
| 第10回 | 近代空間デザインの比較（3） | 応用的な近代における空間デザインの考え方について解説する。 |
| 第11回 | 近代空間デザインの比較（4） | 近代における空間デザインを比較し考察する。 |
| 第12回 | 現代空間デザインの比較（1） | 基礎的な現代における空間デザインの考え方について解説する。 |
| 第13回 | 現代空間デザインの比較（2） | 基礎的な現代における空間デザインの考え方について解説する。 |
| 第14回 | 現代空間デザインの比較（3） | 現代における空間デザインを比較し考察する。 |
| 第15回 | まとめ | 本講義を総括し、空間デザインの意義について考察を行う。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 現代産業デザイン論 | | | | | | | 担当教員 | 森岡　誠※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1400640 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | | | | | | | | | |

## 授業概要

現代における産業デザインの現状と課題を、昭和の道具史を参照しながら探る。与えられた資料から自分流に道具史年表を作成したり、KJ法によって、「同時代」というキイワードに対して、どのようなイメージマップが形成できるか演習してみる。現代の道具の典型として電話の歴史から携帯電話、インターネット、パソコンの端末としてのスマートフォンまでのコミュニケーション道具の変遷をたどってみる。次に、1960年代から2010年代の50年間を踏まえて、産業デザインに対する新しい考え方を提出してきた作家達バックミンスター・フラー、ヴィクター・パパネック、渡辺武信、柏木博、梅棹忠夫、川崎和男、フィリップ・スタルク、倉俣史朗、マクルーハン、ジャン・ボードリヤール、立花隆、山中伸弥を紹介し、現代の社会に果たしてきた役割を考察することから、今後の産業デザインの課題を明確にする。授業全体のキイワードを「道具とからだ」とする。

## 到達目標

（１）現代の産業デザインの問題点がわかる
（２）デザインとは何か、デザイナーの考えていることが理解できる
（３）現代の社会とデザインとの関係を考察することができる
（４）IT社会で産業デザインとして必要な事は何かがわかる
（５）次世代の社会の向かう先を想像することができる
（６）デザイナーの今後の在り方を考えることができる
（７）デザインに対して自分なりの考え方が持てる

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 0% | |
| レポート課題 | 50% | 到達目標各項目について、最終課題の小論文（2000字以内）を課す |
| 上記以外 | 50% | 到達目標各項目について、毎回１５分間の小レポート課題を課す |

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない

## 授業外学習

授業で配布された資料を予習復習すること
資料ビデオの鑑賞では必ず復習として感想文を書くこと

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 近代日本の産業デザイン思想 | 柏木博 | 晶文社 | B000J8EBXA |
| 2 | 生きのびるためのデザイン | ヴィクター・パパネック | 晶文社 | 479495901X |
| 3 | 宇宙船地球号操縦マニュアル | バックミンスター・フラー | 筑摩書房 | 4480085866 |

参考書の一部を授業の資料としてプリント配布する

## 前提学力等

２年次以降の履修が望ましい

## 履修資格

| 講義名 | 現代産業デザイン論 | | | | | | | 担当教員 | 森岡　誠※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1400640 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | オリエンテーション | 授業の進め方と授業の全体像。<br>「道具」の定義とDOUGUOLOGY、道具学会のこと |
| 第2回 | イメージマップづくり | KJ法による現代のイメージと工業製品<br>キイワード「カワイイ」 |
| 第3回 | 工業製品の開発とその社会 | 工業製品の歴史調査<br>各自の思い出に残る工業製品について |
| 第4回 | コミュニケーション革命の道具 | 電話の歴史<br>携帯電話からスマートフォンへ |
| 第5回 | 1980年代の工業デザイン | デザインとは何か<br>フィリップ・スタルク（資料ビデオから） |
| 第6回 | 1990年代の工業デザイン | 伝統工芸と工業デザイン<br>ユニバーサルデザイン |
| 第7回 | コードレスと絆論 | リモコン、センサー、街頭カメラにみる人間関係<br>身体性、物質性の欠如と情報として人間 |
| 第8回 | イメージの消費 | 現代の消費のかたち<br>ガジェット論（ジャン・ボードリヤール） |
| 第9回 | ぬいぐるみとROBOT論 | 道具から玩具へ　ペットロボット　ゆるキャラ<br>道具ー玩具ー呪物 |
| 第10回 | 総合的思考 | 地球環境デザインの端緒<br>『宇宙船地球号操縦マニュアル』バックミンスター・フラー |
| 第11回 | 生きのびるためのデザイン | エコロジーと第３世界のためのデザイン<br>『生きのびるためのデザイン』『地球のためのデザイン』『人間のためのデザイン』ビクター・パパ |
| 第12回 | 情報とエルギーの地球論 | インテリジェント・テクノロジーの時代のデザインの意味について<br>『情報の文明学』（梅棹忠夫） |
| 第13回 | 都市景観と産業デザイン | 都市環境をつくるデザインの行方<br>グーグルマップと都市環境 |
| 第14回 | 道具とからだ論 | サイボーグ（資料ビデオ）（立花隆）医療・福祉への利用<br>脳とロボットのハイブリット |
| 第15回 | 生命倫理と人間のつくるもの | サイボーグ（資料ビデオ）（立花隆）軍事利用の危険性<br>IPS細胞による再生医療 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 建築計画論 | | | | | | | 担当教員 | 藤木　庸介 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1400705 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 233RED223 | | | | | | | | |

## 授業概要

世界には建築に対する多用な考え方や表現があり、これらを概観する事は、建築を理論的、且つ、感覚的に理解する上での必須要件と言えよう。本講義では建築に対する議論や設計を巡る思考の助けとなる様な基礎知識、あるいは最低限知っておくべき論理的フレームを“Architectural Design”という言葉の上に広く捉えつつ、これらの知見をわかりやすく解説する。

## 到達目標

(1) 建築に対する議論や設計を巡る思考の助けとなる様な基礎知識を習得する。
(2) 建築計画に関する、最低限知っておくべき論理的フレームを“Architectural Design”という言葉の上において理解する。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 100 | 到達目標に記載した(1)(2)の内容を包含した小テスト３回により評価。<br>成績への寄与率は小テストの合計を100%とし、60%以上を合格とする。 |

授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない。

## 授業外学習

教科書の講義対象部分を事前・事後において通読することが望ましい。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | テキスト建築意匠 | 平尾和洋・末包伸吾・他 | 学芸出版社 | ISBN4-7615-3146-0 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

第2回目授業までに教科書を用意すること。

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 建築計画論 | | | | | | | 担当教員 | 藤木　庸介 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1400705 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 233RED223 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | イントロダクション | 本講義の内容と目的、講義の進め方、評価の方法等を解説する。 |
| 第2回 | 力の流れと表現（1） | 基礎的な建築構造の考え方について解説する。 |
| 第3回 | 力の流れと表現（2） | 基礎的な建築構造の考え方について解説する。 |
| 第4回 | 近代の建築（1） | 基礎的な近代建築理論について解説する。 |
| 第5回 | 近代の建築（2） | 基礎的な近代建築理論について解説する。 |
| 第6回 | 現代の建築（1） | 基礎的な現代建築理論について解説する。 |
| 第7回 | 現代の建築（2） | 基礎的な現代建築理論について解説する。 |
| 第8回 | 建築表記の射程（1） | 建築表記の実践とその意義について解説する。 |
| 第9回 | 建築表記の射程（2） | 建築表記の実践とその意義について解説する。 |
| 第10回 | 建築の原点（1） | 建築の原点とその意義について解説する。 |
| 第11回 | 建築の原点（2） | 建築の原点とその意義について解説する。 |
| 第12回 | 建築の要素（1） | 建築を構成する様々な要素について解説する。 |
| 第13回 | 建築の要素（2） | 建築を構成する様々な要素について解説する。 |
| 第14回 | 光について | 建築と光の関係について解説する。 |
| 第15回 | まとめ | 本講義を総括し、建築計画の意義について考察を行う。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 考現学概論 | | | | | | | 担当教員 | 面矢　慎介 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1400730 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 133LVD109-C | | | | | | | | |

## 授業概要

生活を捉える基本的方法論としての考現学について解説する。日本において創始された考現学は、生活のありようをとらえる有効な方法であるばかりか、生活実態に即したデザインの発想をうながし、現在まで多くの生活研究者・デザイン実務家によって発展・継承されている。考古学者が発掘した遺構・遺物から過去の生活相を復元し想定するように、考現学では、現在の生活を観測、観察、記録して、その生活相の変化を明らかにし、新しい生活をデザインするための立脚点とする。本講義では、考現学の創始者・今和次郎（1888～1973）から現在にいたる考現学的生活研究の系譜を論じ、さまざまの考現学的調査手法を事例を交えて解説する。グループワークによる調査体験、授業期間終了後の個人調査・レポート制作を含む。

## 到達目標

実際の調査体験を通して、生活文化をとらえるための考現学的観察・記録の方法と視点を修得する。（１）過去の考現学調査の方法と視点を理解し、自分なりの感想や意見を述べることができる。（２）グループワークに参加し協調して調査を計画・実行できる。（３）個人で調査を計画・実行し、その結果を文章や図解にまとめることができる。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 0 | |
| レポート課題 | 70 | 個人調査レポート（期末レポート） |
| 上記以外 | 30 | コメントカード（寄与率10%）、グループワークでの貢献度（寄与率20%） |

個人調査レポートは授業期間終了後、夏期休暇中に作成する。グループワークへの参加はそれまでの講義時間数の半分以上を出席した者に限る。

## 授業外学習

夏期休暇中の個人調査レポート（必須）

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 考現学入門 | 今和次郎 | ちくま文庫 | 4-480-02115-9 C0136 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

授業中にプリント配布する

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 考現学概論 | | | | | | | 担当教員 | 面矢　慎介 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1400730 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 133LVD109-C | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | 考現学とはなにか | 基本的定義・方法的特性 |
| 第2回 | 今和次郎とその考現学 | 今和次郎の考現学とその時代背景 |
| 第3回 | 今和次郎グループの考現学手法 | 観察、スケッチ、計測、集計、図化 |
| 第4回 | 考現学の現代的継承１ | 生活財生態学、民具悉皆調査 |
| 第5回 | 考現学の現代的継承２ | とげぬき地蔵の考現学 |
| 第6回 | 考現学の現代的継承３ | 街歩き、路上観察 |
| 第7回 | 現学の現代的継承４ | 自動販売機の生態、自転車駐車の生態 |
| 第8回 | グループワーク１ | 調査テーマの探索 |
| 第9回 | グループワーク２ | 調査テーマ決定、仮調査 |
| 第10回 | グループワーク３ | 調査方法詳細の決定 |
| 第11回 | グループワーク４ | 調査経過会議 |
| 第12回 | グループワーク５ | 調査経過会議 |
| 第13回 | グループワーク６ | 調査結果の集計・分析 |
| 第14回 | グループワーク７ | 成果報告準備 |
| 第15回 | グループワーク８ | 成果報告会、個人調査課題の出題 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 構造計画（生活デザイン） | | | | | | | 担当教員 | 渡邉　須美樹※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1400820 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 233RED224 | | | | | | | | |

## 授業概要

建物を計画するということは、機能性、安全性を把握しさらに芸術性を盛込む総合的な作業である。建物を成立させるためには、建物に作用する力の種類と流れを掌握し、構造材料の特性を活かして架構することが必要である。本講義では建物に作用する外力に対して使用する構造材料の特性を活かし効率の良い構造計画を習得することと、小規模木造建物の計画について講義する。

## 到達目標

建物に作用する力の種類と流れをに対し、建物の安全性を確保するための基本的な架構計画を習得し、小規模木造建物を設計する能力を身に着けること。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 70 | 記述試験を行なう。 |
| レポート課題 | 0 | |
| 上記以外 | 30 | 毎回復習小テストを行なう。 |

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 図解　やさしい建築一般構造 | 今村仁美、田中美都 | 学芸出版者 | 978-4-7615-2477-7 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

物理の基礎知識を有していること

## 履修資格

| 講義名 | 構造計画（生活デザイン） | | | | | | | 担当教員 | 渡邉　須美樹※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1400820 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 233RED224 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | 構造計画とは | 建築物の構造計画概要、必要性を講義 |
| 第2回 | 建築物に作用する力と荷重条件 | 建築物に作用する力、荷重条件を講義 |
| 第3回 | 建築構造の材料概要 | 建築物を構成する材料の特性概要について講義 |
| 第4回 | 各構造の基礎知識① | 木造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造についての基礎知識を講義 |
| 第5回 | 各構造の基礎知識② | 木造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造についての基礎知識を講義 |
| 第6回 | 木造軸組工法①基礎 | 木造軸組工法の基礎・地業部分について講義 |
| 第7回 | 木造軸組工法②軸組 | 木造軸組工法の軸組部分について講義 |
| 第8回 | 木造軸組工法③壁量計算 | 木造軸組工法の壁量計算について講義 |
| 第9回 | 木造軸組工法④小屋組 | 木造軸組工法の小屋組部分について講義 |
| 第10回 | 木造軸組工法⑤床組 | 木造軸組工法の床組部分について講義 |
| 第11回 | 木造軸組工法⑥接合部その他 | 木造軸組工法の接合部分その他について講義 |
| 第12回 | 木造枠組壁工法・丸太組工法 | 木造枠組壁工法、丸太組工法について講義 |
| 第13回 | 鉄筋コンクリート造構造計画 | 鉄筋コンクリート造の構造計画について講義 |
| 第14回 | 鉄骨造構造計画 | 鉄骨造の構造計画について講義 |
| 第15回 | まとめ | 全体の復習、おさらい |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 構造力学Ⅰ（生活デザイン） | | | | | | | 担当教員 | 渡邉　須美樹※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1400830 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 213ARC202,214BRM289,333RED321 | | | | | | | | |

## 授業概要

建築空間を構成するためには、建物に作用する力の種類と流れ、および建物を構成する部材に作用する力とそれに対する架構の挙動を理解することが不可欠である。本講義では、基礎的な構造力学を学習する。

## 到達目標

静定構造物を対象とした建築構造力学の基礎知識を習得し、簡単な骨組構造を対象として力学の基礎原理を習得する。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 70 | 記述試験を行なう。 |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 30 | 毎回復習小テストを行なう。 |

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 図解　やさしい構造力学 | 浅野清昭 | 学芸出版社 | 978-4-7615-2349-7 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

数学の基礎知識を有していること

## 履修資格

| 講義名 | 構造力学Ⅰ（生活デザイン） | | | | | | | 担当教員 | 渡邉　須美樹※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1400830 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 213ARC202,214BRM289,333RED321 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | 構造力学概論 | 構造力学についての概論説明 |
| 第2回 | 力の流れの理解 | 構造物の力の流れと力のつり合いを講義 |
| 第3回 | 支点反力の計算 | 構造物の支点に生じる力を講義 |
| 第4回 | 単純梁の部材に生じる力（１） | 単純梁に生じる力の計算方法を講義 |
| 第5回 | 単純梁の部材に生じる力（２） | 単純梁に生じる力の計算方法を講義 |
| 第6回 | 単純梁の部材に生じる力（３） | 単純梁に生じる力の計算方法を講義 |
| 第7回 | 片持ち梁の部材に生じる力 | 片持ち梁に生じる力の計算方法を講義 |
| 第8回 | 跳ね出し梁の部材に生じる力 | 跳ね出し梁に生じる力の計算方法を講義 |
| 第9回 | ラーメン部材に生じる力 | ラーメン部材に生じる力の計算方法を講義 |
| 第10回 | トラス部材に生じる力 | トラス部材に生じる力の計算方法を講義 |
| 第11回 | 部材断面の考え方 | 部材断面特有の係数についての講義 |
| 第12回 | 断面に生じる力（１） | 断面に生じる応力度の計算方法を講義 |
| 第13回 | 断面に生じる力（２） | 断面に生じる応力度の計算方法を講義 |
| 第14回 | 座屈とたわみ | 座屈、たわみの特性について講義 |
| 第15回 | まとめ | 全体の復習、おさらい |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | サステナブルデザイン論 | | | | | | | 担当教員 | 南　政宏 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1400910 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 133LVD108 | | | | | | | | |

## 授業概要

大量消費、大量生産によって経済発展を遂げ、支えられてきた二十世紀。現在、その豊かさの代償に様々な弊害や歪みが起きている。様々な仕組みを見直す時がきている。デザインの力がどのように社会に貢献できるのか考察する。デザインとは何か。デザインの基礎的な話から，現在世の中で変わりつつあるデザインの役割，持続可能な社会にサステナブルなものづくり、社会システムのあり方を先端事例を交えて考える。

## 到達目標

デザイナーの職能と、デザインの役割、デザインの可能性について様々な見地からの知識を深める。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | 30 | テーマに沿って，オリジナリティのある視点で書けているか。 |
| 上記以外 | 70 | 毎回のレスポンスペーパー |

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない

## 授業外学習

事前に毎週の講義テーマに関する事前情報を収集しておく。
必要に応じて小レポートを課する。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

教科書はなし。

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 世界を変えるデザイン | シンシア・スミス | 英治出版 | 4-86276-058-9 |
| 2 | Balance in design　美しくみせるデザインの原則 | Kimberly Elam | ビー・エヌ・エヌ新社; | 4861007933 |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

生活デザイン学科１年次での履修が望ましい。

## 履修資格

| 講義名 | サステナブルデザイン論 | | | | | | | 担当教員 | 南　政宏 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1400910 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 133LVD108 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | ガイダンス | デザインに込められた意味や形の考え方。シンボルマークを事例に解説。 |
| 第2回 | 自然が生み出したデザイン | バイオミミクリーを事例に，自然から応用されたデザインについて。 |
| 第3回 | 広告やグラフィックにおけるデザイン | 広告やグラフィックにおけるデザインについて，事例を通して学ぶ。 |
| 第4回 | 電気やエネルギーとデザイン | 日本と世界を比較し電気やエネルギーとデザインについて。 |
| 第5回 | ブランディングデザイン | ブランドとは何か事例を通して，様々なブランディングについて。 |
| 第6回 | クラフトとデザイン | クラフトと手工業とデザインについて。 |
| 第7回 | リサイクルとデザイン | ゴミとリサイクルとデザインの関係について。 |
| 第8回 | アフォーダンスとデザイン | 行為を誘発するデザインについて。 |
| 第9回 | 地域デザイン | 地域を舞台に活躍するデザイナーについて。 |
| 第10回 | ロングライフデザイン | 何年も前からずっと変わらないロングライフなデザインについて。 |
| 第11回 | 建築におけるサステナブルデザイン | 持続可能な建築とは何か？現代の住宅などについて。 |
| 第12回 | 乗物におけるサステナブルデザイン | 持続可能な乗り物や自転車などのデザインについて。 |
| 第13回 | 世界を変えるデザイン | 今，世界でデザインの果たす役割について。 |
| 第14回 | 途上国とデザインについて | フェアトレード、マイクロクレジットなど途上国とデザインについて。 |
| 第15回 | まとめ，大学時代にすべきこと | サステナブルデザインまとめ<br>大学時代に何をすべきか |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| 生活デザイン学科１年生に向けた内容となっている。<br>生活造形基礎演習での補足的な内容も含まれる。 |

| 講義名 | 色彩学 | | | | | | | 担当教員 | 宮本　雅子 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1400930 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 233LVD204 | | | | | | | | |

## 授業概要

現代は生活の質が求められる時代となり、生活のさまざまな場面で色彩の果たす役割は大きくなっている。しかし、騒色という言葉があるように色彩が人に悪影響を及ぼすこともある。そこで、生活デザインにおける快適な色彩計画のための基礎知識を得ることをねらいとし、色の表示方法や色彩調和論等について講義する。

## 到達目標

(1)色彩の表示方法について習得する。
(2)配色技法について理解し、生活の中での配色事例について分析できる
(3)生活の中の色彩について基本的な知識を習得する。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 100 | 到達目標の(1)色知覚について理解し、色彩の表示方法について習得する、については、課題5%、小テスト15%、期末試験10%　レスポンスペーパー5%、(2)色彩調和、配色技法について理解し、生活の中での配色事例について分析できる、については、　課題10%、小テスト15%　期末試験10%　レスポンスペーパー5%、(3)生活の中の色彩についての |

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 色彩：カラーコーディネーター入門 | | 日本色研事業 | 978-4-901355-27-8 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

副教材として「新配色カード199a」を使用

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 色彩学 | | | | | | | 担当教員 | 宮本　雅子 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1400930 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 233LVD204 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | 生活と色彩 | 身近な色について考える |
| 第2回 | 色知覚について | 眼の構造と色知覚 |
| 第3回 | 色の表示方法１ | 色名による表示方法およびマンセル表色系について |
| 第4回 | 色の表示方法２ | オストワルト表色系、NCS表色系、PCCS等について |
| 第5回 | 色の測定方法 | 色と光の三原色と混色、色の測定法（視感測色法、分光測色方法、刺激値直読方法） |
| 第6回 | 照明と色彩 | 小テスト、照明と色彩 |
| 第7回 | 色のイメージ | 色の単色イメージと連想 |
| 第8回 | 色の好み | 年齢や国による嗜好色の違いについて |
| 第9回 | 色の視覚効果 | 様々な色の視覚効果について |
| 第10回 | 色彩調和論１ | 小テスト<br>オストワルト、ムーン＆スペンサーの色彩調和論 |
| 第11回 | 色彩調和論２ | シュブルール、ルード、ジャッドの色彩調和論、PCCSによる配色 |
| 第12回 | 配色技法 | 様々な配色技法 |
| 第13回 | 色彩と文化 | 各時代の日本の色彩について |
| 第14回 | 色彩計画の実際 | Webに使用される色彩について<br>実際の空間やモノに色彩計画する際のプロセスについて |
| 第15回 | まとめ | 全体まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 色彩学演習 | | | | | | | 担当教員 | 宮本　雅子 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1400940 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 233LVD205 | | | | | | | | |

## 授業概要

色彩感情や調和理論についての認識を深めるためにポスターカラーやパーソナルコンピュータによる画像処理を利用した色彩表現を行う。また、すべての色はシステム化された記号や数字で示し、各種色度図上に表現できることを理解するため機器類を使用して測色を行う。さらに、色彩による視認性の程度や視覚障害者への配慮事項についても理解する。

## 到達目標

(1)色料の３原色の混色による色彩表現ができる。
(2)色彩の測定方法を理解する
(3)実際のモノ、空間の配色について調査し、評価できる。
(4)問題のある配色について、コンセプトに基づいた好ましい配色の提案ができる。
(5)感覚だけではなく理論に基づいた色彩計画ができる。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 100 | 到達目標の(1)色料の３原色の混色による色彩表現ができる、については、課題作品15%、(2)色彩の測定方法を理解する、については、課題作品10%、(3)実際のモノ、空間の配色について調査し、評価できる、については、プレゼンテーション10%、レポート10%、(4)問題のある配色について、コンセプトに基づいた好ましい配色の提案ができる、 |

課題の提出期限は厳守
授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

「配色カード199a」を色彩調査に使用する

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

「デジタル色彩マニュアル」「建築の色彩設計法」等、演習の中で適宜紹介

## 前提学力等

色彩の表示方法や配色技法について理解していること

## 履修資格

| 講義名 | 色彩学演習 | | | | | | | 担当教員 | 宮本　雅子 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1400940 | 単位数 | 1 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 233LVD205 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | 色料の３原色による混色 | 色料の３原色（C.M.Y）、白および黒相互間の混色により色票を作成する |
| 第2回 | グラデーションを利用したデザイン | コンセプトを設定し、作成した色票のグラデーションを使用してデザイン化する |
| 第3回 | 測色1 | 3種類の測色方法をローテンションで行う<br>測色1　標準色票による測色（Ｈｖ／ｃ） |
| 第4回 | 測色2 | 測色2　色彩色差計による物体色の測定（ＸＹＺ値、Ｙｘｙ値、Ｌ*ａ*ｂ*値、Ｈｖ／ｃ値）、色差の算出 |
| 第5回 | 色彩調査の説明 | 街並み、道具、服飾の色彩の調査（好ましい配色と好ましくない配色）について説明する |
| 第6回 | 中間発表 | どのような調査の視点で調査をしているのかについて説明 |
| 第7回 | プレゼンテーション | 調査結果のプレゼンテーションと講評を行う |
| 第8回 | 学外実習 | 伝統的町並の屋外広告物の色彩調査を行う |
| 第9回 | カラーシミュレーションの手順について | フォトショップを利用したカラーシミュレーションの手順について説明する |
| 第10回 | カラーシミュレーション | 好ましくないと評価した配色に対しての改善案をフォトショップを利用して作成する |
| 第11回 | プレゼンテーション | プレゼンテーションと講評を行う |
| 第12回 | Ｗｅｂサイトのカラーデザイン | 不特定多数の人にイメージを伝える方法の一つとしてＷｅｂサイトのカラーデザインを行う |
| 第13回 | デザイン案のチェック | デザイン案について説明する |
| 第14回 | プレゼンテーション | プレゼンテーションと講評を行う |
| 第15回 | 卒業研究発表会への参加 | 卒業研究発表会に参加し、様々なデザインに触れる機会とする |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 社会調査方法論 | | | | | | | 担当教員 | 大野　光明 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1401130 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 230S0C204,233MKD281,235S0C203 | | | | | | | | |

## 授業概要

本講義では、社会調査の企画・設計から資料・データの収集と整理までの具体的な過程と方法を学び、自分で調査できるだけの具体的な調査技術を身につけることを目的とする。
社会調査は大きくわければ、量的調査と質的調査にわけることができる。本講義では、（1）量的調査については、調査票を用いた調査の方法を修得することに重点を置く。具体的には、調査の企画・設計、仮説構成、調査方法の選定（全数調査と標本調査）、標本抽出（無作為抽出、標本数・標本誤差の理解）、調査票と質問文の作成、調査の実施（調査票の配布・回収の方法）、収集されたデータの整理（エディティング、コーディング、データクリーニング）について学ぶ。（2）質的調査については、インタビュー調査の方法を学び、面接調査の実施方法やフィールドノートの作成方法などを修得する。
講義では、調査票の作成等、グループワークやグループディスカッションを積極的に取り入れる。

## 到達目標

（1）調査目的・方法・手順および調査問題の選択と仮説の設定について理解することができる。
（2）社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形まで整理していく具体的な方法が理解できる。
（3）質問紙の作成についての技術と能力を身につけることができる。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 50% | 到達目標（1）、（2）、（3）について、最終試験を実施して評価する。 |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 50% | 到達目標（1）と（2）について、授業中に数回の小課題を出して評価する。 |

小課題（複数回）と最終試験を実施する。

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

教科書は使用しない。

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 社会調査の基礎 | 篠原清夫ほか | 弘文堂 | 978-4335551338 |
| 2 | 入門・社会調査法 | 轟亮・杉野勇 | 法律文化社 | 978-4589038173 |
| 3 | 質的社会調査の方法ーー他者の合理性の理解社会学 | 岸政彦ほか | 有斐閣 | 978-4641150379 |

参考書はその都度紹介する。授業中にプリントを配布する。

## 前提学力等

グループワークやグループディスカッションに積極的に参加できる人、あるいは、苦手かもしれないけれどチャレンジしてみようという人の参加をお待ちしています。

## 履修資格

| 講義名 | 社会調査方法論 | | | | | | | 担当教員 | 大野　光明 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1401130 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 230S0C204,233MKD281,235S0C203 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | ガイダンスとイントロダクション | 授業の進め方について説明する。なぜ社会調査を学ぶのか、そして、現代社会においてなぜ社会調査が必要なのかについて考える。 |
| 第2回 | 調査の目的と方法 | 特に量的調査をおこなう場合の目的と調査方法の決め方について概説する。 |
| 第3回 | 調査の企画 | 調査の企画に際して考えるべきことを概説する。 |
| 第4回 | 調査の設計と仮説の構成 | 調査テーマの決定と仮説の構成について概説する。 |
| 第5回 | 全数調査と標本調査 | 対象者全体に実施する調査と一部を対象に実施する調査の違いと方法について概説する。 |
| 第6回 | 無作為抽出 | 無作為抽出の原理と方法について概説する。 |
| 第7回 | 標本数と標本誤差 | 調査に必要な標本数と誤差について概説する。 |
| 第8回 | サンプリングの方法 | 標本抽出の諸方法と実際について概説する。 |
| 第9回 | 調査票の作成 | 調査票の作成方法を概説し、実際にグループで作成する。 |
| 第10回 | 質問文の作成 | 質問項目、質問文（ワーディング）の作成方法を概説し、実際にグループで作成する。 |
| 第11回 | 調査票を用いた調査の実施方法 | 調査票を用いた調査の諸方法と実際について概説する。 |
| 第12回 | 調査データの整理 | エディティング、コーディング、データクリーニング等について概説する。 |
| 第13回 | 質的調査の方法（1） | インタビュー調査の方法と実際について概説する。 |
| 第14回 | 質的調査の方法（2） | フィールドノートの作成方法について概説する。 |
| 第15回 | まとめ | 授業全体のまとめをおこなう。 |

| 担当者から一言 |
|---|
| 社会調査士資格認定科目（B科目）。 |

| 講義名 | 社会調査論 | | | | | | | 担当教員 | 中井　治郎※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1401140 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 130S0C103,133LVD107,135S0C202 | | | | | | | | |

## 授業概要

社会調査とは、社会事象を人間の社会的生活連関における意味に即して調査することをいう。本講義では、現代社会において社会的現実を知る有力な手段である社会調査の概要、歴史、種類、問題点など、基本的事項を概説するとともに、その意義について考える。

## 到達目標

(1)社会調査の分類や倫理に関する基本的事項が理解できる。
(2)社会調査の歴史や手法に関する知識と理解力を身につけることができる。
(3)国勢調査の特徴と課題について自らの考えを述べることができる。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 70% | 到達目標（３）については、論述式試験を行う。 |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 30% | 到達目標（１）（２）については、2回程度授業中に小レポートを実施する。 |

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。ただし、正当な事由があると認められる場合は考慮するので、事前または事後にその旨申し出ること。

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

教科書は使用しない。

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

参考書はその都度紹介する。必要に応じて授業中にプリント等の資料を配布する。

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 社会調査論 | | | | | | | 担当教員 | 中井　治郎※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1401140 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 130S0C103,133LVD107,135S0C202 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | 社会調査とは何か | 社会調査士資格、原語、主要な要素と性格、目的、意義などについて述べる。 |
| 第2回 | 社会調査の分類 | 実践的調査と科学的調査について述べる。 |
| 第3回 | 社会調査の類型 | 統計調査（センサス）、学術調査、世論調査、市場調査について述べる。 |
| 第4回 | 社会調査の歴史（１） | ヨーロッパの社会調査の歴史について概観する。 |
| 第5回 | 社会調査の歴史（２） | アメリカの社会調査の歴史について概観する。 |
| 第6回 | 社会調査の歴史（３） | 日本の社会調査の歴史について概観する。 |
| 第7回 | 国勢調査 | 日本の国勢調査の歴史、時期、地域、対象、事項、方法、問題点などについて述べる。 |
| 第8回 | 国際比較調査 | 国際比較調査の実際と課題について概説する。 |
| 第9回 | 調査研究の方法(1) | 量的調査と質的調査について概説する。 |
| 第10回 | 調査研究の方法(2) | 統計的方法と事例研究法について概説する。 |
| 第11回 | 調査票調査 | 調査の種類、手順、過程などについて述べる。 |
| 第12回 | フィールドワーク | 調査の種類、手順、過程などについて述べる。 |
| 第13回 | 様々なデータの活用 | ドキュメント分析や映像分析などについて、その手法と課題を述べる。 |
| 第14回 | 社会調査と倫理 | 調査の規範、倫理、調査とプライバシーなどについて述べる。 |
| 第15回 | まとめ | この授業全体について、総括を行う。 |

| 担当者から一言 |
|---|
| この科目は社会調査士資格科目でもあるので、社会調査士の資格を取得しようと思っている人は必ず受講してください。 |

| 講義名 | 住環境設計演習Ⅰ | | | | | | | 担当教員 | 佐々木　一泰／藤木　庸介 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1401210 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 233RED225 | | | | | | | | |

## 授業概要

初歩的な設計演習の第一歩として、構造を意識した木造住宅の設計を学ぶ。
第１課題では日本の戦後住宅の作品分析と、それをもとにした住宅の設計を行う。特に日本において中心的な構法である木造建築の知識と理解を深め、木造住宅の設計手法を高める。課題である住宅作品を理解したうえで、家族構成やテーマを新たに与え、条件にあった住空間を設計し、新たに増築する。
第2課題は、ショート課題として小規模な住宅の設計と、そのプレゼンテーションの作成を行う。

## 到達目標

(1)それぞれの構造の特徴を理解した住空間の設計が出来る。
(2)平面図，断面図，立面図を作成することができる。
(3)模型による素材や形，空間の表現ができる。
(4)構想・設計・プレゼンテーションスキルをトータルに身につける。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 0 | |
| レポート課題 | 0 | |
| 上記以外 | 100 | 出題課題による評価 |

## 授業外学習

課題にあたっての事前調査、エスキースチェック前に各自予め事前作業を行う。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 実務初心者からの木造住宅矩計図・詳細図の描き方 | 是永 美樹　他 | 彰国社 | 978-4395320059 |
| 2 | コンパクト建築設計資料集成「住居」 | 日本建築学会 | 丸善 | 978-4621076880 |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

基礎設計製図を履修していること

## 履修資格

| 講義名 | 住環境設計演習Ⅰ | | | | | | | 担当教員 | 佐々木　一泰／藤木　庸介 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1401210 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 233RED225 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | 第１課題：木造住宅・住空間の基礎-1 | 木造建築・住空間の設計：①課題説明 |
| 第2回 | 第１課題：木造住宅・住空間の基礎-2 | フィールドサーベイ，見学（計測＋調査）＋事例調査 |
| 第3回 | 第１課題：木造住宅・住空間の基礎-3 | 調査課題②・エスキースチェック・ワークショップ①・トレース① |
| 第4回 | 第１課題：木造住宅・住空間の基礎-4 | 調査課題③・エスキースチェック・ワークショップ②・トレース② |
| 第5回 | 第１課題：木造住宅・住空間の基礎-5 | 調査課題④・エスキースチェック・ワークショップ③・トレース③ |
| 第6回 | 第１課題：木造住宅・住空間の基礎-6 | 調査課題提出・中間講評 |
| 第7回 | 第１課題：木造住宅・住空間の基礎-7 | フィールドサーベイ，見学（計測＋調査）＋事例調査 |
| 第8回 | 第１課題：木造住宅・住空間の基礎-8 | エスキースチェック・ワークショップ④ |
| 第9回 | 第１課題：木造住宅・住空間の基礎-9 | エスキースチェック・ワークショップ⑤・最終図面制作 |
| 第10回 | 第１課題：木造住宅・住空間の基礎-10 | エスキースチェック・ワークショップ⑥・最終図面制作・最終模型制作 |
| 第11回 | 第１課題：木造住宅・住空間の基礎-11 | エスキースチェック・ワークショップ⑦・最終模型制作 |
| 第12回 | 第１課題：木造住宅・住空間の基礎-12、講評会 | 第１課題：木造住宅・住空間の基礎の作品講評会<br>第２課題：小規模な住宅課題の出題 |
| 第13回 | 第２課題：小規模な住宅課題-2 | 小規模な住宅課題：アイディアチェックとディスカッション |
| 第14回 | 第２課題：小規模な住宅課題-3 | 小規模な住宅課題：プレゼンテーション作成 |
| 第15回 | 第2課題：小規模な住宅課題-4、講評会 | 第2課題：小規模な住宅課題の作品講評会 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 住環境設計演習 II | | | | | | | 担当教員 | 宮本　雅子／藤木　庸介 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1401220 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 233RED321 | | | | | | | | |

## 授業概要

インテリア空間、並びに、地域や環境を考慮した住空間の設計課題を行う。
必要に応じて、設計の方法、製図の方法、模型制作の方法などを学習する。
随時、具体的な実例を参照し、設計に資する。

## 到達目標

(1)各自で設定したコンセプトに基づいた住空間の設計ができる。
(2)空間の各寸法に対する意味を理解する。
(3)平面図、展開図、透視図を作成することができる。
(4)模型による素材や形の表現ができる。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 100 | 課題の成果として提出される図面・模型等およびプレゼンテーションによって評価する(課題Ｉ：50%，課題II：50%）。<br>到達目標の(1)については20%、(2)については20%、(3)については30%、(4)については20%で評価する。 |

単位取得には，すべての課題を提出することが前提条件となる。
授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない。

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 初歩からの建築製図 | 藤木庸介・柳沢究（編著） | 学芸出版社 | ISBN978-4-7615-2587-3 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

参考書は授業内に適宜紹介する他、必要に応じてプリントを配布する

## 前提学力等

基礎設計製図、住環境設計演習Ｉを履修していること

## 履修資格

| 講義名 | 住環境設計演習 II | | | | | | | 担当教員 | 宮本　雅子／藤木　庸介 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1401220 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 233RED321 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | 課題 I ：集合住宅のリフォーム | 課題説明、ベース図面の作図 |
| 第2回 | 課題 I ：集合住宅のリフォーム | 展開図のトレース、エスキースチェック・ワークショップ① |
| 第3回 | 課題 I ：集合住宅のリフォーム | コンセプトの提出、エスキースチェック・ワークショップ② |
| 第4回 | 課題 I ：集合住宅のリフォーム | 透視図のトレース、図面制作 |
| 第5回 | 課題 I ：集合住宅のリフォーム | 模型制作説明、図面・模型制作 |
| 第6回 | 課題 I ：集合住宅のリフォーム | 図面の提出・模型制作 |
| 第7回 | 課題 I ：集合住宅のリフォーム | 模型制作 |
| 第8回 | 課題 I ：集合住宅のリフォーム | 課題 I 講評会・課題 II 出題 |
| 第9回 | 課題 II ：地域や環境を考慮した住空間 | 地域の調査・ワークショップ① |
| 第10回 | 課題 II ：地域や環境を考慮した住空間 | エスキースチェック・ワークショップ② |
| 第11回 | 課題 II ：地域や環境を考慮した住空間 | エスキースチェック・ワークショップ③ |
| 第12回 | 課題 II ：地域や環境を考慮した住空間 | プレゼンテーション制作①・チェック |
| 第13回 | 課題 II ：地域や環境を考慮した住空間 | プレゼンテーション制作②・チェック |
| 第14回 | 課題 II ：地域や環境を考慮した住空間 | プレゼンテーション制作③・チェック |
| 第15回 | 課題 II ：地域や環境を考慮した住空間 | 課題 II 講評会 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 住環境設計演習III | | | | | | | 担当教員 | 佐々木　一泰／藤木　庸介／山下　麻子※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1401230 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 333RED322 | | | | | | | | |

## 授業概要

住空間においてより広い視野を養う。第1課題では住居空間と公共性をもつ非住居空間を併用した建築物を計画する。それぞれの空間の特性を理解し，それぞれの設計条件を考慮した空間を考える。第2課題では，より社会性をもつ住空間として，社会性を反映した空間の設計を行う。地域や様々な家族構成，利用者のスケールを観察・理解し，周囲の外構空間や共用空間，個別空間に反映させる

第1課題では，フィールドサーベイ・住宅設計・店舗設計・ビジュアルコミュニケーションデザインを，第2課題では，上記に加え社会性のある課題をテーマに据え，さらに実務的な設計手法を学ぶ。それぞれの課題では，構想・設計・プレゼンテーションスキルをトータルに身につけることを目指す。

近年，資格関連の受験科目も住宅のみの出題に留まらず，店舗や施設の併用住宅の出題が多い。また，住宅メーカーも住宅から非住宅の建設や設計に幅を拡げつつある。この演習では，より社会的な視点で住空間を中心としながら，それぞれの空間を構想し，より広い視点で地域や社会の中の住環境を構想する。

## 到達目標

(1)それぞれの構造の特徴を理解した住空間の設計が出来る。
(2)周辺環境を理解した住空間の提案が出来る。
(3)平面図，断面図，立面図を作成することができる。
(4)模型による素材や形，空間の表現ができる。
(5)構想・設計・プレゼンテーションスキルをトータルに身につける。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 100 | 提出課題による評価 |

## 授業外学習

課題にあたっての事前調査，エスキースチェック前に各自予め事前作業を行う。また適宜，小課題を出題し，授業時間内に完成させる。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 初めての建築設計ステップ・バイ・ステップ | 川北 健雄　他 | 彰国社 | 978-4395241217 |
| 2 | コンパクト建築設計資料集成「住居」 | 日本建築学会 | 丸善 | 978-4621076880 |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

基礎設計製図、住環境設計演習を履修していること。

## 履修資格

| 講義名 | 住環境設計演習III | | | | | | | 担当教員 | 佐々木　一泰／藤木　庸介／山下　麻子※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1401230 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 333RED322 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | 課題1-1：公共性をもつ住空間① | 併用住宅：住居空間と非住居空間の設計，<br>課題説明 ，フィールドサーベイ，見学（計測＋調査） |
| 第2回 | 課題1-2：公共性をもつ住空間① | 練習課題＋エスキースチェック・ワークショップ①＋事例調査 |
| 第3回 | 課題1-3：公共性をもつ住空間① | 練習課題＋エスキースチェック・ワークショップ② |
| 第4回 | 課題1-4：公共性をもつ住空間① | 練習課題＋エスキースチェック・ワークショップ③ |
| 第5回 | 課題1-5：公共性をもつ住空間① | 図面・模型制作① |
| 第6回 | 課題1-6：公共性をもつ住空間① | 図面・模型制作② |
| 第7回 | 課題1-7：公共性をもつ住空間① | 図面・模型制作③ |
| 第8回 | 課題1-8：公共性をもつ住空間①：<br>提出・講評 | 公共性をもつ住空間①：提出・講評会<br>公共性をもつ住空間②：課題説明 |
| 第9回 | 課題2-2：公共性をもつ住空間② | 課題説明 ，フィールドサーベイ，見学（計測＋調査） |
| 第10回 | 課題2-3：公共性をもつ住空間② | エスキースチェック・ワークショップ①＋事例調査 |
| 第11回 | 課題2-4：公共性をもつ住空間② | エスキースチェック・ワークショップ② |
| 第12回 | 課題2-5：公共性をもつ住空間② | エスキースチェック・ワークショップ③ |
| 第13回 | 課題2-6：公共性をもつ住空間② | 図面・模型制作① |
| 第14回 | 課題2-7：公共性をもつ住空間② | 図面・模型制作② |
| 第15回 | 課題2-8：公共性をもつ住空間② | 提出・講評会 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| 関西で活躍する女性建築家による演習です。 |

| 講義名 | 住環境論 | | | | | | | 担当教員 | 宮本　雅子 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1401250 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 333RED221 | | | | | | | | |

**授業概要**

超高齢社会に突入した今日、建築の分野では高齢者・障害者にとって好ましい住環境について理解することは避けて通れない。そこで、まず高齢社会における住宅の考え方を理解し、高齢者・障害者に対応した住まいの条件について知る。また、住環境の中でも室内の物理的環境である熱、空気、光を取り上げ、人間と物理量との関係から快適な居住環境をつくりだすための条件を導き出すとともに、自然環境を積極的に利用した室内の環境づくりについて講義する。

**到達目標**

(1)空間デザインの中に活かせる知識を得る。
(2)環境条件の評価ができる。

**成績評価**

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 100 | 到達目標の(1)空間デザインの中に活かせる知識を得る、については、期末試験40%、レスポンスペーパー20%、(2)環境条件の評価ができるについては、小テスト30%、レポート10%で評価する。 |

レポート１回、小テスト２回、宿題を課すことがある。

**授業外学習**

**教科書**

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

**参考書**

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

「コンパクト建築設計資料集成バリアフリー」「シックハウスを防ぐ最新知識」等、講義の中で適宜紹介。

**前提学力等**

**履修資格**

| 講義名 | 住環境論 | | | | | | | 担当教員 | 宮本　雅子 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1401250 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 333RED221 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | 高齢社会における住宅１ | 高齢者・障害者と住環境 |
| 第2回 | 高齢社会における住宅２ | 高齢社会における住宅の考え方 |
| 第3回 | 高齢社会における住宅３ | 高齢者・障害者に対応した住まい |
| 第4回 | 温熱環境１ | 温熱要素と快適条件 |
| 第5回 | 温熱環境２ | 建築材料と熱の伝わり方 |
| 第6回 | 温熱環境３ | 湿気と結露 |
| 第7回 | 空気環境 | 小テスト、シックハウス症候群とその対策 |
| 第8回 | 光環境１ | 測光量とその単位、人間の視覚特性 |
| 第9回 | 光環境２ | 快適な光環境のための要件 |
| 第10回 | 光環境３ | 人工照明を利用した照明計画 |
| 第11回 | 光環境４ | 昼光を利用した照明計画 |
| 第12回 | 環境共生住宅１ | 小テスト、環境共生住宅の計画手法 |
| 第13回 | 環境共生住宅２ | 建物への日照利用とその効果 |
| 第14回 | 環境共生住宅３ | パッシブクーリングの手法とその効果 |
| 第15回 | まとめ | 全体まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 消費科学Ⅰ | | | | | | | 担当教員 | 松永　伸洋※／安部　正毅※／小林　重信※／永野　暁※／藤本　昌則※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1401350 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 233FSD262 | | | | | | | | |

**授業概要**

繊維に関する基礎知識（繊維、糸、布地、染色加工）および衣料品の企画・設計・製造・苦情事例と解析に関する基本事項を習得する。

**到達目標**

(1)繊維製品の企画および使用に係る問題を考察するための基礎的能力を養う。
(2)望ましくは、繊維製品品質管理士（TES)の資格試験における当該科目の問題に対応できる程度の能力を身につけること。

**成績評価**

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 60% | 定期試験と小テスト（「上記以外」参照）の得点を６：４の割合で総合評価し、満点の６０%以上の得点を合格点とする。 |
| レポート課題 | | 事例解析レポート課題の得点を定期試験の一部に組み込むこともある。 |
| 上記以外 | 40% | 各講義の後で小テストを行う。（１～２時限に1回程度） |

**授業外学習**

**教科書**

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

テキストは各講師が作成し、講義前に配布する。

**参考書**

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 繊維製品の基礎知識シリーズ 第1,2,3部 | 日本衣料管理協会刊行委員会編 | 日本衣料管理協会 | |
| 2 | 繊維製品の品質苦情ｶﾞｲﾄﾞ | 日本衣料管理協会刊行委員会編 | 日本衣料管理協会 | |
| 3 | 繊維製品の苦情処理技術ｶﾞｲﾄﾞ | 日本衣料管理協会刊行委員会編 | 日本衣料管理協会 | |

繊維製品品質管理士試験問題集（平成25－29年度）

**前提学力等**

**履修資格**

| 講義名 | 消費科学Ⅰ | | | | | | | 担当教員 | 松永　伸洋※／安部　正毅※／小林　重信※／永野　暁※／藤本　昌則※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1401350 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 233FSD262 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | 繊維・糸・布地に関する基礎知識 | 繊維に関する基礎知識①　天然繊維について |
| 第2回 | 繊維・糸・布地に関する基礎知識 | 繊維に関する基礎知識②　化学繊維について |
| 第3回 | 繊維・糸・布地に関する基礎知識 | 繊維に関する基礎知識③　繊維の一般的性質 |
| 第4回 | 繊維・糸・布地に関する基礎知識 | 糸に関する基礎知識①　紡績糸の作り方 |
| 第5回 | 繊維・糸・布地に関する基礎知識 | 糸に関する基礎知識②　加工糸の概要 |
| 第6回 | 繊維・糸・布地に関する基礎知識 | 布地に関する基礎知識①　織物組織と特徴 |
| 第7回 | 繊維・糸・布地に関する基礎知識 | 布地に関する基礎知識②　ニット、不織布について作り方と特徴 |
| 第8回 | 染色加工 | 染色加工①　準備・染色について |
| 第9回 | 染色加工 | 染色加工②　色合わせ・仕上げ加工について |
| 第10回 | 色に関する苦情事例解析 | 色に関する苦情事例解析①　事例紹介と解説 |
| 第11回 | 色に関する苦情事例解析 | 色に関する苦情事例解析②　実物を用いた解析 |
| 第12回 | 衣料品の企画・設計 | 衣料品の企画・設計　アパレルの商品企画 |
| 第13回 | 衣料品の製造 | 衣料品の製造　縫製工程について |
| 第14回 | 縫製・安全性・表示等に関する事例解析 | 縫製・安全性・表示等に関する事例解析①<br>事例紹介と解説 |
| 第15回 | 縫製・安全性・表示等に関する事例解析 | 縫製・安全性・表示等に関する事例解析②<br>繊維製品の表示に関する解説 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 消費科学Ⅱ | | | | | | | 担当教員 | 松永　伸洋※／金田　哲郎※／永野　暁※／藤本　昌則※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1401360 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期前半 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 333FSD361 | | | | | | | | |

**授業概要**

消費科学Ⅰに引き続き、繊維製品の品質管理、要求品質とその評価方法ならびに消費者行動、消費者問題、家庭用繊維製品の流通・消費過程、消費者苦情・環境問題について学習する。さらに消費者苦情事例から苦情原因の究明、改善・再発防止対策を考え、また繊維産業・繊維製品に関する時宜を得た話題について、論文の実践的な書き方を学習する。

**到達目標**

繊維製品、主として衣料品の品質管理の実施、要求品質・性能の内容ならびに流通・消費者問題について理解できるようにする。繊維製品品質管理士（ＴＥＳ）の資格試験を受験できるレベルに到達するように学習する。

**成績評価**

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 60% | 定期試験と小テスト（「上記以外」参照）の得点を６：４の割合で総合評価し、６０点以上を合格とする。 |
| レポート課題 | | 事例問題、論文については小テストに代えてレポート提出で評価するが、得点は小テストに繰り入れる。 |
| 上記以外 | 40% | 原則として、各講義の後に小テストを行う。事例問題や論文については、小テストに代えてレポート提出で評価する。 |

**授業外学習**

**教科書**

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

講師が作成したテキストを使用する。テキストは初回の授業で配布する。その他必要に応じてプリントを配布する。

**参考書**

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 繊維製品の基礎知識 | 日本衣料管理協会 | 日本衣料管理協会 | |
| 2 | 繊維製品の品質苦情ガイド | 日本衣料管理協会 | 日本衣料管理協会 | |
| 3 | 繊維製品の苦情処理技術ガイド | 日本衣料管理協会 | 日本衣料管理協会 | |

必要に応じてプリントを配布する。

**前提学力等**

**履修資格**

| 講義名 | 消費科学Ⅱ | | | | | | | 担当教員 | 松永　伸洋※／金田　哲郎※／永野　暁※／藤本　昌則※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1401360 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期前半 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 333FSD361 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | 品質管理と品質保証 | ①品質管理とは。 |
| 第2回 | 品質管理と品質保証 | ②品質管理の手法 |
| 第3回 | 衣料品などの消費性能と試験方法 | ①耐久性（初期性能の持続性）<br>丈夫さ、寸法安定性（収縮、伸び、変形）、変退 |
| 第4回 | 衣料品などの消費性能と試験方法 | ②取扱い利便性<br>洗濯、アイロンがけ、保管 |
| 第5回 | 衣料品などの消費性能と試験方法 | ④快適性（着心地のよさ）<br>肌触り・風合い、被服圧 |
| 第6回 | 衣料品などの消費性能と試験方法 | ⑤特殊性能<br>難燃性、撥水撥油性、紫外線カット性、耐薬品性、制　電性、抗菌・防臭性など |
| 第7回 | 消費者行動とその調査方法 | 消費者はどのような動機で買い物をするか<br>商品の分類 |
| 第8回 | 消費者問題と消費者行政 | 不当景品類および不当表示防止法<br>家庭用品品質表示法 |
| 第9回 | 経済変化と衣料の流通・消費 | 繊維産業（製造・流通）の実態<br>販売業種、販売業態など |
| 第10回 | 衣料品の消費と消費者苦情 | ①衣料品の消費と損耗過程<br>家庭洗濯、商業クリーニングの実態と苦情 |
| 第11回 | 衣料品の消費と消費者苦情 | ②消費者苦情の実態と発生要因<br>品質表示（取扱い絵表示）とサイズ表示 |
| 第12回 | 衣料品の環境問題 | 廃棄物処理とリサイクルの推進<br>環境問題に対する製造、加工技術の取り組み |
| 第13回 | 損傷・形態変化などに関する苦情事例 | 衣料の破れ、収縮、伸び、しわ、ピリングなどの苦情事例につて、原因の究明と再発予防対策を学習する。 |
| 第14回 | 繊維産業、繊維製品に関する論文の書き方 | 時宜を得た問題を提示して，簡潔で要旨一貫した論文の書き方を学習する。 |
| 第15回 | 事例問題・論文の添削、解説 | 全体結果の講評 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 消費者行動論 | | | | | | | 担当教員 | 山田　歩 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1401370 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 333MKD281 | | | | | | | | |

## 授業概要

本講義では、行動経済学と行動デザインの視点から、生活者・消費者を動かすメカニズムについて考えます。「人を動かす」もしくは「人が動く」仕組みと仕掛けを分析し、リアルな社会の中での人びとの振舞いを理解し、またそれを方向づける方法について検討を加えていきます。授業のなかではコンペティションに応募するアイデアを企画するといった作業も含まれます。

## 到達目標

1．消費者行動論の基本的な考え方を理解する。
2．それらの知識をもちいて、現実の消費現象、企業のマーケティング活動を理解・分析できる。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | 100 | 1）販促会議企画コンペティションへの取り組み<br>2）選択アーキテクチャに関する分析と発表 |
| 上記以外 | | |

レポートを提出しなかった者、最終プレゼンテーションを行わなかった者は評価の対象としない。

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 消費者行動論 | | | | | | | 担当教員 | 山田　歩 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1401370 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 333MKD281 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | コミュニケーション・デザイン | コミュニケーション・デザインとは |
| 第2回 | コミュニケーション・デザイン | 「販促会議企画コンペティション」からコミュニケーション・デザインを考える |
| 第3回 | コミュニケーション・デザイン | 「販促会議販促会議企画コンペティション」の企画 |
| 第4回 | コミュニケーション・デザイン | 「販促会議販促会議企画コンペティション」の企画（発表） |
| 第5回 | コミュニケーション・デザイン | 「販促会議販促会議企画コンペティション」の企画（発表） |
| 第6回 | コミュニケーション・デザイン | 「販促会議販促会議企画コンペティション」の企画（発表） |
| 第7回 | 選択アーキテクチャの設計 | 選択行動の仕組みとデザイン |
| 第8回 | 選択アーキテクチャの設計 | 選択行動の仕組みとデザイン |
| 第9回 | 選択アーキテクチャの設計 | 選択行動の仕組みとデザイン |
| 第10回 | 選択アーキテクチャの設計 | 選択行動の仕組みとデザイン |
| 第11回 | 選択アーキテクチャの設計 | 選択行動の仕組みとデザイン（発表） |
| 第12回 | 選択アーキテクチャの設計 | 選択行動の仕組みとデザイン（発表） |
| 第13回 | 説得的コミュニケーション | 対人コミュニケーションと消費者行動 |
| 第14回 | 説得的コミュニケーション | 対人コミュニケーションと消費者行動 |
| 第15回 | 説得的コミュニケーション | 対人コミュニケーションと消費者行動 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 消費生活論 | | | | | | | 担当教員 | 小牧　美江※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1401380 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 133MKD182,134NUT214,135LAH207 | | | | | | | | |

## 授業概要

私たちは、生活に必要な商品（物・サービス）を購入し、消費することで生活を営んでいる「消費者」である。消費生活論は、私たちの生活のあらゆる場面を消費者が行う消費の側面から分析し、その成果をもとに、より良い消費行動を通じて経済活動を活性化し、消費者被害・消費者問題の発生を防ぎ、消費者被害救済のシステムを改善するなど、私たちの生活の改善や社会の改善につなげていく学問である。

本講義では、消費生活を分析する視点として、「法」と「人権」に着目する。「消費」を「契約」（法律行為）という法の視点から分析し直し、そこに登場する「消費者」「事業者」の権利と責任、関係性、消費者トラブルの実情と原因、消費者法・消費者行政が果たす役割、消費者の人権について考えていく。

消費者が、社会問題、倫理、世界情勢、将来世代の状況等、様々な社会状況や課題を考慮して消費行動を選択することで事業者や政府に対して能動的に働きかけを行うことを通じて、消費者自身の権利を守り、公正な事業活動を促進し、その結果として構築される公正で持続可能な社会を「消費者市民社会」という。本講義では、この消費者市民社会の実現をめざす「消費者市民」とはどのような消費者なのかについても、消費者の権利と責任をキーワードとして考え、自らも「消費者市民」としての行動ができるようになることをめざす。また、「消費者市民を育てる消費者教育」のあり方についても考えていく。

講義形式を中心とするが、適宜、グループ討論やプレゼンテーションなどの演習も取り入れる。

## 到達目標

(1)消費生活をさまざまな角度から分析するための基礎となる知識を学び、自分の言葉で説明することができるようになる。
(2)消費者である自分自身の消費生活に関わる課題に気づき、その課題解決に必要な情報を収集・分析し、課題を解決しようとする態度を身につけることができる。
(3)消費者の権利と責任、消費者市民社会について理解し、消費者市民としての行動ができるようになる。
(4)消費者教育が様々な年齢層・場面等に応じて行われることを学び、自分が消費者教育に関わることができる場面と方法を見つけることができるようになる。
(5)消費生活をさまざまな側面から分析することを学び、自分が専門に研究を深めたいと考えている分野の学問と消費生活との接点を見つけることができるようになる。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 0 | |
| レポート課題 | 50 | 到達目標(1)(4)(5)については、レポート試験を課す。50点満点とし、課題を理解し説明できているか（25点）、自分の学習成果を盛り込み見解を述べているか（15点）、レポート全体が文章として完成しているか（10点）の３基準で採点する。レポート作成方法については、授業中に指導する。 |
| 上記以外 | 50 | 到達目標(2)(3)については、授業中に提示する小レポートの成果（20点満点）と、課題レポートについての課題発表会での発表（プレゼンテーション）の成果と発表方法（30点満点）を採点する。レポート作成・発表方法については、授業中に指導する。 |

全15回のうち5回以上欠席した場合は評価の対象としない。

## 授業外学習

授業外においても、消費者庁、国民生活センター、適格消費者団体等のウェブサイトで公開されている消費者被害情報など、消費者に関する情報や報道に注目し、自身の消費者としての日常生活における行動を点検する姿勢を身に付けてほしい。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 新しい消費者教育　－これからの消費生活を考える | 神山久美・中村年春・細川幸一編著／日本消費者教育学会関東支部 | 慶應義塾大学出版会 | 9784766423075 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

授業中に配付するレジュメ・資料と共に用いる。

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 18歳から考える消費者と法・第２版 | 坂東俊矢・細川幸一 | 法律文化社 | 9784589036124 |
| 2 | ジェンダーで学ぶ生活経済論・第２版 | 伊藤純・斎藤悦子 | ミネルヴァ書房 | 9784623073542 |
| 3 | 消費者政策－消費生活論・第５版 | 鈴木深雪 | 尚学社 | 9784860310806 |

この他、授業中に参考図書を適宜紹介する。

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 消費生活論 | | | | | | | 担当教員 | 小牧　美江※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1401380 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 133MKD182,134NUT214,135LAH207 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | 現代の消費生活（ガイダンス） | 講義の全体像と各講義テーマの位置付け、到達目標を示すとともに、消費者問題、消費者運動の歴史と現状を概観し、「消費生活」の研究・分析のための視点を示す。 |
| 第2回 | 消費生活と法　―「契約」から「消費」を考える | 「消費」という現象を「契約」（法律行為）という法の視点から分析し直す。契約の原則から、消費者・事業者の権利と責任、関係性について考える。 |
| 第3回 | 消費生活と子ども | 子ども消費者（幼児、小・中・高校生）の消費文化と消費者トラブルの実情、子どもの権利条約から見た子ども消費者の権利について考える。 |
| 第4回 | 消費生活と高齢者・障がいのある消費者 | 高齢者・障がいのある消費者の消費者トラブルの実情、成年後見制度について、人権の視点から考える。 |
| 第5回 | 消費生活とジェンダー | ジェンダーバイアスや性差別が存在することで、消費者・事業者の意思決定過程にどのような影響が及ぶかなど、消費生活における諸課題をジェンダーの視点から見直し、考える。 |
| 第6回 | 契約トラブル　―消費者法・消費者行政の役割 | 消費生活における民法及び消費者に関する法律の役割、消費者行政の必要性と役割、消費者政策のあり方について考える。 |
| 第7回 | 意思決定過程と家計管理　－衣生活・食生活の諸課題 | 衣生活・食生活の諸課題を例として、消費行動における意思決定過程と家計管理、消費者信用について考える。 |
| 第8回 | 住生活の法律と生活設計 | 住宅の契約（売買、賃貸借）に関する法律、住生活の諸課題と生活設計について考える。 |
| 第9回 | 消費生活と情報・安全 | 事業者による広告・表示など、安全に関する情報を含む情報発信のあり方、消費者による消費生活情報の収集の課題、批判的思考について考える。 |
| 第10回 | 消費生活と環境 | 持続可能な消費と資源・エネルギー・環境保護に関する諸課題、持続可能な開発のための教育（ESD）について考える。 |
| 第11回 | 消費者市民社会と消費者教育 | 「消費者市民社会」の担い手となる「消費者市民」を育てるための消費者教育について、消費者教育体系イメージマップをもとに考える。 |
| 第12回 | 学校教育と消費者教育 | 学習指導要領の消費者教育に関する内容を確認し、教科教育（家庭科、社会科、公民科）における消費者教育、金融経済教育の課題について考える。 |
| 第13回 | 「消費者市民」を実践する（課題発表） | 消費生活に関する課題発表を通じて、「消費者市民」として、主張し、行動する方法を考え、実践する。 |
| 第14回 | 「消費者市民」を実践する（相互評価） | 課題発表による情報を、「消費者市民」として、批判的に検討する方法を考え、実践する。 |
| 第15回 | 消費者市民社会の実現のために（総括） | 消費生活論の学習内容全体を振り返り、消費者市民社会実現のために、自分は「消費者」として何をすべきか、自分の研究課題の中で何ができるかについて考える。 |

| 担当者から一言 |
|---|
| 担当者は、司法書士でもあります。法律専門家にとっても、消費生活論は非常に興味深い学問です。その興味深さを皆さんと共有できればと考えています。 |

| 講義名 | 心理学基礎 | | | | | | | 担当教員 | 後藤　崇志 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1401540 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 133LVD105,134NUT106,135PSY201 | | | | | | | | |

## 授業概要

現代心理学の基本的なテーマについて解説する。人間の行動の仕組みや行動の予測、制御のメカニズム、人間発達の原理や人格形成の理論などのテーマをとりあげる。心理学的なアプローチにより人間を理解しようとするための基礎的な知識や考え方を身に着けることを目的とする。

## 到達目標

(1) 人の思考や行動、社会生活などを支える心の仕組みの基礎について理解を深める。
(2) 人の心の仕組みを明らかにし、社会に活かそうとする科学的なアプローチについて理解を深める。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 60% | 授業でとりあげたトピックについての課題認識および心理学の多様な内容と方法への理解によって評価する。 |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 40% | 授業中に提出を求める小レポートによって、受講者なりの問題理解と問題設定ができているかを評価する。 |

授業時に実験や質問紙調査などの心理学的な研究手法の体験学習をとりいれるので、積極的な参加を求める。

## 授業外学習

参考書や授業中に紹介する資料・ウェブサイト等を読み、授業内容についてより深く理解できるように努めることが望ましい。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 心の科学―理論から現実社会へ［第2版］ | 兵藤宗吉・緑川 昌 編 | ナカニシヤ出版 | 9784779511431 |
| 2 | 教育認知心理学の展望 | 子安増生・楠見 孝・齊藤 智・野村理朗 編 | ナカニシヤ出版 | 9784779510496 |
| 3 | | | | |

各回のテーマごとに、適宜、授業中に参考書を紹介する

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 心理学基礎 | | | | | | | 担当教員 | 後藤　崇志 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1401540 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 133LVD105,134NUT106,135PSY201 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | イントロダクション | 心理学の歴史や、領域・研究手法の多様性について学ぶ。 |
| 第2回 | 感覚と知覚 | 人が外界からの刺激をどのように受け取っているかを学ぶ。 |
| 第3回 | 学習と行動 | 生物の行動が経験を通じて変化する仕組みの基礎について学ぶ。 |
| 第4回 | 記憶と認知 | 記憶に関わる諸現象と、それらの現象を支える心の仕組みについて学ぶ。 |
| 第5回 | 思考と言語 | 人の言語や思考、判断を支える心の仕組みについて学ぶ。 |
| 第6回 | 感情 | 感情が喚起される仕組みや、機能について学ぶ。 |
| 第7回 | 動機づけ | 行動を動機づける心の仕組みについて学ぶ。 |
| 第8回 | メタ認知 | 自分の心の状態を観察し、コントロールする心の仕組みについて学ぶ。 |
| 第9回 | 共感と社会性 | 他者との関わりや社会生活を可能にする心の仕組みについて学ぶ。 |
| 第10回 | 知能とパーソナリティ | 人の個人差を記述し、理解しようとする心理学の試みについて学ぶ。 |
| 第11回 | 発達と進化 | 人の心の起源や、環境適応的な特徴を理解しようとする心理学の試みについて学ぶ |
| 第12回 | 集団と文化 | 集団・社会生活を行う中で生じる現象を理解しようとする心理学の試みについて学ぶ。 |
| 第13回 | 教育 | 教育の現場を理解し、改善に活かそうとする心理学の試みについて学ぶ。 |
| 第14回 | 病理と臨床 | 心の病理を理解し、治療に役立てようとする心理学の試みについて学ぶ。 |
| 第15回 | まとめ | 講義で扱った様々な概念の関係性について俯瞰しつつ、発展的な学習に向けた紹介を行う。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 生活経営論 | | | | | | | 担当教員 | 山田　歩 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1401560 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 333MKD282,234NUT371,335LAH308 | | | | | | | | |

## 授業概要

この授業では、私たちを取りまく生活環境を学び、現在そして将来、私たちの生活をよりよくマネジメントする力とそれらを改善する力を身につけることを目標とします。身近な生活課題をとりあげると同時に、ソーシャル・デザインの視点から展開されている様ざまなコミュニケーション施策をみていくことで、現在と将来の自分の生活を見つめ直し、それらをよりよいものに設計することに役立ててもらいたいと考えます。授業では受講生みずからも課題を発見し、それを解決するアイデアを考えてもらいます。

## 到達目標

1.私たちを取りまく生活環境を理解しているか
2.社会や生活者が抱える課題を発見し、それらを解決する力を身につけているｊか

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | 100 | 社会や生活者が抱える問題を発見する力、また、それらを解決する力について評価する。 |
| 上記以外 | | |

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | アイデアは地球を救う。希望をつくる仕事　ソーシャルデザイン | ソーシャルデザイン会議実行委員会 | 宣伝会議 | |
| 2 | Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ　Ｓｈｉｆｔ | 並河進 | 羽鳥書店 | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 生活経営論 | | | | | | | 担当教員 | 山田　歩 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1401560 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 333MKD282,234NUT371,335LAH308 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | オリエンテーション | 講義全体のオリエンを行います。 |
| 第2回 | 環境 | 地球環境<br>消費社会 |
| 第3回 | 環境 | 地球環境<br>消費社会 |
| 第4回 | 家族 | 人口と世帯の変化<br>結婚・夫婦関係 |
| 第5回 | 家族 | 人口と世帯の変化<br>結婚・夫婦関係 |
| 第6回 | 家族 | 人口と世帯の変化<br>結婚・夫婦関係 |
| 第7回 | 健康 | 健康<br>悩み |
| 第8回 | 健康 | 健康<br>悩み |
| 第9回 | 地域社会 | 地域や人とのかかわり方<br>地域の安全・安心対策 |
| 第10回 | 地域社会 | 地域や人とのかかわり方<br>地域の安全・安心対策 |
| 第11回 | プレゼンテーション | 生活課題・社会課題の改善策について提案する |
| 第12回 | プレゼンテーション | 生活課題・社会課題の改善策について提案する |
| 第13回 | プレゼンテーション | 生活課題・社会課題の改善策について提案する |
| 第14回 | プレゼンテーション | 生活課題・社会課題の改善策について提案する |
| 第15回 | プレゼンテーション | 生活課題・社会課題の改善策について提案する |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 生活造形基礎演習 | | | | | | | 担当教員 | 南　政宏／冨原　仁美※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1401580 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 133LVD202 | | | | | | | | |

## 授業概要

あらゆるデザイン活動の基礎となる「観察力」「表現力」「想像力」を、色彩・立体構成などの制作を通して学ぶ。
思考から制作に至るまでのプロセスや柔軟な発想と表現力を身につける。
平面色彩構成では、テーマに沿って、色を混色し、選択し、配置する。
立体色彩構成では、平面で得た技術を立体へ展開し、空間を創ることを学ぶ。
石膏表現では、テーマを立体で表現し、削ることから生みだす形態操作、造形手法の基本技法を習得させる。
最終課題では、それまでに学んだことの集大成として、アイデアを発想し、複合的に思考し、形や色へ落とし込む作業をする。
確かな基礎造形力を身につけることで、その後の専門性を最大限に高めてゆくことを目指す。

## 到達目標

今後、上位のデザイン演習に対応できるよう基礎力を身につける。（１）色彩感覚、（２）発想力、（３）造形力・構成力（４）表現力を習得する。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 100 | 毎回の講評時の採点の合算により評価 |

３分の１以上欠席した者は評価対象にしない。

## 授業外学習

演習課題の多くは授業時間外での作業となる。計画的な時間の使い方が必要である。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | なし | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

アクリルガッシュ、スケッチブック、クロッキー帳、ペンシルホルダー、30度カッター、カッターマット，スチのり、彫刻刀、紙やすり等の専用の

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

絵の具の使い方や、カッターの使い方に関する基礎的な能力がある方が望ましい。

## 履修資格

| 講義名 | 生活造形基礎演習 | | | | | | | 担当教員 | 南　政宏／冨原　仁美※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1401580 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 133LVD202 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | ガイダンス<br>シンボルマーク出題 | シンボルマークをデザインし，表現する。<br>エスキース |
| 第2回 | シンボルマーク講評 | シンボルマークをデザインし，表現する。 |
| 第3回 | ワイヤーによるスケッチ講評 | ワイヤーを用いてスケッチをする。 |
| 第4回 | 立体構成 | 立体を構成する。 |
| 第5回 | 平面色彩構成　色の帯講評 | 色彩構成をする。 |
| 第6回 | デザイナーズポスターのデザイン<br>エスキース | 各自与えられたデザイナーについて調査し，ポスターをデザインする。 |
| 第7回 | デザイナーズポスターのデザイン<br>講評 | デザインしたポスターを講評する。 |
| 第8回 | スチレンボードによる立体構成 | スチレンボードの切り方を学ぶ<br>スチレンボードを用いて立体を構成する。 |
| 第9回 | 粘土によるテーマの表現 | 粘土を使って与えられたテーマを表現する。 |
| 第10回 | 石膏によるテーマの表現　講評 | 石膏を使って与えられたテーマを表現したものを講評する。 |
| 第11回 | 色彩構成と立体構成の複合課題<br>スタディー | 色彩構成と立体構成の複合課題 |
| 第12回 | 色彩構成と立体構成の複合課題<br>スケッチ | 色彩構成と立体構成の複合課題 |
| 第13回 | 色彩構成と立体構成の複合課題<br>エスキース | 色彩構成と立体構成の複合課題 |
| 第14回 | 色彩構成と立体構成の複合課題<br>エスキース | 色彩構成と立体構成の複合課題 |
| 第15回 | 色彩構成と立体構成の複合課題<br>講評 | 色彩構成と立体構成の複合課題で完成作品を講評する。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| 進行状況や休日の関係で授業内容は変更になる場合もある。 |

| 講義名 | 生活素材論 | | | | | | | 担当教員 | 三宅　肇※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1401620 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 233FSD261 | | | | | | | | |

## 授業概要

　私達消費者の立場で衣服を着用する場合、１．デザイン　２．色柄　３．着心地　が悪くなければ気に入る。しかし、それだけでよいのだろうか。デザインしたり、制作したりする立場では、素材をよく知り、それを充分に生かす使い方のできる能力が要求される。そこで、本講義では、生活に多く用いられる素材である繊維に焦点をあて、繊維の種類、構造、性能の概要を解説する。さらに、素材への付加価値の付与として、仕上げ加工、改質加工等の原理と実際について述べる。ついで、高性能素材としての繊維の最近の進歩について触れ、新しい技術開発を紹介し、素材についての理解を深める。

## 到達目標

(1)商品を開発する上で、「デザイン」と「素材（材料）」の両立の必要性、重要性を知ることができる。
(2)衣服などの繊維製品の素材がどのような意味を持って使われているのかを知ることができる。
(3)繊維原料から衣服になるまでの工程を理解することができる。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 70 | 講義内容から特に重要な項目を出題。採点の70/100とレポート点を合算して成績評価を行う。 |
| レポート課題 | 30 | 出題テーマについて、講義で学んだ知見が生かされているかなどの観点から採点を行い、定期試験点数と合算して成績評価を行う。 |
| 上記以外 | | |

授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない

## 授業外学習

身の回りにある素材を題材にした講義です。予習や復習を積極的に行って頂く必要はありませんが、講義で習ったことを日常生活の中で意識することが最大の復習になります。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 生活素材論 | | | | | | | 担当教員 | 三宅　肇※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1401620 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 233FSD261 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | 序説：生活素材とは | 生活素材とは何かを説明し、身の回りの材料と素材の分類を学ぶ |
| 第2回 | 繊維やプラスチックについて | 代表的な生活素材である繊維やプラスチックの基本について学ぶ |
| 第3回 | 繊維の基礎（衣服の原料や繊維の形状） | 繊維とは何かについて学ぶ |
| 第4回 | 繊維各論①　植物繊維　（種子毛繊維、靭皮繊維） | 繊維の種類や特徴について学ぶ |
| 第5回 | 繊維各論②　動物繊維　（繭繊維、獣毛繊維） | 繊維の種類や特徴について学ぶ |
| 第6回 | 繊維各論③　化学繊維　（分類、特徴、製造方法） | 繊維の種類や特徴について学ぶ |
| 第7回 | 中間まとめ | |
| 第8回 | 糸の基礎（糸の種類や表し方） | 糸の種類や特徴作り方について学ぶ |
| 第9回 | 布の基礎（織物、編物、不織布について） | 布の種類や特徴、作り方について学ぶ |
| 第10回 | 織物の基礎①（織物の種類） | 布の一種である織物の種類について学ぶ |
| 第11回 | 織物の基礎②（織物の特徴） | 布の一種である織物の特徴について学ぶ |
| 第12回 | 染色の基礎 | 染色の種類や方法、特徴について学ぶ |
| 第13回 | 素材への付加価値の付与　（仕上げ加工、改質加工） | 商品としての付加価値の必要性や種類などについて学ぶ |
| 第14回 | 衣服の快適性について | 衣服の快適性に影響する項目について学ぶ |
| 第15回 | 全体まとめ | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| どのような分野においても「良い商品」を産み出すためには、「デザイン」と「素材」の両輪が必要です。身の回りのモノを科学的に見ることができる力を身につけて頂きたいと思っています。 |

| 講義名 | 生活デザイン学外演習 | | | | | | | 担当教員 | 学科教員／印南　比呂志／面矢　慎介／佐々木　一泰／藤木　庸介／南　政宏／宮本　雅子／森下　あおい／山田　歩／横田　尚美 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1401630 | 単位数 | 2 | 開講期 | 通年集中 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 233LVD207-C | | | | | | | | |

**授業概要**

地域や社会において、よりよい生活環境を実現するために何が問題なのかを明らかにする。問題に取り組む意識や立場、有効な手法を議論し、その解決方法を検討し、レポートの作成、具体的な提案や発表、制作等を行う。授業は具体的な課題やテーマに即し、フィールドワークを中心として行われる。

**到達目標**

地域、社会に関わる問題について専門的視点から分析、考察し、解決・提案できる総合的な生活デザイン能力の習得をめざす。

**成績評価**

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 100 | フィールドにおける演習、およびレポート等の提出、発表などにもとづき評価する。 |

**授業外学習**

**教科書**

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

**参考書**

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

授業時間内に適宜紹介

**前提学力等**

**履修資格**

| 講義名 | 生活デザイン学外演習 | | | | | | | 担当教員 | 学科教員／印南　比呂志／面矢　慎介／佐々木　一泰／藤木　庸介／南　政宏／宮本　雅子／森下　あおい／山田　歩／横田　尚美 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1401630 | 単位数 | 2 | 開講期 | 通年集中 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 233LVD207-C | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | オリエンテーション | 演習内容の説明 |
| 第2回 | ２回目以降<br>フィールドワーク等 | テーマによっては休暇期間中にフィールドワーク等の演習を実施する場合がある。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 木匠塾（生活デザイン） | | | | | | | 担当教員 | 佐々木　一泰 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1401635 | 単位数 | 2 | 開講期 | 通年集中 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | | | | | | | | | |

## 授業概要

日本は国土の約7割を森林が占めている森林国であり，日本には木を生活の中に活かしコントロールする技術がある．しかし現在日本の森林は大きな問題を抱えている．そこで，木-山-木造について，広い視野に立ち，実地に学ぶことを目指す．ここでは木材等の生物材料を中心として用いることで木材の知識・技術・歴史背景などを学び，構築物を学生主体で設計・制作することによって，素材の特性，利用方法，加工技術，木組み，ディテール（収まり）などを総合的に学習する．活動拠点となる地域は，加子母（岐阜県中津川市），川上村（奈良県），多賀町（滋賀県）の中から選択する．主な実施製作の期間は，夏季2週間程度を予定しているが，活動拠点によっては，その他の時期でも活動を行う．制作のための設計は，地元の方々と協力交流を行いながら進め，指導も受けることができる．また木匠塾には，他大学の学生の参加もあり，大学を超えた活動も期待できる．

## 到達目標

(1)木造の知識・技術・歴史背景を理解し，基本的な設計技術を習得する．
(2)地域に必要とされる構築物の設計を提案できる．
(3)木材加工のための工具を巧みに使用できる．

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 0 | |
| レポート課題 | 0 | |
| 上記以外 | 100 | 成績評価は，設計と制作での取り組み態度（パフォーマンス）によって評価し，到達目標で示す(1)については30%，(2)については30%，(3)については40%で評価する |

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 木匠塾（生活デザイン） | | | | | | | 担当教員 | 佐々木　一泰 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1401635 | 単位数 | 2 | 開講期 | 通年集中 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | ガイダンス | 活動拠点を，加子母，川上村，多賀の各木匠塾の中から選択し，決定する． |
| 第2回 | 第2～10回 | 現地視察・制作物の内容検討．基本設計．<br>現地関係者へのプレゼン． |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| 第11回 | 第11～25回 | 現場での制作，制作物の完成．<br>現地関係者へのプレゼン． |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| 第25回 | 第25～30回 | 報告書の作成．全体報告会による発表． |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| 生活デザイン学科学生用．<br>各活動場所には定員があり抽選の場合もあるので注意． |

| 講義名 | 生活デザイン論 | | | | | | | 担当教員 | 学科教員／印南　比呂志／面矢　慎介／佐々木　一泰／藤木　庸介／南　政宏／宮本　雅子／森下　あおい／山田　歩／横田　尚美 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1401640 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 233LVD201 | | | | | | | | |

## 授業概要

生活デザイン学科では道具・住居・服飾という3分野を中心に学んでいる。この授業では生活におけるデザインの役割について、各分野それぞれにテーマを設け、生活の中にあるさまざまなデザインや知恵、技術を拾い出す。また、これからの生活デザインと各分野のあり方について考察を行い、ひとつの分野からは見えにくい横断的な視点を養う。また各分野ごとにゲストを招聘して講義を行う。

## 到達目標

（1）生活におけるデザインの役割という視点での知識を深め、その背景、価値を理解できるようにする。
（2）生活に関わるデザインの各分野について基礎的な知識を身につける。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | 100 | 各回レスポンスペーパーにより評価する。 |
| 上記以外 | | |

## 授業外学習

事前に各講義テーマで発表される事前情報を収集し、講義後生活デザインのあり方についての考察を行う。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

なし

## 履修資格

| 講義名 | 生活デザイン論 | | | | | | | 担当教員 | 学科教員／印南　比呂志／面矢　慎介／佐々木　一泰／藤木　庸介／南　政宏／宮本　雅子／森下　あおい／山田　歩／横田　尚美 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1401640 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 233LVD201 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | 授業概要・ガイダンス | 生活デザイン論の概要 |
| 第2回 | マーケティング-1 | マーケティング分野について |
| 第3回 | 道具-1 | 道具分野について１ |
| 第4回 | 道具-2 | 道具分野について２ |
| 第5回 | 道具-3 | 道具分野について３ |
| 第6回 | 道具-4 | 道具分野について４ |
| 第7回 | 学外見学 | 住まいの設備を見学 |
| 第8回 | 住居-1 | 住居分野について１ |
| 第9回 | 住居-2 | 住居分野について２ |
| 第10回 | 住居-3 | 住居分野について３ |
| 第11回 | 住居-4 | 住居分野について４ |
| 第12回 | 服飾-1 | 服飾分野について１ |
| 第13回 | 服飾-2 | 服飾分野について２ |
| 第14回 | 服飾-3 | 服飾分野について３ |
| 第15回 | まとめ | 生活デザイン論まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 生活デザイン論演習Ⅰ | | | | | | | 担当教員 | 学科教員／印南　比呂志／面矢　慎介／佐々木　一泰／藤木　庸介／南　政宏／宮本　雅子／森下　あおい／山田　歩／横田　尚美 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1401690 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 333LVD302 | | | | | | | | |

## 授業概要

学生各自の卒業制作・卒業論文に向けて、生活デザインのそれぞれの分野に関して既存の成果を概観するとともに、研究方法、制作方法、調査方法などを修得し、必要な文献や資料を集め、また必要な現地調査などを行うなど、各自の課題や問題に応じて演習を行う。

## 到達目標

卒業研究で取り組むべき課題の意義について述べることができる

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 100 | 調査・研究中間報告、課題発表、レポート・制作物等により総合的に判断する |

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

授業時間内に適宜紹介する

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 生活デザイン論演習Ⅰ | | | | | | | 担当教員 | 学科教員／印南　比呂志／面矢　慎介／佐々木　一泰／藤木　庸介／南　政宏／宮本　雅子／森下　あおい／山田　歩／横田　尚美 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1401690 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 333LVD302 | | | | | | | | |

授業計画

| 回数 | タイトル | 概要 |
|---|---|---|
| 第1回 | ガイダンス１ | 自分の進むべき分野について考える期間とする。 |
| 第2回 | ガイダンス２ | 自分の進むべき分野について考える期間とする。 |
| 第3回 | ガイダンス３ | 自分の進むべき分野について考える期間とする。 |
| 第4回 | ゼミ配属決定 | ガイダンスを通して考えた自分の進みたい分野についての調書からゼミ配属を行う。１ゼミに6人以上の希望者がある場合は調整を行う。 |
| 第5回 | ５回目以降<br>ゼミ活動 | 担当教員の指導の下に、学生各自の課題と問題ごとに計画を立て、それに従って演習を行う。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

担当者から一言

| 講義名 | 生活デザイン論演習 II | | | | | | | 担当教員 | 学科教員／印南　比呂志／面矢　慎介／佐々木　一泰／藤木　庸介／南　政宏／宮本　雅子／森下　あおい／山田　歩／横田　尚美 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1401701 | 単位数 | 3 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 333LVD303 | | | | | | | | |

## 授業概要

学生各自の卒業制作・卒業論文に向けて、生活デザインのそれぞれの分野に関して既存の成果を概観するとともに、研究方法、制作方法、調査方法などを修得し、必要な文献や資料を集め、また必要な現地調査などを行うなど、各自の課題や問題に応じて演習を行う。

## 到達目標

(1)卒業研究で取り組む課題領域についての知識を深める。
(2)課題を達成するための研究方法、制作方法、調査方法などを修得する。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 100 | 調査・研究中間報告、課題発表、レポート、制作物、最終発表等により総合的に判断する |

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

授業時間内に適宜紹介する

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 生活デザイン論演習 II | | | | | | | 担当教員 | 学科教員／印南　比呂志／面矢　慎介／佐々木　一泰／藤木　庸介／南　政宏／宮本　雅子／森下　あおい／山田　歩／横田　尚美 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1401701 | 単位数 | 3 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 333LVD303 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | ゼミ活動 | 担当教員の指導の下に、学生各自の課題と問題ごとに計画を立て、それに従って演習を行う |
| 第2回 | 生活デザイン論演習成果発表会 | 生活デザイン学科教員の前で演習の成果を発表する |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 卒業研究・製作／論文（生活デザイン）/ | | | | | | | 担当教員 | 学科教員／印南　比呂志／面矢　慎介／佐々木　一泰／藤木　庸介／南　政宏／宮本　雅子／森下　あおい／山田　歩／横田　尚美 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1401800 | 単位数 | 8 | 開講期 | 通年研究 | 授業種別 | 卒業 | | |
| ナンバリング番号 | 433LVD401 | | | | | | | | |

## 授業概要

卒業制作と卒業論文の課題については、生活デザイン専門分野の中から学生自身が担当教員の指導の下に決定し、それぞれの課題に従って制作あるいは論文の作成を行う。卒業制作を行う学生は、制作の他にその内容を説明し、補強する研究報告を同時に提出しなければならない。最終的には卒業研究の成果を発表する展示および口頭発表会を開催し、成果をまとめた卒業研究報告集を刊行する。
　研究は以下のような手順で進める。
①担当教員の指導により、４年次前期の早い時期に卒業研究のテーマをかためて研究をすすめる。
②９月の中間報告会で、卒業研究の中間発表を行う。
③設定された期限までに、規定の内容の論文（作品）を提出する。

## 到達目標

各自がそれぞれ課題としたテーマについて自信を持って発表できる

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 100 | 途中の進捗状況、中間発表並びに最終審査の結果によって合否を判定する |

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

指導教員が適宜指示する

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 卒業研究・製作／論文（生活デザイン）/ | | | | | | | 担当教員 | 学科教員／印南　比呂志／面矢　慎介／佐々木　一泰／藤木　庸介／南　政宏／宮本　雅子／森下　あおい／山田　歩／横田　尚美 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1401800 | 単位数 | 8 | 開講期 | 通年研究 | 授業種別 | 卒業 | | |
| ナンバリング番号 | 433LVD401 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | 卒業研究のテーマの決定 | できるだけ早い時期に、研究テーマを決定する。 |
| 第2回 | 卒業研究を進める | 学生は指導教員の指導の下に、自主的に作業することが要請され、各自計画をたてて行う。必要に応じて順次に制作や研究の経過を報告し、指導を受ける。 |
| 第3回 | ９月　中間発表 | 生活デザイン学科教員全員の前で発表し、審査を受ける |
| 第4回 | ２月　卒業研究発表会 | 生活デザイン学科教員全員の前で発表し、審査を受ける |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | テキスタイルデザイン論/ | | | | | | | 担当教員 | 内丸　もと子※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402205 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 233FSD266 | | | | | | | | |

## 授業概要

この授業ではテキスタイルデザインの基礎的スキルを身につけることを目的とする。
テキスタイル素材は加工方法によって多彩にその表情を変えることができる。
実際の素材を見ながらテキスタイルデザインの後加工のさまざまな表現を学ぶ。
さらにコンセプト作成から製品デザインへの落とし込み等を学び、実際に企画立案をすることによって、より実践的なテキスタイルデザインの企画提案方法を体験する。
また、循環型社会に向けての繊維リサイクルのあり方、エコデザインについても考察していく。

## 到達目標

（1）テキスタイルデザインの過程とさまざまな技法を理解することができる。
（2）テキスタイルデザインを企画立案、プレゼンテーションできる。
（3）循環型社会に向けて繊維製品のあり方について考察できるようになる。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | 50 | レポート<br>及び<br>授業中でのbuild up 課題 |
| 上記以外 | 50 | 最終課題（プレゼンテーション） |

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としません。

## 授業外学習

興味があるもの素敵だと感じるものを日々スケッチしてください。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

必要なプリントは授業中に配布します。

## 前提学力等

Illustrator及びPhotoshopのある程度の知識やスキルがあることが望ましい。
最終課題では、PowerPointまたはKeynote使用。

## 履修資格

| 講義名 | テキスタイルデザイン論/ | | | | | | | 担当教員 | 内丸　もと子※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402205 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 233FSD266 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | イントロダクション<br>テキスタイルと環境 | それぞれの繊維素材の原料が何なのか？どこからくるのか？<br>素材の総まとめ |
| 第2回 | テキスタイルの後加工Ⅰ | 実際のテキスタイル素材でさまざまな後加工を学ぶ。 |
| 第3回 | テキスタイルの後加工Ⅱ | 実際のテキスタイル素材でさまざまな後加工の表現方法を学ぶ。 |
| 第4回 | 素材とデザイン | ブランド紹介。<br>柄を作ってみる。 |
| 第5回 | テキスタイルプリント | テキスタイルプリントデザイン作成での基礎的なリピート方法。 |
| 第6回 | テキスタイルプリントと色彩によるイメージ表現 | 色彩によるデザインイメージの変換。 |
| 第7回 | トレンドとデザイン提案 | 世界の素材トレンドを発信する展示会。<br>テキスタイル提案事例。 |
| 第8回 | 繊維リサイクル | 循環型社会に向けて、繊維リサイクルのあり方を考察。<br>また、ものを作る側としてエコデザインを考える。 |
| 第9回 | コンセプトの作成 | デザイン提案の課題 |
| 第10回 | テキスタイル素材のデザイン | デザイン提案の課題 |
| 第11回 | テキスタイル製品へのシミュレーション | デザイン提案の課題 |
| 第12回 | 提案の構成 | デザイン提案の課題 |
| 第13回 | 提案のブラッシュアップ | デザイン提案の課題 |
| 第14回 | 提案のブラッシュアップ | デザイン提案の課題 |
| 第15回 | まとめ・プレゼンテーション | デザイン提案の課題（最終課題）のプレゼンテーション |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | デジタルデザイン演習/ | | | | | | | 担当教員 | 印南　比呂志／小杉　美穂子※／佐々木　一泰／高杉　昭吾※／竹岡　寛文※／森下　あおい |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402230 | 単位数 | 2 | 開講期 | 通年 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 233LVD206 | | | | | | | | |

**授業概要**

CADや画像処理，ドローイングソフトなどを用いて，デジタルデザインのリテラシーから操作技術の基礎から応用までを学ぶ．

**到達目標**

PCを用いたデザイン作業の知識を深める．

**成績評価**

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | 50 | 授業中に課した課題を次週までに復習完成させるなどにより、技術の習得度を評価する。 |
| 上記以外 | 50 | 授業中の取り組み、態度などを評価。 |

**授業外学習**

授業における課題の理解度，および毎回の授業内で作成する課題を持ち帰り復習精査して次週に提出し評価。基本的に授業時間内に終了できる程度の課題内容による演習を行う．

**教科書**

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

**参考書**

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | cinema4D Beginners | 阿部司 | BNN | 978-4-86100-850-4 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

テキスト：なし．適宜プリントを配布する．指定図書：授業内に適宜紹介する．参考書：授業内に適宜紹介する．

**前提学力等**

通年で3分野のデジタルスキルを網羅する為，前期・後期どちらかのみの受講は受け付けない．

**履修資格**

| 講義名 | デジタルデザイン演習/ | | | | | | | 担当教員 | 印南　比呂志／小杉　美穂子※／佐々木　一泰／高杉　昭吾※／竹岡　寛文※／森下　あおい |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402230 | 単位数 | 2 | 開講期 | 通年 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 233LVD206 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | ガイダンス | 演習説明，機器などの使用にあたっての注意事項。 |
| 第2回 | DTPソフトを使った，レイアウトの基礎・1（タイポグラフィ和文） | Illustratorを使用して、文字組の基礎を学ぶ。 |
| 第3回 | DTPソフトを使った，レイアウトの基礎・2（タイポグラフィ欧文） | Illustratorを使用して、文字組の基礎を学ぶ。 |
| 第4回 | DTPソフトを使った，レイアウトの基礎・3（画像処理） | photoshopを使用して、写真画像の修正、合成処理などを学ぶ。 |
| 第5回 | DTPソフトを使った，レイアウトの基礎・4（編集レイアウト） | Illustrator・photoshopを使用して、エディトリアルデザインの基礎を学ぶ。 |
| 第6回 | Webサイトの構築・作成の基礎・1 | IT社会における、ネットの世界がどういう仕組みで動いているのかの原理について理解を深める。 |
| 第7回 | Webサイトの構築・作成の基礎・2 | ウェブ上にあふれる新しい技術について知る。 |
| 第8回 | Webサイトの構築・作成の基礎・3 | ウェブ作成についての基礎を学ぶ。 |
| 第9回 | Webサイトの構築・作成の基礎・4 | ウェブ作成についての基礎を学ぶ。 |
| 第10回 | Illustrator・photoshopを使ったファッションデザイン画の基本・1 | 集中講義として行う（日時についてはオリエンテーション時に説明する） |
| 第11回 | Illustrator・photoshopを使ったファッションデザイン画の基本・2 | 集中講義として行う（日時についてはオリエンテーション時に説明する） |
| 第12回 | Illustrator・photoshopを使ったファッションデザイン画の基本・3 | 集中講義として行う（日時についてはオリエンテーション時に説明する） |
| 第13回 | Illustrator・photoshopを使ったファッションデザイン画の基本・4 | 集中講義として行う（日時についてはオリエンテーション時に説明する） |
| 第14回 | Illustrator・photoshopを使ったファッションデザイン画の基本・5 | 集中講義として行う（日時についてはオリエンテーション時に説明する） |
| 第15回 | Illustrator・photoshopを使ったファッションデザイン画の基本・6 | 集中講義として行う（日時についてはオリエンテーション時に説明する） |
| 第16回 | cinema4dを使った，プロダクト3DCGの基本・1 | 3DCGとは |
| 第17回 | cinema4dを使った，プロダクト3DCGの基本・2 | ポリゴンモデリング基礎 |
| 第18回 | cinema4dを使った，プロダクト3DCGの基本・3 | パスによるモデリング基礎 |
| 第19回 | cinema4dを使った，プロダクト3DCGの基本・4 | レンダリング |
| 第20回 | cinema4dを使った，プロダクト3DCGの基本・5 | シーン設定 |
| 第21回 | cinema4dを使った，プロダクト3DCGの基本・6 | マテリアル |
| 第22回 | cinema4dを使った，プロダクト3DCGの基本・7 | テストの練習 |
| 第23回 | cinema4dを使った，プロダクト3DCGの基本・8 | テスト |
| 第24回 | DRA-CAD，Vectorworksを使った，2D・3DCADの基本・1 | CADの基本知識とデータの仕組み |
| 第25回 | DRA-CAD，Vectorworksを使った，2D・3DCADの基本・2 | 2D/3DCADのデータ作成①（数値・座標の入力による作成） |
| 第26回 | DRA-CAD，Vectorworksを使った，2D・3DCADの基本・3 | 2D/3DCADのデータ作成②（数値・座標を用いた立体化） |
| 第27回 | DRA-CAD，Vectorworksを使った，2D・3DCADの基本・4 | 2D/3DCADのデータ作成③（データのアプリケーション間の連携と性質） |
| 第28回 | DRA-CAD，Vectorworksを使った，2D・3DCADの基本・5 | 2D図面データの作成①（2DCAD製図の基礎①） |
| 第29回 | DRA-CAD，Vectorworksを使った，2D・3DCADの基本・6 | 2D図面データの作成②（2DCAD製図の基礎②） |
| 第30回 | DRA-CAD，Vectorworksを使った，2D・3DCADの基本・7 | 2D図面データの作成③（2DCAD製図の基礎③） |

**担当者から一言**

学部情報室のPCの起動がとても遅いため、遅刻せず授業開始前に立ち上げることが望ましい。
cinema4D学生版は登録制であるが無償で使える。事前に自身のPCにインストールしておくと、授業外で学習しやすい。インストールする場合は、PC

| 講義名 | デッサン法 | | | | | | | 担当教員 | 冨原　仁美※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402260 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 実技 | | |
| ナンバリング番号 | 133LVD201 | | | | | | | | |

## 授業概要

造形表現の基礎となる描写力を習得する。形態や色彩などの造形要素を理解し、それらを正確に描写表現するための考え方や技術を学ぶ。全回実技の授業。

## 到達目標

⑴基本的～複雑な形態を空間的に把握し、平面に正確に描写することが出来る。
⑵遠近感・空間・明暗・素材感などの造形要素を理解して、それらを的確に描写表現することが出来る。
⑶色彩を体系的に理解することが出来る。また求められる色を絵具を用いて作り出すことが出来る。
⑷他者への伝達ツールとしての描写表現が出来る。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 100 | 到達目標⑴～⑷及び、⑸授業の取り組み姿勢、各20%。 |

3分の1以上欠席した場合は評価の対象としない

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | カラーコーディネーター入門 色彩 | 大井義男・川崎秀昭 | 日本色研事業 | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

ガイダンス後に校内購買部で購入。

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | デッサン法 | | | | | | | 担当教員 | 冨原　仁美※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402260 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 実技 | | |
| ナンバリング番号 | 133LVD201 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | ガイダンス | ・この授業で学ぶデッサンについての説明<br>・必要購入品の説明と確認 |
| 第2回 | 基本形態の描写 | ・直方形を描くための説明<br>・手順、遠近法について |
| 第3回 | 基本形態の描写 | ・円筒形を描くための説明<br>・手順、遠近法について |
| 第4回 | 色彩について | ・テキストを使用<br>・基本的な項目について |
| 第5回 | 基本形態の描写 | ・第2,3回授業内容の復習<br>・基礎的なポイントを実技の中で習得し理解する |
| 第6回 | 基本形態の描写 | ・第2,3回授業内容の復習<br>・基礎的なポイントを実技の中で習得し理解する |
| 第7回 | 基本形態の描写 | ・第2,3回授業内容の復習<br>・基礎的なポイントを実技の中で習得し理解する |
| 第8回 | 描写と着彩 | ・透明水彩絵具の使用方法を学ぶ<br>・形態と色彩 |
| 第9回 | 描写と着彩 | ・透明水彩絵具の使用方法を学ぶ<br>・形態と色彩 |
| 第10回 | 描写と着彩 | ・透明水彩絵具を使用<br>・形態と色彩 |
| 第11回 | 描写と着彩 | ・透明水彩絵具を使用<br>・形態と色彩 |
| 第12回 | 描写 | ・様々な形態、素材のモチーフを描く |
| 第13回 | 描写 | ・様々な形態、素材のモチーフを描く |
| 第14回 | 描写 | ・様々な形態、素材のモチーフを描く |
| 第15回 | 描写 | ・様々な形態、素材のモチーフを描く |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 道具計画論 | | | | | | | 担当教員 | 印南　比呂志 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402290 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 333TLD243-C | | | | | | | | |

## 授業概要

住環境の実態を背景に、人間が関わってきた道具類を毎週ひとつの分野にテーマを絞って、その製品をとりあげて講義をすすめる。その製品の歴史、市場、変遷、社会的価値についてさまざまな視点から考察を試みる。また、ものづくりとしての製品開発における企画設計プロセス、市場での製品流通やマネージメントに至までの実際を学ぶ。テーマによっては外部講師として専門家の招聘して講義を行う。

## 到達目標

道具という視点で世の中に存在するさまざまな製品、ブランド商品などの背景、価値を理解できるようになる。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | 80 | 毎回の講義でのレスポンスシート、中間レポート、最終レポート課題により評価する。 |
| 上記以外 | 20 | 即日設計課題や、調査課題などの宿題を適宜課す。 |

## 授業外学習

事前に毎週の講義テーマに関する事前情報を収集しておく。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 生きのびるためのデザイン | ヴィクター・パパネック | 晶文社 | |
| 2 | デザインのイデオロギーとユートピア | ゲルト・ゼレ | 晶文社 | |
| 3 | ものが生まれる産地、ものを輝かせるデザイン | 影山和則 | ラトルズ | |

## 前提学力等

美術史、デザイン史、建築史についての基本的な学力を要する。

## 履修資格

| 講義名 | 道具計画論 | | | | | | | 担当教員 | 印南　比呂志 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402290 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 333TLD243-C | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | オリエンテーション・概論 | 道具という言葉の概念について考える。 |
| 第2回 | ＧＫの世界 | 日本における、ものの民主化と戦後のプロダクトデザインの歴史を考える。 |
| 第3回 | 本について | 造本、装丁、ブックデザインについて考える。<br>ブックデザイナーの鈴木成一、造本作家のケルスティン・ティニ・ミウラ氏らの作品を見る。 |
| 第4回 | 刃物の世界について | 日本の刃物の歴史と現在。イタリアのサルディニア島の刃物職人にの生活について。 |
| 第5回 | 自動車について | FIAT社の歴史と車産業の変遷をデザインを中心に見て行く。戦後日本の自動車産業の変遷についても同様に見る。 |
| 第6回 | パッケージデザインについて | 松永真の生み出した商品デザインと、梅原真の地域デザインと商品について。 |
| 第7回 | 住むための道具について | 即日設計課題（最小限住宅） |
| 第8回 | カメラと時計 | アンティックカメラとアナログ時計（機械式道具の世界）について。 |
| 第9回 | 情報とサイン | 環境とインテリアグラフィックについて。廣村正彰氏の作品を中心に。 |
| 第10回 | 椅子について | 毎年のミラノサローネの傾向について。外部から専門のデザイナーなどを招聘して授業を進める。 |
| 第11回 | 木工職人の道具の世界 | 伝統的な職人道具ついて。外部から専門の職人などを招聘して授業を進める。 |
| 第12回 | 革製品について | 鞄・靴・革職人の世界について。<br>外部から専門の職人などを招聘して授業を進める。 |
| 第13回 | オーディオについて | ピュアオーディオの世界について。音とデザインの世界を見る。 |
| 第14回 | 自転車について | コミューターとしての移動具の世界 |
| 第15回 | 総論（レポート課題） | 道具に対する知見をレポートにする。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 道具デザイン演習Ⅰ | | | | | | | 担当教員 | 南　政宏／佐藤　延弘※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402300 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 233TLD241 | | | | | | | | |

## 授業概要

前半　南担当分

道具（プロダクト）デザインやブランディングデザインの基礎となるアイデア、企画立案から、モデル製作、図面製作、ロゴなどのグラフィックデザイン、写真撮影、プレゼンテーションパネルの製作までの基礎を習得する。

後半　佐藤担当分

自分のデザインしたものを自分で作り（又は製造ラインを計画し）販売までを考えるセルフプロダクションをテーマにした授業。
小さな規模（個人又は少人数チーム）でのモノづくりを可能とする手法を探り、商品ストーリーの構成、素材の選択、加工方法、生産数や販路についての知識と技能を習得する。本授業の中心となるポイントとして「魅力ある商品とは何か」を考えるところにある。
素材の変化や、人が持つ共通の感覚や記憶などから商品のコンセプトを導き、ストーリー性のある商品を考え自ら製作する。商品をデザインするだ

## 到達目標

道具デザイン、プロダクトデザイン、パッケージデザイン、ブランディングデザインなどのプレゼンテーションの基本的な技術を習得する。

(1)商品のストーリー／ブランドコンセプトとは何か理解を深め、一般的な理解と自分の考えを説明できるようになる。
(2)商品を製造・販売するために、どの様な技術や知識が必要かを考え、自分で調べることができる。
(3)生産数や製作環境に適した材料や加工技法についての知識を深め、実践することができる。
(4)自分の作品（商品）の魅力を、多くの人に正しく伝える表現方法を身につける。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 課題作品 | 「最終課題の完成度の評価50%」＋「各回レポート及び提出物の評価 30%」＋「製作過程での問題解決能力の評価10%」+「授業への参加意欲の評価10% 」を基本。<br>各回提出課題は未完成であっても考えが見える状態であれば必ず提出すること。レポート（写真）は次回授業の開始ま |

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。
課題が締め切りに間に合っていないものは、評価の対象としない。

## 授業外学習

身の回りのモノや風景、デザインされた物品へ関心を持つ。できるだけ多くの時間を手を動かす時間に費やして下さい。また、他の人の考えや作ったものに

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 特になし | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | Sketching | Koos Eissen （著), Roselien Steur （著) | Bis Pub | 9063691718 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

Adobe illustratorとphotoshopを使用します。各自用意。
デジカメを毎回持参してください。

## 履修資格

| 講義名 | 道具デザイン演習Ⅰ | | | | | | | 担当教員 | 南　政宏／佐藤　延弘※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402300 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 233TLD241 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | ガイダンス | 南政宏担当　道具デザインの基礎について |
| 第2回 | スケッチとレンダリング | スケッチとレンダリングについて |
| 第3回 | 図面作成 | 図面を作成する<br>ロゴや商品名のデザイン |
| 第4回 | 模型制作 | 模型制作 |
| 第5回 | 写真撮影 | モデルの写真撮影を学ぶ |
| 第6回 | プレゼンテーションボード | デジタルデータによるプレゼンテーションボードの作成 |
| 第7回 | 講評 | 講評 |
| 第8回 | 教員紹介<br>ガイダンス | 佐藤延弘担当<br>授業の進め方／教員紹介スライド／創造力が沸き立つような |
| 第9回 | 観察力 | 課題文の読み解き／五感について考える／「時を感じる」写真を撮る |
| 第10回 | イメージからモノへ | 「写真＋言葉＋モノ」を使って、時を感じることを他者に伝える |
| 第11回 | 中間プレゼンテーション | テーマに沿って造形物や実験装置を製作。制作物とスライド（映像）を使って時を感じるモノや現象を発表／グループ |
| 第12回 | モノから生活の場へ | 中間プレゼンで考えた「モノ」に用途を与える／素材や技術のデータを収集分析する／ラフ案を考える |
| 第13回 | 素材＝技術<br>実験＝検証 | スタディー模型、試作チェック／パッケージ（C式かぶせ箱）の説明（※業者発注、又は自作） |
| 第14回 | 空気感 | 商品写真／リーフレットとポスター作成／商品説明書／商品ディスプレイ（店舗空間・POP・展示什器）の説明 |
| 第15回 | 講評会<br>（学外展示／展示販売会） | 展示設営とディスプレイ／講評会とフィードバック／販売 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| デジカメを毎回持参してください。（製作の進行状況の記録やアイデアなどを撮影、課題チェック時に確認します。） |

| 講義名 | 道具デザイン演習Ⅱ | | | | | | | 担当教員 | 印南　比呂志／佐々木　一泰／南　政宏 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402310 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 233TLD341 | | | | | | | | |

## 授業概要

前期授業の道具デザイン演習Ⅰで習得した技術、技法を基礎として、製品デザイン開発の方法をさまざまなものづくりの業界の現場に関わりながら学んでいく。架空もしくは実際の企業の商品計画やCI（コーポレートアイデンティティ）計画などの実践的な課題を通して進めていく。またこれらの成果をわかりやすく表現するための提案パネルや模型などの制作を通して、プレゼンテーションの方法も学んでいく。商品開発からブランディングまで含めた課題が多くなる。産学連携のプロジェクトや，日本の第一線で活躍するプロダクトデザイナーをお招きしての講評会などを行う。

## 到達目標

(1)ものづくりの現場調査の方法。つまりインタビューやドキュメンテーションの方法を修得する。
(2)デザイン提案物の簡単なモデリングやパネルプレゼンテーション技術を修得する。
(3)コンピュータのを使ってプレゼンテーションできる。（パワーポイント、CGなど）

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | 50 | 提出課題による評価：50% |
| 上記以外 | 50 | 課題作業のプロセスにおける取り組みによる評価50% |

3週～4週毎にデザイン制作課題を課す。
授業時間数の1/3以上欠席したものは評価対象にしない。

## 授業外学習

時間外での課題制作もある。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 編集デザインの教科書 | 工藤強勝監修 | 日経デザイン刊・日経BP社 | 978-4822235048 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

プレゼンテーション技法、道具デザイン演習Ⅰ、デジタルデザイン演習を履修していることが望ましい。
Adobe illustratorとphotoshopを使用します。デジカメも使用します。

## 履修資格

| 講義名 | 道具デザイン演習 II | | | | | | | 担当教員 | 印南　比呂志／佐々木　一泰／南　政宏 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402310 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 233TLD341 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | オリエンテーション<br>道具演習課題1 | 道具デザインに関するテーマの出題 |
| 第2回 | 道具演習課題1 | エスキース，スケッチ，モデリング |
| 第3回 | 道具演習課題1 | 写真撮影　プレゼンボードの制作 |
| 第4回 | 道具演習課題1 | 講評 |
| 第5回 | 道具演習課題2 | 外部講師によるテーマの出題<br>デザインサーベイ、デザインプロセス、エスキース，スケッチ |
| 第6回 | 道具演習課題2 | エスキース，スケッチ，モデリング |
| 第7回 | 道具演習課題2 | エスキース，スケッチ，モデリング |
| 第8回 | 道具演習課題2 | エスキース，スケッチ，モデリング |
| 第9回 | 道具演習課題2 | 写真撮影　プレゼンボードの制作 |
| 第10回 | 道具演習課題2 | 講評<br>外部講師による講評会 |
| 第11回 | 道具演習課題３ | エスキース，スケッチ，モデリング |
| 第12回 | 道具演習課題３ | エスキース，スケッチ，モデリング |
| 第13回 | 道具演習課題３ | 試作の完成 |
| 第14回 | 道具演習課題３ | プレゼンテーションパネルの作成 |
| 第15回 | 道具演習課題３ | 講評 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 道具デザイン演習III | | | | | | | 担当教員 | 面矢　慎介／印南　比呂志 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402320 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 333TLD341-C | | | | | | | | |

**授業概要**

道具の計画・デザインにおいて必要な知識・考え方と技術を修得する。道具デザイン演習Ⅰ～Ⅱで学んだ技術と知識を基礎として、生活関連分野の製品およびそれらを含んだ生活空間についての具体的な計画・デザインの課題を課す。

**到達目標**

（１）基礎的調査・構想、（２）企画立案、（３）造形、（４）立体モデル制作、（５）プレゼンテーションパネル制作、（５）プレゼンテーションまでの作業を修得する。

**成績評価**

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | 20 | 課題作業のプロセスにおける調査報告（２０%） |
| 上記以外 | 80 | 完成提出作品とそのプレゼンテーション（８０%） |

企業や地域からの要望による課題や、コンペなどを中心に行うため、評価は外部審査、クライアント審査なども考慮して総合的に行う。

**授業外学習**

作業は授業中では完成しない。学生には課題の進行に沿って授業時間以外での作業が要求される。

**教科書**

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

毎回の課題に適した資料等を指示する。

**参考書**

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

毎回の課題に適した資料等を指示する。

**前提学力等**

道具デザイン演習Ⅰ・Ⅱをすでに履修していること。

**履修資格**

| 講義名 | 道具デザイン演習III | | | | | | | 担当教員 | 面矢　慎介／印南　比呂志 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402320 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 333TLD341-C | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | オリエンテーション・開発課題の設定 | 商品開発プロセスについての基礎 |
| 第2回 | 地域産業課題・A（課題の発見・コンセプト） | 地域の産業から課題を得て、新たな商品開発やブランディングを提案する。 |
| 第3回 | 地域産業課題・A（アイデアスケッチ） | アイデアスケッチをチェックする。 |
| 第4回 | 地域産業課題・A（スタディモデル） | スタディモデルを使って発表し基本設計を進める。 |
| 第5回 | 地域産業課題・A（実施設計） | 最終のデザインを決定し、実施設計を進める。 |
| 第6回 | 地域産業課題・A（プレゼンテーション） | 完成したものをプレゼンテーションし提出する。 |
| 第7回 | 地域産業課題・B（コンセプト・アイデアスケッチ） | アイデアスケッチをチェックする。 |
| 第8回 | 地域産業課題・B（スタディモデル） | スタディモデルを使って発表し基本設計を進める。 |
| 第9回 | 地域産業課題・B（実施設計） | 最終のデザインを決定し、実施設計を進める。 |
| 第10回 | 地域産業課題・B（プレゼンテーション） | 完成したものをプレゼンテーションし提出する。 |
| 第11回 | 地域産業課題・C（課題の発見・コンセプト） | 地域の産業から課題を得て、新たな商品開発やブランディングを提案する。 |
| 第12回 | 地域産業課題・C（アイデアスケッチ） | アイデアスケッチをチェックする。 |
| 第13回 | 地域産業課題・C（スタディモデル） | スタディモデルを使って発表し基本設計を進める。 |
| 第14回 | 地域産業課題・C（実施設計） | 最終のデザインを決定し、実施設計を進める。 |
| 第15回 | 地域産業課題・C（プレゼンテーション） | 完成したものをプレゼンテーションし提出する。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 道具デザイン史 | | | | | | | 担当教員 | 面矢　慎介 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402340 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 333TLD242 | | | | | | | | |

## 授業概要

近代以降における道具デザインの変容についての解説。近代以降の工業化によって、生活環境を構成する道具は大きく変容してきた。従来のデザイン史が歴史上有名なデザイナー個人やグループの造形思想に重きをおいて造形上の変容を説明してきたのに対して、本講義では、近代以降に登場した家庭用生活機器・生活道具を中心に、それらの成立・発展・普及の経緯やデザインの変容について、経済的・社会的・文化的・技術的背景との関係から考察する。

## 到達目標

道具のデザインが恣意的な外形上の操作ではなく、産業社会における生産と生活の形態と深く結びついた活動であることを理解できる。（１）授業内容を理解し、ポイントをまとめ、自分なりの意見を述べることができる。（２）授業内容に関連する文献を読み、文献中の歴史的事象と現代の事象とを比較考察することができる。（３）１つの道具を事例としてそのデザインの歴史的変化について調べ、結果を文章にまとめることができる。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 0 | |
| レポート課題 | 80 | 文献レポート（中間レポート）と期末レポート<br>成績評価への寄与率は、文献レポート20%、期末レポート60% |
| 上記以外 | 20 | コメントカード |

授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象としない。

## 授業外学習

毎回、授業終了時にコメントカードを回収する。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 欲望のオブジェ | アドリアン・フォーティ | 鹿島出版界 | |
| 2 | カラー版・世界デザイン史 | 阿部公正ほか | 美術出版社 | 978-4-568-40084-7 C3070 |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

「近代デザイン史」をすでに履修していることが望ましい。

## 履修資格

| 講義名 | 道具デザイン史 | | | | | | | 担当教員 | 面矢　慎介 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402340 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 333TLD242 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | オリエンテーション | デザイン史を学ぶ意味、デザイン史の２つの視座 |
| 第2回 | デザイナーなしのデザインの時代 | 19世紀、イギリス・アメリカ |
| 第3回 | 初期機能主義のデザイン | １９２０－３０年代、ドイツ・イギリス |
| 第4回 | インダストリアルデザイナーの誕生 | １９３０年代、アメリカ |
| 第5回 | 企業とデザイン | １９４０－５０年代、アメリカ |
| 第6回 | 家事の機械化 | １９００－１９４０年代、アメリカ |
| 第7回 | 台所の近代化 | ９-２０世紀、イギリス・アメリカ・ドイツ・日本 |
| 第8回 | ラジオのデザイン | １９２０－４０年代、イギリス・アメリカ |
| 第9回 | プラスチックとデザイン | １９世紀-２０世紀、アメリカ・イギリス・ドイツ |
| 第10回 | 戦後日本のインダストリアルデザイン１ | １９４０-７０年代 |
| 第11回 | 期末レポートの出題・解説 | テーマの見つけ方、レポートの書き方 |
| 第12回 | 戦後日本のインダストリアルデザイン２ | 各年代の製品事例紹介 |
| 第13回 | アノニマスアプローチによる道具デザイン史 | 個別研究事例の紹介 |
| 第14回 | アノニマスアプローチによる道具デザイン史 | 個別研究事例の紹介 |
| 第15回 | 終わりに | デザイン史からみたデザインの現代 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 道具デザイン論 | | | | | | | 担当教員 | 印南　比呂志／南　政宏 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402350 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 333TLD241-C | | | | | | | | |

## 授業概要

プロダクトをデザインして販売できる商品としていくためには、様々な条件を克服していかなければならない。
企業側にある論理、販売側にある論理、デザイナーが実現したいイメージ。それらをどのように乗り越えて商品として実現していくのか、デザイナーと、メーカーの実務的なやり取りを通しながらそのプロセスを追いながら解説する。商品について深く考察することでメーカーとユーザーの視点から道具について考察する。

## 到達目標

商品をとりまく経済の仕組みや流通、販売、技術、広告、ブランディングについての知識を深める。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | 50 | テーマに対して，オリジナリティのある内容で書かれているか。 |
| 上記以外 | 50 | 毎回のレスポンスペーパーによる。 |

必要に応じて小レポートを課する。授業時間数の1/3以上欠席したものは評価対象にしない。

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 人間尺度論 | 戸沼幸市 | 彰国社 | 3052-300295-3081 |
| 2 | safe:design takes on risk | paola antonelli | The Museum of Modern Art | 0-87070-580-6 |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 道具デザイン論 | | | | | | | 担当教員 | 印南　比呂志／南　政宏 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402350 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 333TLD241-C | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | ガイダンス　道具デザイン基礎<br>◎南担当 | ガイダンス　道具デザイン基礎 |
| 第2回 | 日用品について考える<br>◎南担当 | 各自，使ってみて良かった日用品について考察する。 |
| 第3回 | 日用品について<br>◎南担当 | 各自，使ってみて良くなかった日用品について考察する。 |
| 第4回 | コピーについて<br>◎南担当 | 文章で伝えることについて考える。 |
| 第5回 | アイデアを考える<br>◎南担当 | 頭を柔軟にして発想してみる。 |
| 第6回 | 商品開発の事例<br>◎南担当 | 商品開発の事例を紹介する。 |
| 第7回 | 商品開発の事例<br>◎南担当 | 商品開発の事例を紹介する。 |
| 第8回 | 商品開発の事例<br>◎南担当 | 商品開発の事例を紹介する。 |
| 第9回 | ものの寸法について<br>◎印南担当 | 身体寸法と道具の関係、空間（家、都市）スケールによる道具との関係について考える。 |
| 第10回 | 視覚、触覚と尺度について<br>◎印南担当 | 道具の形状が醸し出す使用方法や機能、使用することによって知る機能など、道具と人の関係を考える。 |
| 第11回 | 空間と距離について<br>◎印南担当 | 人とモノの距離、モノとモノの距離によってつくられる空間認識について考える。 |
| 第12回 | 時間による経年変化ついて<br>◎印南担当 | 老化、劣化、旧式化、壊れる、古くなるなどで表現される道具の機能や形状、材料の経年変化について考える。 |
| 第13回 | 速度を表すかたちについて<br>◎印南担当 | 形態と速度の関係を考える。車、飛行機、列車などの移動体から、生物の身体の形状を比較する。 |
| 第14回 | 安全と安心について<br>◎印南担当 | さまざまなリスクを予測した道具の機能とデザイン、国際的な基準や法的な流れについて考える。 |
| 第15回 | 総括<br>◎印南担当 | 道具の世界を俯瞰して考える。ディスカッション。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 統計学基礎 | | | | | | | 担当教員 | 細馬　宏通 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402360 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 133LVD106,134NUT107,135PSY203 | | | | | | | | |

## 授業概要

最近ではパソコンやソフトウェアのおかげで、数式を意識しなくとも気軽に統計をあつかえるようになってきた。にもかかわらず、いざデータを手にとると、どこから手をつけていいかとまどう人が多い。そもそもなぜそのデータに対して統計的処理を行なう必要があるのか。データにはどんな性質があるか。どんなタイプのデータにはどんな手法がふさわしいのか。どんな手法を使うとどんな結果が引き出されるのか。本講義では、以上のような問題を念頭に置きながら、標本や母集団などの基本的概念から出発して、推定や検定、検証的アプローチと探索的アプローチの基本的な知識を扱う。

## 到達目標

(1)母集団と標本の概念を身につける。
(2)相関を含む記述統計量の基本的な使い方を習得する。
(3)推定と検定の基本手順を習得する。
(4)日常生活で用いられる統計学的な考えに関心を持ち、検証する態度を身につける。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 70% | 全回で扱った統計学的知識が正しく理解できているかを問う。 |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 30% | 小テスト（随時）：各回で扱った統計学的知識を理解しているかを問う。 |

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 栄養科学シリーズ基礎統計学 | 鈴木良雄　廣津信義 | 講談社サイエンティフィック | 978-4-06-155348-4 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 統計学基礎 | | | | | | | 担当教員 | 細馬　宏通 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402360 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 133LVD106,134NUT107,135PSY203 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | イントロダクション | 統計学は（何の）役に立つのか？ |
| 第2回 | 母集団と標本 | サンプリングによって世界を把握するという考え方について。記述統計学と推計統計学の違い。 |
| 第3回 | 分布を考える | 分布の代表的な形。偶然のできごとはいかに分布するのか。二項分布について。 |
| 第4回 | 表とグラフ、位置とばらつき | 数値計算の前に、データを視覚化し、整理するだけで分かることは何か。位置とばらつきについて。 |
| 第5回 | 記述統計(1) | 平均と標準偏差、その表現法。 |
| 第6回 | 記述統計(2) | 中央値と四分位数、箱ひげ図。 |
| 第7回 | 正規分布とは何か | 正規分布の主な性質 |
| 第8回 | 推定 | 推計統計学とは何か。中心極限定理と信頼区間。 |
| 第9回 | 比較と検定 | 仮説検定法、帰無仮説の考え方、平均の比較。 |
| 第10回 | 比較と検定（２） | さまざまな検定法：平均の差の検定、χ二乗検定など。 |
| 第11回 | 分散分析と多重比較 | 要因と水準、対応の考え方。一元分散分析の基礎。多重比較の基礎。 |
| 第12回 | 相関と回帰（1） | 記述統計としての相関。相関係数の読み方。 |
| 第13回 | 相関と回帰（2） | 推計統計としての回帰。モデルを立てること。「実現値＝期待値＋誤差」という考え方。 |
| 第14回 | さまざまな統計的手法 | パラメトリック／ノンパラメトリック検定のいろいろ。多変量解析の紹介。 |
| 第15回 | まとめ | 科学における統計学の位置づけ。統計の用いられ方。統計の誤用について。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 人間工学 | | | | | | | 担当教員 | 中村　孝之※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402510 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 233LVD203 | | | | | | | | |

## 授業概要

社会の急速な変化で生じる、人間と、製品や環境のあり方のギャップを埋めて行くための手がかりとなるのが人間工学である。ここでは、生理、心理、身体、そして行動など、人間の基本的特性を理解し、プロダクト、インテリア、建築などの生活環境構成要素を取り上げ、人間との最適な関係を考えた計画やデザインの手法について学ぶ。
授業計画について、時期は前後することがある。

## 到達目標

（1）人間工学の目的とするところを理解し、基本的な知識を習得する
（2）生活環境やプロダクト製品に関する人間生活工学研究の視点を養う
（3）インテリアやプロダクトデザインの際に、人間からのアプローチができるようになる

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 40% | 到達目標（1）について、記述試験を行う |
| レポート課題 | 60% | 到達目標（2）（3）について、レポートを作成する |
| 上記以外 | | |

3分の一以上欠席した場合、評価の対象としないことがある。

## 授業外学習

配布プリントにより授業を行う。授業中にノートをとることで短期記憶をつくり、復習することで長期記憶にする。そして設計やデザインの場面で応用することによって身につくものである。参考書を紹介するので、1冊は読むこと。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

プリントを配布

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 初めて学ぶ人間工学 | 岡田明、後藤 義明，八木 佳子，山崎 和彦，吉武 良治 | 理工図書 | |
| 2 | ユーザーインターフェイスの実践 | 山岡俊樹、岡田明 | 海文堂出版 | |
| 3 | ユニバーサルデザインの教科書[増補改訂版] | 中川聡 | 日経BP社 | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 人間工学 | | | | | | | 担当教員 | 中村　孝之※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402510 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 233LVD203 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | ガイダンス（人間工学とは、人間工学の役割） | 人間工学は人間から考えた製品や環境をつくる手段であり身近にあることを知る。 |
| 第2回 | 人間工学の歴史と発達 | 人間を基準にしたデザイン、工学としての歴史を学ぶ。 |
| 第3回 | 人間の特性（人体寸法、基本データ） | 人間にかかわる各種データを知る。 |
| 第4回 | 人間の特性（姿勢、動作） | 静的人体寸法、動的人体寸法の基本を学ぶ。 |
| 第5回 | 人間の特性（行動特性） | 環境や空間における、人の行動の特性を学ぶ。 |
| 第6回 | 人間の特性（感覚、距離感） | 人と人の関係における、感覚や行動の特性を学ぶ。 |
| 第7回 | 人間の特性（知覚、認知） | 人の五感、特に視覚、聴覚の特性と空間のあり方を学ぶ。 |
| 第8回 | マンマシンインターフェイス | 人間と、モノや環境との関係をつくるメカニズムを知る。 |
| 第9回 | ヒューマンエラー | 人間と、モノや環境との関係の中で起こるエラーについて学ぶ。 |
| 第10回 | ユニバーサルデザイン | 人間から考えるデザイン展開の考え方として、ユニバーサルデザインのユニバーサルデザインを考える。 |
| 第11回 | 生活環境への展開（安全性） | 人間工学の応用展開として、住環境を中心に安全設計を学ぶ。 |
| 第12回 | 生活環境への展開（快適性・使いやすさ） | 人間工学の応用展開として、快適性や使いやすさを考えたデザインを学ぶ。 |
| 第13回 | モノづくりへの展開（椅子） | 人間工学を応用展開した椅子の設計の考え方を学ぶ。 |
| 第14回 | モノづくりへの展開（空間、製品） | 人間工学を応用展開したプロダクトやインテリアを学ぶ。 |
| 第15回 | 実空間での体験学習　（時期は、前後するものとする） | 実際の住宅空間や設備を体験できる「積水ハウス総合住宅研究所」で、人間工学からのモノづくりを体験し、考える。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| 授業中にノートをとることが必須です。 |

| 講義名 | 人間工学実習 | | | | | | | 担当教員 | 森下　あおい／宮本　雅子 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402520 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 実習 | | |
| ナンバリング番号 | 333LVD301 | | | | | | | | |

## 授業概要

生活に関わるデザインの多くのものは、人体のサイズや形態を基準に設計されている。この授業では人体計測法と基準となる人体各部の計測点を、実際の計測を通じて学ぶとともに、服飾 、道具、住居分野のデザインを行う際に必要とする体形特徴や、動作や姿勢によって生じる体形の変化などと関係する設計条件を実験によって把握する。また計測値をデザインに活用するための統計手法を学ぶ。

## 到達目標

(1)デザインに必要な人体形態の理解
(2)衣服型紙と人体寸法の関係の理解
(3)計測値の統計処理法の習得
(4)人間とモノとの関係について分析する能力の習得

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 100 | 到達目標の(1)デザインに必要な人体形態の理解、については、レポート30%、(2)衣服型紙と人体寸法の関係の理解、については、レポート10%、(3)計測値の統計処理法の習得については、レポート10%、(4)人間とモノとの関係について分析する能力の習得、については、レポート50%で評価する。 |

授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない。
実習課題ごとにレポートが課せられる。

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

テキスト：配布資料によって授業を行います

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 人間工学実習 | | | | | | | 担当教員 | 森下　あおい／宮本　雅子 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402520 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 実習 | | |
| ナンバリング番号 | 333LVD301 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | オリエンテーション | 授業の進め方について |
| 第2回 | 人体の計測とは | 第2回～８回はグループに分かれて人体計測を行うため、計測方法の種類と計測に必要な基準点を学ぶ。 |
| 第3回 | 姿勢・シルエットの計測 | 3次元計測から姿勢・シルエットの観察と考察を行う |
| 第4回 | 体表に沿った２点間の計測 | マルチン計測法により、長径項目・周径項目の計測を行う |
| 第5回 | ２点間の直線距離の計測 | マルチン計測法により、高径項目・幅径項目の計測を行う |
| 第6回 | 日常動作と人体について | 日常動作による体形変化の観察と考察を行う |
| 第7回 | 計測値の統計処理（１） | 計測値の統計処理の方法を説明する |
| 第8回 | 計測値の統計処理（２） | 個人と集団によるデータの扱い方を学ぶ |
| 第9回 | 課題説明と注意事項の説明 | 第１０～１５回の６実習はグループごとにローテーションで行うため、実習の方法について説明する |
| 第10回 | 望ましい通路の幅 | 車椅子を利用した場合の通路幅について検討する |
| 第11回 | 斜路の検討 | 車椅子を使用した場合の斜路の勾配について学内の学内の斜路を対象に検討する |
| 第12回 | 道具の使いやすさの分析 | 8種類のドアノブを対象としてその寸法の計測と使いやすさの分析を行う |
| 第13回 | 空間イメージ | 空間の明るさ、光源の色温度、器具の配置と空間イメージを検討する |
| 第14回 | 椅子の高さと座り心地 | 椅子の高さ、座面の材質の違いによる座り心地と体圧分布 |
| 第15回 | 色識別について | 視覚の状態（白内障、色弱）による色識別能力について体験するとともに学内のサインの評価を行う |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 人間文化論Ａ | | | | | | | 担当教員 | 細馬　宏通／奥村　万寿美／塚本　礼仁／藤木　庸介／Borjigin Burensain |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402540 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 133LVD102,134NUT102,135LAH2011,37BAC102 | | | | | | | | |

## 授業概要

人間文化学部は、地域文化学科、生活デザイン学科、生活栄養学科、人間関係学科、国際コミュニケーション学科の5学科から成っている。しかしそれぞれの学科は特定の分野の中に閉じ込められているわけではない。では、それぞれの学科は外の分野に向かってどのように開かれているのだろうか、それを考える手がかりとして、この講義では異なる学科に属する10組の教員どうしの対談と、各学科の教員による5つのレクチャーが行われる。これから4年間を過ごす学部で、どのように学問の関心を広げ、他学科の教員や学生と交流を開いていけばよいのか、この講義からそのことを考えるヒントをつかんでほしい。

## 到達目標

(1)人間の文化に関する知識を幅広く身につけ、理解できる。
(2)学問領域を越えて、多様なできごとに興味と関心を持つ態度を持つことができる。
(3)自分の領域で直面している問題に対して、他領域の人々とディスカッションを行い、柔軟な思考と判断を行うことができる。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | 50 | 最終レポート課題（学生による学科間ディスカッションによるもの） |
| 上記以外 | 50 | 各対談時のリスポンスペーパー |

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 人間文化論Ａ | | | | | | | 担当教員 | 細馬　宏通／奥村　万寿美／塚本　礼仁／藤木　庸介／Borjigin Burensain |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402540 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 133LVD102,134NUT102,135LAH2011,37BAC102 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | イントロダクション | この講義の進め方に関するガイダンス。 |
| 第2回 | 国際コミュニケーション×人間関係 | 第2回～第11回は各学科から一人の教員が対談形式の講義を行います。学科の組み合わせの日取りは変更される場合があります。教員の組み合わせと講義タイトルは4月のオリエンテーション時に伝え |
| 第3回 | 地域文化×生活デザイン | |
| 第4回 | 地域文化×国際コミュニケーション | |
| 第5回 | 生活デザイン×国際コミュニケーション | |
| 第6回 | 生活栄養×国際コミュニケーション | |
| 第7回 | 生活デザイン×人間関係 | |
| 第8回 | 地域文化×人間関係 | |
| 第9回 | 生活栄養×人間関係 | |
| 第10回 | 生活デザイン×生活栄養 | |
| 第11回 | 地域文化×生活栄養 | |
| 第12回 | 各学科によるまとめ（１） | 生活栄養学科まとめ／地域文化学科まとめ／生活デザイン学科まとめ |
| 第13回 | 各学科によるまとめ（２） | 国際コミュニケーション学科まとめ／人間関係学科まとめ／次週の準備 |
| 第14回 | 学生自身によるディスカッション | 各5学科から最低1人を含むチームを作り、他学科の学生との討議を行います。 |
| 第15回 | ディスカッションをまとめる | レポートをまとめるためのガイダンス。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 人間文化論Ｂ | | | | | | | 担当教員 | 小熊　猛／京樂　真帆子／塚本　礼仁／濱崎　一志／Martin Hawkes／横田　祥子 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402550 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 133LVD103,134NUT103,135LAH2021,37BAC103 | | | | | | | | |

## 授業概要

テーマ：「交流する文化、交差するまなざし」
　文化は、さまざまな歴史的な要因によって他の文化と交流し、受容や反発の複雑なプロセスを経ちながらそのオリジナルな形を変容させてゆく。本講義では、5人の教員がオムニバス形式で、それぞれ具体的な文化現象をとりあげて、その交流や変容の問題について論じる。
　本年度の担当教員とその講義内容は以下の通りである。

## 到達目標

文化の交流や変容の諸相について理解すること。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | 100% | ミニレポートもしくは小テストに対する採点 |
| 上記以外 | | |

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

特になし

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

その都度、紹介する

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 人間文化論Ｂ | | | | | | | 担当教員 | 小熊　猛／京樂　真帆子／塚本　礼仁／濱崎　一志／Martin Hawkes／横田　祥子 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402550 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 133LVD103,134NUT103,135LAH2021,37BAC103 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | 「異国」との交流 | 3回の講義の概要を説明する。「異」なるモノとの出会い、時空間の歴史学的認識について、「国風文化」論の再検討を行う。（京樂真帆子） |
| 第2回 | 「異界」との交流 | 「異」なるモノとの出会い、時空間の歴史学的認識について、「百鬼夜行」を通して再検討する。（京樂真帆子） |
| 第3回 | 「異性」との交流 | 「異」なるモノとの出会い、時空間の歴史学的認識について、性の多様性を確認した上で、異性への呼びかけを和歌に詠んでもらう。（京樂真帆子） |
| 第4回 | Starbucksの文化地理 | スターバックスの世界展開を素材として、地理学の立場から、文化の交流・交差、受容・反発という問題にアプローチする。（塚本礼仁） |
| 第5回 | 蒲焼の文化地理 | 日本人が好むウナギの蒲焼を素材として、地理学の立場から、文化の交流・交差、受容・反発という問題にアプローチする。（塚本礼仁） |
| 第6回 | 地域イメージの文化地理 | 人びとが抱く地域イメージを素材として、地理学の立場から、文化の交流・交差、受容・反発という問題にアプローチする。（塚本礼仁） |
| 第7回 | アーチの誕生と伝播 | メソポタミアで生まれ、ローマ帝国の繁栄とともに広く伝播したアーチ構造であるが、インド亜大陸では11世紀まで採用されることはなかった。建築技術の伝播を文化の選択的取得の視点から論じる。 |
| 第8回 | 仏教東漸 | インド亜大陸で生まれた仏教が中央アジア、中国、朝鮮をへて日本に伝来するまでの変遷を建築史的視点で論じる。（濱崎一志） |
| 第9回 | 滋賀県の民家 | 滋賀県の民家の特徴と系譜や、その分布域について事例をあげながら論じる。（濱崎一志） |
| 第10回 | 英語の変遷：英語の外面史 | 英語の外面史：英語の時代区分<br>英語は古英語、中英語、近代英語と大別される。それぞれの時代の人々の移動と言語接触、英語とい |
| 第11回 | 英語の変遷：古英語から中英語へ | 古英語から中英語へ<br>第10回で概観した英語の歴史的変化の古英語から中英語への変化に注目して講義を進める。（小熊 |
| 第12回 | 英語の変遷：中英語から近代英語へ | 中英語から近代英語へ<br>中英語から近代英語は音韻的変化によって区別される。大母音推移に触れながら講義を進める。（小 |
| 第13回 | Global languages | In this first class, we will explore languages in history that expanded beyond their homelands to become international languages. (Martin Hawkes) |
| 第14回 | Global Englishes | In this second class, we will look at the current situation of one language that claims to be a global language - English. (Martin Hawkes) |
| 第15回 | The Future of Global Englishes | In the final class, we will look forward to the future of global communication. Will English remain the most important global language? (Martin Hawkes) |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 人間文化論Ｃ | | | | | | | 担当教員 | 宮本　雅子／奥村　万寿美／中村　好孝／松嶋　秀明／横田　尚美 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402560 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 133LVD104,134NUT104,135LAH203 | | | | | | | | |

## 授業概要

人間文化論Ｃでは「人間を取り巻く生活環境」に焦点をあて、生活環境に関わる諸問題ついて考える機会とする。生活環境は、人間の生活と生存にかかわる人的・社会的・自然的諸条件等からとらえることができる。そこで生活文化系３学科（生活デザイン・生活栄養・人間関係）教員のそれぞれの視点から、人間が心身ともに健康で快適に生活していくための諸条件について論じる。

この授業では、まず、住生活・衣生活における快適な環境条件について５回講義する（宮本・横田）。次に、現代の「食と栄養」を取り巻く様々な問題点をとりあげながら、健康を維持・増進するための食生活について５回講義する（奥村）。さらに、人間にとっての最小の共同体である家族がどのようになろうとしているかという現代家族論を５回講義する（松嶋・中村）。

## 到達目標

（宮本・横田）（1）住宅の中の暮らしとその変化について理解すること。(2)自分が身に着ける衣服とからだの関係や、ファッション産業がもたらす人体を含む環境への影響に関心を持つことができる。
（奥村）　現代の「食と栄養」を取り巻く様々な問題点を踏まえ、健康を維持・増進するための食生活について理解することができる。
（松嶋・中村）（1）家族をみるための視点を身につけることができる。（2）現代的社会問題を家族との関連で理解することができる。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 0 | |
| レポート課題 | 0 | |
| 上記以外 | 100 | （宮本・横田）到達目標の（1）住宅の中の暮らしとその変化について理解すること、（2）自分が身に着ける衣服とからだの関係や、ファッション産業がもたらす環境への影響に関心を持つことができる、については、課題レポート（33%：（1）19%、（2）14%） |

各教員がそれぞれ授業中に課題を出すことがある。
授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない。

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 人間文化論Ｃ | | | | | | | 担当教員 | 宮本　雅子／奥村　万寿美／中村　好孝／松嶋　秀明／横田　尚美 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402560 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 133LVD104,134NUT104,135LAH203 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | 日本の住まい | 日本の住宅について概観する。 |
| 第2回 | 超高齢社会における住環境 | 超高齢社会における日本の住宅問題について考えるきっかけとする。 |
| 第3回 | 日本のあかり | 日本のあかりの歴史について概観し、現代の照明環境について考える。 |
| 第4回 | ファッション消費環境 | 衣服は最もからだに近い環境である。その視点から、服と人間とのかかわりについての問題点を考える。 |
| 第5回 | ファッション産業をとりまく環境 | 毎日からだに身に着ける服がどのような環境で作られているのか、より広い視野で衣服と環境について考える。 |
| 第6回 | 日本人の食事の変遷 | 日本人の食文化と食事について解説するとともに，現代の日本人の目指す食事について考察する． |
| 第7回 | 日本の食糧事情 | 現在、私たちはどのような食の環境の中に置かれ、どのような食の問題を抱えているのか、食の安全・安心について考える。 |
| 第8回 | 健康食品とサプリメント | 近年、いわゆる健康食品やサプリメントが数多く市場に出まわっている。その機能性や摂取法、健康被害にあわないための注意点などについて述べる。 |
| 第9回 | 健康を維持増進するため食生活 | 生活習慣病予防のために、何を・いつ・どのように食べるのかについて述べる |
| 第10回 | 「食べる力」＝「生きる力」を育む食育～実践力を育てる～ | 「食べる力」を育む実践力の強化法について述べる。 |
| 第11回 | 家族のなりたちと人間の心理 | 進化心理学、あるいは文化心理学の観点から、人間の家族のもつ特殊性、家族の成立する要件などについて外観する。また、そのことが食生活や、住居の問題といかに密接につながっているのかについ |
| 第12回 | 家族を形成する心理 | 恋愛から結婚、出産というライフイベントを人はどのように経験し、のりこえていくのか。そこに心理学的にどのような問題が生じていくのかについて家族心理学的観点から述べる。 |
| 第13回 | 家族を維持する心理 | 出産、育児と、仕事との両立、あるいは父親の育児参加といった問題について、家族心理学的観点から述べる。 |
| 第14回 | 家族関係の歪みがもたらすもの | 家族をいとなんでいくうえで遭遇する障害や病理、具体的には愛着の問題、産後うつ、思春期の不適応などについて述べる |
| 第15回 | 家族関係の社会学 | 家族関係が社会関係により、いかに相互に影響されあっているのかについて、社会学的観点から述べる。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 比較衣装論 | | | | | | | 担当教員 | 横田　尚美 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402630 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 133FSD161 | | | | | | | | |

## 授業概要

衣食住の中の衣は、生活デザインを構成する重要な要素である。
文明が生まれてから今日までの服飾文化を時代ごとに比較しながら論じることで、それぞれの時代の服飾の必然を知る。
そのことが現在を理解する鍵となり、未来を考えるヒントになる。
時代時代の歴史やデザインとともに論じるので、デザインのインスピレーション源にもなる。
服飾を通じて、生活デザイン全般や世界の歴史を理解する一助とする。

## 到達目標

（1）歴史の流れを把握できる。
（2）服飾の変化を歴史の中に意味づけられる。
（３）服飾の変化のポイントが理解できる。
（４）時代ごとの他のデザイン分野との関わりが理解できる。
（5）時代ごとのポイントが理解できる。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 92 | （１）～（4）について、授業内容の理解度を定期試験で計る。それぞれ23%とする。 |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 8 | （４）については、リアクションペーパーで評価する。<br>各回の内容を理解しているか、授業に積極的かを評価する。 |

３分の１以上を特段の理由なく欠席した場合は、評価の対象としない。
定期試験の結果とリアクションペーパーの内容に基づいて、１００点満点中６０点以上を合格とする。

## 授業外学習

講義の終わりに、次回の内容に関する質問を出し、それについて次回までに考えをまとめてくるように指示する場合がある。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | カラー版世界服飾史 | 深井晃子 | 美術出版社 | 978-4+568-40077-9 |
| 2 | ２０世紀からのファッション史 | 横田尚美 | 原書房 | 978-4-562-04773-4 |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

高校の社会科の教科書や資料集などを持っていれば、参考にしてほしい。

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 比較衣装論 | | | | | | | 担当教員 | 横田　尚美 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402630 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 133FSD161 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | オリエンテーション | 衣服とは？比較とは？<br>この講義の概要を解説する。 |
| 第2回 | 古代の服飾1 | 古代エジプト、メソポタミアの服飾とその背景を知る。 |
| 第3回 | 古代の服飾2 | 古代ギリシア・ローマの服飾とその背景を知る。 |
| 第4回 | 中世の服飾 | ヴィザンチン帝国の服飾、ロマネスク時代の服飾について、その背景とともに理解する。 |
| 第5回 | 中世～近世の服飾 | ゴシック時代の服飾とその背景を知る。<br>ゴシックからルネサンスへの過渡期の服飾と背景、ルネサンスについて学ぶ。 |
| 第6回 | 近世の服飾1 | ルネサンスの服飾とその背景、大航海時代の服飾とその背景を知る。 |
| 第7回 | 近世の服飾2 | オランダ市民社会の服飾とその背景、バロック時代のの服飾とその背景を知る。 |
| 第8回 | 近世の服飾3 | ロココ文化とその時代の服飾について学ぶ。<br>産業革命とイギリス趣味の流行、その時代の服飾について学ぶ |
| 第9回 | 近世の服飾4 | フランス革命の背景と服飾の意味、その後の時代の服飾について学ぶ。 |
| 第10回 | 近代の服飾1 | 新古典主義とエンパイアスタイル、ダンディズムについて学ぶ。 |
| 第11回 | 近代の服飾2 | ロマン主義の流行とその時代の服飾について学ぶ |
| 第12回 | 近代の服飾3 | 近代化と新しい産業であるデパートや既製服産業と、その時代の服飾について学ぶ。 |
| 第13回 | 近代の服飾4 | オートkチュールとクリノリンスタイルについて、その背景とともに学ぶ。 |
| 第14回 | 近代の服飾5 | ジャポニスムとバッスルスタイルについて、その背景と共に学ぶ。 |
| 第15回 | まとめ | 古代から近代までの変化を確認する。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| 講義を受ける態度などについては、初回に説明します。 |

| 講義名 | 比較道具論 | | | | | | | 担当教員 | 面矢　慎介 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402680 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 133TLD141 | | | | | | | | |

**授業概要**

比較文化の視点から道具を考察する基本的視点の解説。個別的文化をこえて生活道具の多様性を理解するため、世界各地の生活用具をとりあげて日本の生活用具と比較し、その相違をもたらした文化的・技術的背景について考察する。日本および世界各地の伝統的道具ばかりでなく、近代化以降の道具、大量生産による現代製品についても取り上げる。比較の対象領域としては、わが国の近代化以前の道具文化との関連の深い朝鮮半島、および近代化以後の主要な文化移入元のひとつであった英国、第二次世界大戦後の工業製品において日本に強い影響をもたらした米国などを中心とする。

**到達目標**

生活文化と道具デザインの密接な関係についての認識を深める。（１）授業内容を理解し要点をまとめられる。（２）授業内容に対して自分の意見や感想を述べることができる。（３）授業に関係する文献を読み、内容をまとめ、考察を加えることができる。（４）１つの道具について自分で調べ、その結果を文章にまとめることができる。

**成績評価**

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 0 | |
| レポート課題 | 60 | 期末レポート |
| 上記以外 | 40 | コメントカード（１５%）と小レポート（３本，計２５%） |

授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象としない。

**授業外学習**

毎回の授業終了時にコメントカードを回収

**教科書**

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

**参考書**

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 道具学への招待 | 道具学叢書委員会 | ラトルズ | 978-4-89944-185-2 |
| 2 | おまるから始まる道具学 | 村瀬春樹 | 平凡社新書 | |
| 3 | | | | |

授業中にプリント配布する

**前提学力等**

**履修資格**

| 講義名 | 比較道具論 | | | | | | | 担当教員 | 面矢　慎介 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402680 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 133TLD141 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | 比較道具論の視点 | 道具の多様性、伝播と進化（便器と便所） |
| 第2回 | 民具の概念 | 民具研究の事例（藁の文化ほか） |
| 第3回 | 日本の伝統的道具１ | 火鉢とこたつ |
| 第4回 | ヨーロッパの伝統的道具 | 調理と暖房の火の設備 |
| 第5回 | 日本の伝統的道具２ | 鍋と鉄鋳物 |
| 第6回 | モンゴルの住居と道具 | ゲル、ゲル内の民具 |
| 第7回 | 体験学習 | モンゴルゲルの解体 |
| 第8回 | 中国・朝鮮半島・日本のすわる文化 | 椅子、オンドル、ちゃぶ台 |
| 第9回 | 道具の近代化１ | イギリスの鍋 |
| 第10回 | 道具の近代化２ | 電気やかんと魔法瓶 |
| 第11回 | 大学におけるレポートとは何か | レポートの書き方、資料の集め方 |
| 第12回 | 道具の近代化３ | 真空掃除機 |
| 第13回 | 道具の近代化４ | 風呂 |
| 第14回 | 研究事例の紹介 | コーヒー・パーコレーター |
| 第15回 | 小道具のアノニマスヒストリー | ガラスびん、授業全体の総括 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 服飾文化論 | | | | | | | 担当教員 | 横田　尚美 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402780 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 233FSD265 | | | | | | | | |

## 授業概要

服飾文化について、服飾文化史、社会と服飾産業という観点から紹介する。
現在のファッションの原点を知る。
ファッションとは異なる服飾文化の側面に気付かせる。
服飾産業の現状についても注目する。
時代時代の歴史やデザインとともに論じるので、デザインのインスピレーション源ともなる。

## 到達目標

（1）20世紀から現在に至る歴史の流れを把握できる。
（２）ファッションの変化を歴史の中に意味づけられる。
（3）20世紀初めから現在のファッションに至る過程が、社会の変化とともに理解できる。
（4）時代ごとの他のデザイン分野との関わりが理解できる。
（5）各回ごとのポイントが理解できる。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 92 | （1）～（4）について、授業内容の理解度を定期試験で計る。<br>複合的な内容の試験によって、理解度を計る。 |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 8 | （4）については、リアクションペーパーで評価する。<br>各回の内容を理解しているか、授業に積極的かを評価する。 |

3分の1以上を特段の理由なく欠席した場合は、評価の対象としない。
定期試験の結果とリアクションペーパーの内容に基づいて、100点満点中60点以上を合格とする。

## 授業外学習

講義の終わりに、次回の内容に関する質問を出し、それについて次回までに考えをまとめてくるように指示することがある。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | カラー版世界服飾史 | 深井晃子 | 美術出版社 | 978-4-568-40077-9 |
| 2 | 20世紀からのファッション史 | 横田尚美 | 原書房 | 978-4-562-04773-4 |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

高校の社会科の教科書や資料集などを持っていれば、参考にしてほしい。

## 前提学力等

比較衣装論を受講していることが望ましい。

## 履修資格

| 講義名 | 服飾文化論 | | | | | | | 担当教員 | 横田　尚美 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402780 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 233FSD265 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | オリエンテーション | 比較衣装論の内容を確認し、服飾文化論の内容を紹介する。 |
| 第2回 | 近代の服飾1 | アールヌーヴォーとS字シルエットについて、その背景とともに学ぶ。 |
| 第3回 | 近代の服飾2 | 20世紀初めの服飾とその背景を学ぶ。 |
| 第4回 | 20世紀初期のファッション | 第一次世界大戦前後の服飾とその背景を学ぶ。 |
| 第5回 | 1920年代のファッション | 1920年代の服飾について、アールデコなどの時代背景とともに学ぶ。 |
| 第6回 | 1930年代のファッション | 世界恐慌以降1930年代の時代背景と服飾について学ぶ。日本の戦中の服装生活についても考える。 |
| 第7回 | 1940年代のファッション | 第二次世界大戦後の服飾について、その時代背景とともに学ぶ。 |
| 第8回 | 1950年代のファッション | 1950年代のオートクチュール全盛期の時代背景と服飾について学ぶ。 |
| 第9回 | 1960年代前半のファッション | 大衆文化の花開いた1960年代前半の服飾と時代背景について学ぶ。 |
| 第10回 | 1960年代後半のファッション | ベトナム戦争の影響などを受けた1960年代後半の文化と服飾について学ぶ。 |
| 第11回 | 1970年代のファッション | 1970年代の服飾について、その時代背景とともに学ぶ。 |
| 第12回 | 1980年代のファッション | 1980年代の服飾について、その時代背景とともに学ぶ。 |
| 第13回 | 20世紀末のファッション | 世紀末的な現象とファッションについて、その時代背景とともに学ぶ。 |
| 第14回 | 21世紀のファッション | この15年のファッション動向について考える。 |
| 第15回 | まとめ | 20世紀から現在までの服飾文化について、時代の変化とともに確認する。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| 講義を受ける態度などについては、初回に説明する。<br>服飾文化を扱うという性質上、世界の情勢やトレンドにより、内容を変更して、時機に応じた内容を取り上げることがある。 |

| 講義名 | 服飾心理学 | | | | | | | 担当教員 | 横田　尚美 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402800 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 333FSD262 | | | | | | | | |

## 授業概要

様々な服飾、服飾に関わる人間の行為などを通して、服飾と人間の関係について考える。
服飾、またはファッションが人間の心理に与える影響を自覚し、社会を理解する一助とする。

## 到達目標

（1）それぞれのテーマに問題意識を持つことができる。
（2）服飾が持つ心理的な力を客観的かつ総合的に分析し、理解することができる。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | 90 | 冬休みと期末に、レポート課題を課す。<br>（2）についてと、レポートの書き方について評価する。 |
| 上記以外 | 10 | （1）については、リアクションペーパーによって計る。 |

3分の1以上を特段の理由なく欠席した場合は、評価の対象としない。
定期試験の結果とリアクションペーパーの内容に基づいて、100点満点中60点以上を合格とする。

## 授業外学習

授業の内容について具体的なテーマを与え、事前に考えてくるように指示することがある。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ファッションを考える | 横田尚美 | 丸善出版 | 4-621-07250-1 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

授業に使用する資料を持参してもらうことがある。

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 服飾心理学 | | | | | | | 担当教員 | 横田　尚美 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402800 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 333FSD262 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | オリエンテーション | 講義の概要を説明する。<br>服とは何か、服の意味について考える。 |
| 第2回 | 服を着る意味 | 服を着る意味を、意見を出し合い、また映像を視聴することで考える。 |
| 第3回 | 現物史料が与える心理的側面 | 京都服飾文化研究財団の展示を見学し、その展示品から当時の製作者や着用者の心理や見学者の心理について考える。 |
| 第4回 | ファッションショーと服飾心理 | 最新の東京コレクションの映像から、ファッションデザインが見る人にもたらす心理的側面について考える。 |
| 第5回 | 1960年代のファッションと心理的背景 | １９６０年代のファッションを社会背景と若者の心理とともに理解する。 |
| 第6回 | 1970年代のファッションと心理的背景 | 1970年代のファッションを社会的背景とファッション消費者の心理とともに理解する。 |
| 第7回 | 1980年代以降のファッションと心理的背景 | 1980年代のファッションを社会的背景とファッション消費者の心理とともに理解する。 |
| 第8回 | 現在のファッションと心理的背景 | ファストファッションがもたらしたファッション消費者の心理的変化について理解する。 |
| 第9回 | ファッション消費者心理とファッションビジネス1 | ファッション消費者心理を理解するための知識として、ファッション業界の概要を学ぶ。 |
| 第10回 | ファッション消費者心理とファッションビジネス2 | ファッション消費者心理を理解するための知識として、ファッション業界の仕事の流れを学ぶ。 |
| 第11回 | ファッション消費者心理とファッションビジネス3 | ファッション消費者心理を理解するための知識として、ファッションシステムを理解する。 |
| 第12回 | ファッション消費者心理とファッションメディア | ファッションの雑誌やサイトを題材に、ファッション消費リテラシーについて考える。 |
| 第13回 | 民族服飾と心理1 | 民族服飾が表す情報と着用者の心理について学ぶ。 |
| 第14回 | 民族服飾と心理2 | 民族服飾を実際に着用することにより、着用した時の心の動きを体感する。 |
| 第15回 | 服飾デザインに対する問題意識 | 卒制卒論発表会を見学することで、身近な先輩が服飾デザインについて持っている問題意識を知ることで、その心理的背景を考える。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| 服飾心理という性質上、世界の情勢やトレンドにより、内容を変更して、時機に応じた内容を取り上げることがある。<br>体験学習やグループワークなどを含む。 |

| 講義名 | 服飾造形論 | | | | | | | 担当教員 | 森下　あおい |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402830 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 333FSD261 | | | | | | | | |

## 授業概要

人体を基体とする衣服は、体形への適合と目指すデザインへの対応を念頭に置きながら、適切なゆとり量を備えて設計される。この授業では、衣服設計に必要な人体形状とパターンの関係の理解のために、身頃、衿、袖、スカート、パンツにおける主要なデザインを取り上げて説明を行う。各回では、種類や異なる部位のデザイン要素を考察するとともに、平面作図法と立体裁断法の両方の設計方法についても、演習的な進め方の中で学ぶ。

## 到達目標

（1）人体形状と上衣、下衣のパターン形状の理解
（2）各部位のデザイン要素とパターン展開方法の理解

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 60 | 上衣、下衣のデザイン要素および、基本パターンとその展開について理解できているか |
| レポート課題 | | |
| 上記以外 | 40 | 各部位パターンと人体の関係が理解できているか |

授業の３分の１以上欠席したものは評価の対象としない

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

授業中に参考プリントを配布します

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 服飾造形論 | | | | | | | 担当教員 | 森下　あおい |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402830 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 333FSD261 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | はじめに | 服飾造形における人体の把握の必要性について |
| 第2回 | 原型について | 原型と人体の形状について |
| 第3回 | 身頃の形状について | 衣服の適合性評価の視点について |
| 第4回 | 衣服のパターンとデザインについて | 基本的な衣服の種類とパターン設計について |
| 第5回 | 袖の形状について | 袖の基本パターンと人体形状の関係について |
| 第6回 | 袖のデザイン展開について | 袖のデザイン要素とその特徴について |
| 第7回 | 衿の形状について | 衿の基本パターンと人体形状の関係について |
| 第8回 | 衿のデザイン展開について（１） | 衿のデザイン要素とその特徴について |
| 第9回 | 衿のデザイン展開について（２） | 衿のデザイン要素とその特徴について |
| 第10回 | スカートの形状について | スカートの基本パターンについて、胴部、腰部の人体形状との関係について |
| 第11回 | スカートのデザイン展開について（１） | スカートのデザイン要素とシルエットの特徴について |
| 第12回 | スカートのデザイン展開について（２） | スカートのデザイン要素とシルエットの特徴について |
| 第13回 | パンツの形状について | パンツの基本パターンについて、胴部、腰部の人体形状との関係について |
| 第14回 | パンツのデザイン展開について | パンツのデザイン要素とパターン構造について |
| 第15回 | まとめ | 各回を振り返り、服飾造形におけるパターンとデザインの関係について考察を行う |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 服飾デザイン演習Ⅰ | | | | | | | 担当教員 | 森下　あおい |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402860 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 233FSD264 | | | | | | | | |

## 授業概要

この授業では、基本的な衣服パターンの作成、生地の裁断、組み立ての一連の流れを通じて、衣服制作に必要な基礎知識と技術の習得および、評価の視点を理解する。まず前半ではシャツの制作により、身頃形態と各部パターンの特徴、デザインと生地の関係、縫製方法を学ぶ。後半では下衣のデザイン課題により、人体の立体形状と衣服デザインの展開や考え方を学ぶ。

## 到達目標

（1）シャツのパターン理論と作成、縫製技術の習得する
（2）人体と衣服のゆとりについて理解する
（3）衣服着用評価の視点を学ぶ

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | 20 | 目的に応じた作図、裁断、縫製方法を理解しているか。 |
| 上記以外 | 80 | 課題を適切な方法で制作できているか。 |

3分の１以上欠席した場合は、評価の対象としない。

## 授業外学習

各回の目的に応じて制作内容が異なる為、その都度、授業内で行う内容を把握する必要がある。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 文化ファッション大系　服飾造形講座3　ブラウス・ワンピーズ | 文化服装学院編 | 文化出版局 | 4-579-10839-6 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 服飾デザイン演習Ⅰ | | | | | | | 担当教員 | 森下　あおい |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402860 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 233FSD264 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | シャツのデザイン（課題１）とパターン作成 | シャツのデザインの要素、パターンメーキングの方法について学ぶ。 |
| 第2回 | パターン作成とチェック | シャツの形状と人体に対するゆとり量、生地との関係を学ぶ。 |
| 第3回 | 裁断 | 裁断の方法を学ぶ |
| 第4回 | 印つけ | 印つけの方法を学ぶ。 |
| 第5回 | 基本的な縫い方とダーツ縫い | ダーツ、身頃の各部位の縫製の仕方を学ぶ。 |
| 第6回 | 肩合わせと脇縫い | シャツ身頃の各部分の形状を理解する。 |
| 第7回 | 袖づくり | 袖の形状と縫製方法を理解する。 |
| 第8回 | 衿づくり | 衿の形状と縫製方法を理解する。 |
| 第9回 | 衿つけ | 衿つけを通して身頃と衿の立体的関係を理解する。 |
| 第10回 | 袖つけ | 袖つけを通して身頃と袖の立体的関係を理解する。 |
| 第11回 | 裾の始末と仕上げ | 裾の始末、ボタン付け、全体の仕上げ方法を学ぶ。 |
| 第12回 | パターンと布の立体化の関係（課題２）① | 人体胴部の形状とデザインの展開を学ぶ。 |
| 第13回 | パターンと布の立体化の関係② | 人体腰部の形状とデザインの展開を学ぶ。 |
| 第14回 | パターンと布の立体化の関係③ | 胴部と腰部の人体バランスについて理解する。 |
| 第15回 | まとめ | 着用評価と合評 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 服飾デザイン演習Ⅱ | | | | | | | 担当教員 | 横田　尚美 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402870 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 233FSD361 | | | | | | | | |

## 授業概要

服飾が、それぞれの時代の中のどのような生活デザインの中で身につけられているかを、映画や文学のストーリーの中で理解することで、服飾デザインの発想に活かすための演習を行う。
現存する衣装、当時のファッション雑誌などの一次資料も活かしながら、調査し、発表する。
服飾文化についてのレポート課題により、論理的に考察する力とルール通りにレポートを作成する力を養う。
最後に、課題の製作物や論文について発表し、批評し合う。

## 到達目標

（1）原作が楽しめ、理解できる。
（2）原作に登場する生活デザインなどの文化を窓口に、視野を広げることができる。
（3）原作に登場する服飾について関心を持ち、生活デザイン全体の中で理解できる。
（4）原作について、分析的なレポートがルールに則って作成できる。
（5）時代背景とその時代の服飾デザインを理解し、応用して服飾デザインなどを発想することができる。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | 40 | 内容（20%）、書き方（20%） |
| 上記以外 | 60 | （1）～（3）については、授業態度や発表の内容、リアクションペーパーで評価する。（10%）<br>（4）発表会の課題で評価する。（50%） |

## 授業外学習

７回から１２回については、分担した部分の服飾を含む様々な歴史や文化について、グループワークと各自の活動によって調査を行う。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

初回に決定した文学作品を購入する。文庫本の予定である。

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

講義の中で適宜、紹介する。

## 前提学力等

比較衣装論、服飾文化論、服飾デザイン演習Ⅰを受講していることが望ましい。

## 履修資格

| 講義名 | 服飾デザイン演習 II | | | | | | | 担当教員 | 横田　尚美 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402870 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 233FSD361 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | オリエンテーション | 演習の方法を説明し、受講者が取り組む作品を選ぶ。 |
| 第2回 | 事前学習1 | 作品を描いた映像でストーリーを知る。 |
| 第3回 | 事前学習2 | 前回視聴した部分の問題などを解決し、続きを視聴する。 |
| 第4回 | 作品購読の導入 | 前回視聴した部分の問題などを解決し、映画全体を通して、文化、生活デザイン、服装を概観する。<br>作品を受講者で輪読し、作品世界を知る。 |
| 第5回 | 現存資料の学習 | 作品を理解するための手段として、現存する衣服の資料について、見学を通して理解を深める。 |
| 第6回 | 関連論文講読 | 同様の調査研究を行っているような参考になる論文を読み、研究のやり方を学ぶ。<br>グループ分けをする。 |
| 第7回 | 服飾と文化についての発表1 | 前回指摘された件について、調査してきた内容を分担者が発表する。次の部分について、事前に講読し、服装や文化について指摘する。 |
| 第8回 | 服飾と文化についての発表2 | 前回指摘された件について、調査してきた内容を分担者が発表する。次の部分について、事前に講読し、服装や文化について指摘する。 |
| 第9回 | 服飾と文化についての発表3 | 前回指摘された件について、調査してきた内容を分担者が発表する。次の部分について、事前に講読し、服装や文化について指摘する。 |
| 第10回 | 服飾と文化についての発表4 | 前回指摘された件について、調査してきた内容を分担者が発表する。次の部分について、事前に講読し、服装や文化について指摘する。 |
| 第11回 | 服飾と文化についての発表5 | 前回指摘された件について、調査してきた内容を分担者が発表する。次の部分について、事前に講読し、服装や文化について指摘する。 |
| 第12回 | 服飾と文化についての発表6 | 前回指摘された件について、調査してきた内容を分担者が発表する。 |
| 第13回 | 課題製作1 | 各自がテーマと内容を決めて、演習のまとめとなる課題に取り組む。 |
| 第14回 | 課題製作2 | 各自がテーマと内容を決めて、演習のまとめとなる課題に取り組む。 |
| 第15回 | 発表会 | 取り上げた作品の生活デザインや時代背景についての課題作品や論文を発表し、評価し合う。 |

| 担当者から一言 |
|---|
| 選ぶ原作によっては、関連する展覧会や施設の見学などを行う場合もある。 |

| 講義名 | 服飾デザイン演習III | | | | | | | 担当教員 | 森下　あおい／法月　紀江※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402880 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 333FSD362 | | | | | | | | |

## 授業概要

この授業では、テーマに応じたコンセプトと、自らのデザインの世界観を服飾として具体的に表現する力を養う。そのために、まず発想源を引き出すためのリサーチを文献資料、素材の収集、見学やヒアリングを通じて行い、アイデアの展開の仕方を学ぶ。そして実物制作を進めるうえで、デザインと体形、素材の関係やディテールの役割を理解し、服飾として全体を纏める力を習得する。

## 到達目標

（1）テーマに対するリサーチとアイデアの展開力
（2）デザインと素材の関係を把握する力。
（3）コンセプトを作品として明確ににまとめる力。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | 20 | テーマに対するリサーチとアイデアをレポートにまとめる。 |
| 上記以外 | 80 | コンセプトに基づいて、形態、素材、色彩の関係を、明確にまとめるているか、作品にて評価する |

授業を3分の１以上欠席した場合は、評価の対象としない

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

プリントを配布します。

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 服飾デザイン演習III | | | | | | | 担当教員 | 森下　あおい／法月　紀江※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402880 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 333FSD362 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | テーマについて | テーマ、準備物、リサーチの仕方について学ぶ。 |
| 第2回 | 条件設定とリサーチ | 課題についての条件とリサーチを話し合う。 |
| 第3回 | リサーチと分析 | テーマとコンセプトに対するリサーチをまとめて発表する。 |
| 第4回 | アイデアの展開とテキスタイルデザインの提案 | スケッチの表現と話し合いを通じたアイデアの展開とテキスタイルデザインの検討を行う。 |
| 第5回 | コンセプトについて | コンセプトボードの作成と発表（１）を行う。 |
| 第6回 | デザインとパターンの検討 | デザインに対するパターンメーキングの方法を検討する。 |
| 第7回 | パターン検討・作成 | デザインと素材、パターンの構成を検討する。 |
| 第8回 | パターン検討・組み立て | パターン作成/テキスタイルデザイン案の作成を行う。 |
| 第9回 | 組み立て | 組み立て/テキスタイルデザイン案の作成を行う。 |
| 第10回 | 組み立てと修正 | 組み立て内容による発表（２）を行う。 |
| 第11回 | 本制作 | 裁断、印付けを行う/テキスタイルの作成 |
| 第12回 | 本制作 | 本縫いを行う。 |
| 第13回 | 本制作 | 本縫いを行う。 |
| 第14回 | 本制作 | 仕上げ |
| 第15回 | まとめ | 合評会 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| 授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない。 |

| 講義名 | 服飾デザイン論 | | | | | | | 担当教員 | 森下　あおい |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402900 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 233FSD263 | | | | | | | | |

## 授業概要

服飾は、社会や文化、時代性を映し出しながら、身に纏うための機能性と審美性を総合してデザインされる。この授業では、服飾デザインのさまざまな目的や用途による特性を理解するために、主要な作品や社会的事例に基づいて、服飾デザインを構成している要素を学ぶ。授業の後半では、現代の社会や生活の中で、服飾デザインにはどのような課題があるのかについて、アパレル生産、製造、素材、購入と消費、ライフスタイルなどから多面的に学ぶとともに、グループワークも行いながら考察力を養う。

## 到達目標

（1）服飾デザインの多面的要素を理解する
（2）服飾デザインのリサーチからアイデアを展開しデザインする方法を理解する
（3）服飾デザインの今日の課題についての考察の視点を持つ

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 70 | 服飾デザインの表現の多面性とその要素を理解しているか<br>服飾デザインの時代性、社会背景を理解しているか |
| レポート課題 | 30 | 各回の講義テーマに対する考察が行えているか |
| 上記以外 | | |

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

授業中にプリントを配布します

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 服飾デザイン論 | | | | | | | 担当教員 | 森下　あおい |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402900 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 233FSD263 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | はじめに | 服飾デザインの種類、目的と役割について学ぶ。 |
| 第2回 | 服飾における審美性について | 美的対象としての服飾について学ぶ。 |
| 第3回 | 服飾における時代性について | 時代性と服飾との関係について学ぶ。 |
| 第4回 | 人体と服飾の関係について | 人体に応じた機能とデザインについて学ぶ。 |
| 第5回 | 服飾の用途と機能性について | 用途に応じた機能とデザインについて学ぶ。 |
| 第6回 | リサーチとアイデアについて | 服飾デザインのリサーチとアイデアの展開、コンセプトについて学ぶ。 |
| 第7回 | デザイン画の表現について | デザイン画の表現とその解釈について考察する。 |
| 第8回 | デザインの現状と課題（サイズ | 服飾デザインにおける体形把握やサイズの課題を学ぶ。 |
| 第9回 | デザインの現状と課題（製造） | 服飾の製造面についての課題を学ぶ。 |
| 第10回 | デザインの現状と課題（素材） | 繊維生産の現状と課題を学ぶ。 |
| 第11回 | デザインの現状と課題（地域） | 伝統的繊維産地の現状と課題を学ぶ。 |
| 第12回 | デザインの現状と課題（用途） | ライフスタイルの変化と服飾の用途の課題を学ぶ。 |
| 第13回 | デザインの現状と課題（購入） | 購入に関わる現状と課題について学ぶ。 |
| 第14回 | デザインの現状と課題（消費） | 消費に関わる現状と課題について学ぶ。 |
| 第15回 | まとめ | ふり返りとまとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| 授業を3分の１以上欠席した場合は評価対象にしない |

| 講義名 | プレゼンテーション技法 | | | | | | | 担当教員 | 印南　比呂志／南　政宏 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402910 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 133LVD203 | | | | | | | | |

## 授業概要

デザイン、建築、映画、アートなどさまざまな表現手法について、それらの専門分野毎に制作作業のプロセスや、基本的技術、考え方などを講義する。グラフィック分野の編集工学として、タイポグラフィ、写真、印刷、造本、映像、DTP、WEBなどの分野の表現技術について学ぶ。また立体表現手法については、スタディモデルから、プロトタイプモデルまでの制作過程を実際に実演しながら説明していく。生活デザイン学科以外でもプレゼンテーション技術について役立つ講義内容もある。講義テーマによっては現場で活躍する専門家を外部講師として招聘する。演習授業ではなく、講義形式の授業ではあるが、常に実践事例をもとに講義をすすめていく。

## 到達目標

映像やグラフィック、模型の表現におけるリテラシーと技術について、基礎的な知識を身につける。前半は表現技術の歴史や作品性を中心に講義を進める。後半は実践的な技術を身につけるための講義を行う。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 0 | なし。 |
| レポート課題 | 60 | 毎回の授業において、授業の終了前にレポートを提出させる。 |
| 上記以外 | 40 | 簡単なプレゼンを宿題として課す。 |

5分の1(3回）を超えて欠席した場合は、評価の対象としない

## 授業外学習

毎回の授業テーマを確認して作家の業績を書籍やウエブサイトで検索して確認しておくこと。そして、毎回提示された作品を再閲覧、確認すること。

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

特になし

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 日常にひそむ数理曲線 | 佐藤雅彦＋ユーフラテス | 小学館 | 978-4-09-480310-5 |
| 2 | 明和電機魚器図鑑 | 土佐正道　土佐信道 | NTT出版株式会社 | 4-87188-533-XC0076 |
| 3 | 眼の狩人 | 大竹昭子 | 新潮社 | 4-10-602401-2 |

映像DVDについて、授業で上映できないものがあるため、個人で閲覧を勧めるものがある。

## 前提学力等

ものごとをわかりやすく説明できる力があれば良い。

## 履修資格

| 講義名 | プレゼンテーション技法 | | | | | | | 担当教員 | 印南　比呂志／南　政宏 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402910 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 133LVD203 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | オリエンテーション・魅力あるわかりやすいプレゼンテーションと | グラッフィク、アニメーション、写真、映像、立体表現、音楽を駆使したプレゼンテーション技術を中心に現代のプロジェクションマッピングやモーショングラフィックまでを考える。 |
| 第2回 | デザイン、アート、パフォーマンスなどのメディア表現について | 佐藤雅彦の作品（ピタゴラスイッチ、日常にひそむ数理曲線、多くのCM表現）、明和電機の商品（ツクバシリーズ、NAKIシリーズ）のプレゼンテーション、パフォーマンス表現を中心に考える。 |
| 第3回 | アニメーションによる表現について・1 | 日本のアニメプロダクション（スタジオジブリ、プロダクションIG、STUDIO 4℃、マッドハウス、GAINAX、ロボットなど）の映画、TV、CM作品を中心に映像表現のスタイルを考える。 |
| 第4回 | アニメーションによる表現について・2 | 海外のアニメーション（ピクサーアニメーションスタジオ、ディズニー、ドリームワークスなど）の作品の歴史と世界戦略を考える。 |
| 第5回 | 実験映像による表現について<br>◎印南担当 | アニメーション技術の展開。ユーリ・ノルシュテイン、チャールズ・イームズ、ノーマン・マクラーレン、佐藤義尚、山村浩二、マイケル・デュドク・ドウ・ヴィット、ルネ・ラルーなどの作品を考え |
| 第6回 | 写真というメディアがもつ力と写真家という職能について | 報道、広告、建築、アートなど、専門特化した写真家の作品を考える。ロバート・キャパ、ユージン・スミス、岡村昭彦、アンリ・カルティエ・ブレッソン、ロバート・メイプルソープ、森山大道、植 |
| 第7回 | 映画のリアリズム表現について<br>◎印南担当 | ジョルジョ・メリエスによる創世記にはじまり、トーキーの時代から1930年代から1960年代の作品（チャールズ・チャップリン、フランク・キャプラ、小津安二郎、イタリアのネオレアレスモの作 |
| 第8回 | 環境グラフィックについて<br>◎印南担当 | サイン計画（廣村正彰、原研哉、GK）、色彩計画（ジャン・フィリップ・ランクロ）、シークエンスデザイン（韓亜由美）らの作品について考える。 |
| 第9回 | 書体について<br>◎南担当 | 書体やフォントについて活用術を学ぶ |
| 第10回 | モデル制作<br>◎南担当 | 各種モデルの作り方について実演する |
| 第11回 | 印刷データの作り方<br>◎南担当 | 印刷データの作り方を学ぶ |
| 第12回 | 建築でのプレゼン　コンセプト<br>◎南担当 | 建築系コンペを題材にプレゼンテーションを学ぶ |
| 第13回 | 道具でのプレゼン　コンセプト<br>◎南担当 | プロダクトやパッケージなどのコンペを題材にプレゼンテーションを学ぶ |
| 第14回 | 写真撮影術<br>◎南担当 | 写真撮影の方法やカメラ基礎について学ぶ |
| 第15回 | スライドプレゼンテーション<br>◎南担当 | 投影資料スライド資料を用いたプレゼンテーションについて |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| 後半は、基礎設計製図と関連してすすめるため、授業内容が前後することがある。 |

| 講義名 | マーケティングリサーチ演習 | | | | | | | 担当教員 | 山田　歩 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402999 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 233MKD381 | | | | | | | | |

## 授業概要

企業やブランドは私たち生活者と様々な方法でつながろうとしています。心に残るＣＭや、フォローしたくなるアカウント、また、思わず開封したくなるダイレクトメールは、どのような切り口をもとに作られているのでしょうか。企業やブランドと生活者の間で交わされるコミュニケーションをマーケティング・コミュニケーションと呼びますが、効果的にコミュニケーションを行うためには、生活者を深く理解し、生活者とブランドとの接点を発見し、それらを適切にコミュニケーションに落とし込む必要があります。この演習では、生活者理解と生活者とブランドとの接点を発見するためのリサーチを学びます。リサーチを企画・実施することを通して、生活者とブランドとの接点がどのようになされているかについて理解を深めます。

## 到達目標

マーケティングリサーチの考え方と手法を理解したか。また、それを応用できるか。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | 100 | 課題を適切に捉えているか。<br>発想にオリジナリティがあるか。<br>わかやすく、また、ロジカルに考えを表現できているか。 |
| 上記以外 | | |

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | マーケティングリサーチ演習 | | | | | | | 担当教員 | 山田　歩 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1402999 | 単位数 | 1 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 演習 | | |
| ナンバリング番号 | 233MKD381 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | ブラインド・テスト | 情報が商品評価に与える影響についてブラインドテストをもちいて検証する |
| 第2回 | ブラインド・テスト | 情報が商品評価に与える影響についてブラインドテストをもちいて検証する |
| 第3回 | ブラインド・テスト | 情報が商品評価に与える影響についてブラインドテストをもちいて検証する |
| 第4回 | ブラインド・テスト | 情報が商品評価に与える影響についてブラインドテストをもちいて検証する |
| 第5回 | 「生活者発想」による調査 | 博報堂が提唱する「生活者発想」にもとづく調査により、生活環境を見直す |
| 第6回 | 「生活者発想」による調査 | 博報堂が提唱する「生活者発想」にもとづく調査により、生活環境を見直す |
| 第7回 | 「生活者発想」による調査 | 博報堂が提唱する「生活者発想」にもとづく調査により、生活環境を見直す |
| 第8回 | 「生活者発想」による調査 | 博報堂が提唱する「生活者発想」にもとづく調査により、生活環境を見直す |
| 第9回 | 調査PR | ブランディングのための調査として「調査PR」タイプの調査を行う。 |
| 第10回 | 調査PR | ブランディングのための調査として「調査PR」タイプの調査を行う |
| 第11回 | 調査PR | ブランディングのための調査として「調査PR」タイプの調査を行う |
| 第12回 | 調査PR | ブランディングのための調査として「調査PR」タイプの調査を行う |
| 第13回 | 調査PR | ブランディングのための調査として「調査PR」タイプの調査を行う |
| 第14回 | 調査PR | ブランディングのための調査として「調査PR」タイプの調査を行う |
| 第15回 | 調査PR | ブランディングのための調査として「調査PR」タイプの調査を行う |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | マーケティング論 | | | | | | | 担当教員 | 山田　歩 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1403000 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 133MKD181,335LAH307 | | | | | | | | |

## 授業概要

どんなに優れた機能の製品でも、どんなに優れたデザインの製品でも、消費者に受け入れられヒットするとは限りません。ある製品が価値あるものとして消費者に受け入れられるためには、どんな製品を出すかを考えるだけでなく、どんな消費者を対象にするのかや、どんな価格で、また、どんな場所、広告を用いて売ればいいのかといったことまで考える必要があります。そして、商品としてヒットしたあとも、継続的にその商品が売れるように、消費者との持続的な関係を構築し、製品・サービスの価値を高める努力を続ける必要があります。
この授業では、こうした企業のマーケティング活動を学ぶことを通して、ビジネスに必要な分析能力や問題解決能力を身につけることを目標とします。

## 到達目標

企業のマーケティング活動を学ぶことを通して、ビジネスに必要な分析能力や問題解決能力を身につけることを目標とします。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | 50 | マーケティングの考え方を理解できたか |
| レポート課題 | 50 | 宣伝会議賞（25）<br>授業課題（25） |
| 上記以外 | | |

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 1からのマーケティング 第3版 | 石井淳蔵・廣田章光 | 碩学舎 | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | マーケティング論 | | | | | | | 担当教員 | 山田　歩 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1403000 | 単位数 | 2 | 開講期 | 後期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | 133MKD181,335LAH307 | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | オリエンテーション | マーケティングの考え方についての概説 |
| 第2回 | マーケティングの基本概念① | ＳＴＰについての説明 |
| 第3回 | マーケティングの基本概念② | マーケティング・ミックスについての説明 |
| 第4回 | 製品のマネジメント | プロダクトについての説明 |
| 第5回 | 広告のマネジメント１ | プロモーションついての説明 |
| 第6回 | 広告のマネジメント２ | 演習（宣伝会議賞） |
| 第7回 | 広告のマネジメント３ | 演習（宣伝会議賞） |
| 第8回 | 価格のマネジメント | プライスについての説明 |
| 第9回 | 特別講義 | マーケティング実務にかかわる専門家による講義（日程の変更あり） |
| 第10回 | チャネルのマネジメント | プレイスについての説明 |
| 第11回 | ブランドのマネジメント | ブランド戦略についての説明 |
| 第12回 | 消費者行動とマーケティング | 消費者行動とマーケティングの接点についての説明 |
| 第13回 | マーケティングリサーチ | マーケティングにリサーチがどのように必要になるのかについての説明 |
| 第14回 | コンシューマー・インサイト | インサイト起点のマーケティングについて |
| 第15回 | まとめ | 総括 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 保育学 | | | | | | | 担当教員 | 吉村　啓子※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1600443 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期集中 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | | | | | | | | | |

## 授業概要

「保育」と似た言葉に「育児」という言葉がある。一般的に子どもを育てることは「育児」と言われるが、ここで言う「子ども」とは乳幼児期の子どもであり、「育児」とは乳幼児を育てることを意味し、家庭において多くの場合、母親がその役割を担うものとされている。それに対して「保育」は、家庭の育児を補う場で行われる育児をさしている。現在の日本において乳幼児期の子どもが通う場は、保育所、幼稚園、認定こども園の3種類である。それぞれ所轄する官庁が保育所は厚生労働省、幼稚園は文部科学省、認定こども園は厚生労働省と文部科学省の両省であり、保育所は子守的な機関、幼稚園は教育機関、認定こども園がその中間として考えられ、「保育」は「教育」と対立的な概念とみなされる傾向にあった。しかし、『保育所保育指針』に保育所は「養護」と「教育」を一体的に行うものと定義されているように、「保育」は「教育」と対立する概念ではなく、「乳幼児期の発達を保障するための教育」と考えられる。つまり、「保育学」とは「乳幼児期の発達保障に資するための学問」なのである。
本授業においては、次の3点を取り上げる。第一に乳幼児期の発達、第二に保育の歴史と制度、最後に保育内容と保育方法の3点である。
第一の乳幼児期の発達についてであるが、保育の対象である子どもたちの発達的な変化は人の一生の中で最も大きいものである。その様相を把握していなければ、必要な時期に必要な保育ができない。この授業を通して、子どもの身体的発達、情緒的発達、認知的発達などの知識を身に着けることを目的としている。
第二の保育の歴史と制度であるが、保育の思想や制度の変化などを通して保育環境の問題点を理解することを目的としている。
最後の保育内容と保育方法であるが、子どもを保育するにあたって知っておくべき保育教材や保育の方法について学ぶことを目的としている。

## 到達目標

（１）乳幼児期の発達についてであるが、保育の対象である子どもたちの発達的な変化は人の一生の中で最も大きいものである。その様相を把握していなければ、必要な時期に必要な保育ができない。この授業を通して、子どもの身体的発達、情緒的発達、認知的発達などの知識を身に着けることを目的としている。
（２）保育の歴史と制度であるが、保育の思想や制度の変化などを通して保育環境の問題点を理解することを目的としている。
（３）保育内容と保育方法であるが、子どもを保育するにあたって知っておくべき保育教材や保育の方法について学ぶことを目的としている。

この授業を通して、家庭科教師としてどのような授業内容を展開することが中・高校生にとって意義のあることなのかを考えて欲しい。

## 成績評価

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | | |
| レポート課題 | ５０ | |
| 上記以外 | ５０ | |

## 授業外学習

## 教科書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 保育所保育指針 | | フレーベル館 | 978-4-577-81241-9 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 参考書

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

## 前提学力等

## 履修資格

| 講義名 | 保育学 | | | | | | | 担当教員 | 吉村　啓子※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1600443 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期集中 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | オリエンテーション | 本授業についてのねらいや目的、予定（シラバス参照）について解説し、15回の授業の見通しを立てることを第一の課題とする。次に「保育学」をはどのような学問であるのか理解することを目的と |
| 第2回 | 発達観 | 保育するものがどのような発達観をもっているかにより、子供の見方が異なり、保育の仕方が変わってくる。子どもを一人の人間として育てるには、子どもの「育つ力」を理解し、その発達を援助 |
| 第3回 | 胎児と新生児の発達 | 授業の内容は３点ある。まず胎児期の発達である。人は胎児期にも発達し誕生する。その過程の理解はその後の発達を考える上で大変重要である。次に新生児期の身体的特徴である。成熟した新生児 |
| 第4回 | 乳幼児期の身体発達 | 乳幼児期の発達について３つの視点から概説する。まず身体の発達である。出生から成人までの発育の仕方は臓器によって異なり、その様相を説明する。次に生理的特徴である。最後に発達の評価で |
| 第5回 | 乳幼児期の運動発達と欲求 | ２つのテーマで授業を行う。まず、乳幼児期の運動発達である。子どもは一年の間に、歩き、物をつまめるようになる。その変化について詳細にみる。次に欲求である。欲求の充足は子どもが健康に |
| 第6回 | 人間関係の中で育つもの | 他者の存在の意義を考えていく。その視点は、情緒の発達、言葉の発達、愛着の発達の３点である。 |
| 第7回 | 発達の個別性と保育 | 発達の方向性と順序性には個人差はないが、その速さは人によって違っている。平均的な発達を知っておくことはではあるが、それにとらわれすぎ、「〇〇才だからこうあるべきだ」という考え |
| 第8回 | 保育に関わる法律や制度 | 児童に関する法律には児童福祉法・母子および寡婦福祉法・母子保健法・児童手当法・児童扶養手当法、児童虐待防止法などがある。それらについて簡単な説明を行う。また、児童福祉のための機関 |
| 第9回 | 保育の思想、歴史ー諸外国について | 現代の保育にも大きな影響を与えていると考えられるルソー、ペスタロッチ、フレーベル、モンテソーリーらの思想を知ることにより、「子ども観」　について考える。 |
| 第10回 | 保育の思想、歴史ー日本について | 現在、乳幼児期の子どもが通うところは、保育所、認定こども園、幼稚園の３種類である。その成立の歴史を見るとこの３つに分かれていることの意味が見えてくる。日本の保育史を紹介する。 |
| 第11回 | 保育の内容 | 保育内容は「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」によると、健康、人間関係、環境、言葉、表現の５つの領域からなっている。その各領域について簡単に説明し、小学校教育との接続について考 |
| 第12回 | 保育技術―手遊び,紙芝居、絵本― | 保育の中でよく使われる「手あそび」を学ぶ。また、保育教材としての紙芝居や絵本の読み方や子どもへの与え方の解説を行う。 |
| 第13回 | 現場実習 | 現場での実習を通して保育を学ぶ。 |
| 第14回 | 現場実習 | 現場での実習を通して保育を学ぶ。 |
| 第15回 | 現場実習 | 現場での実習を通して保育を学ぶ。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |

| 講義名 | 生活工学 | | | | | | | 担当教員 | 堀江　健二郎※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1600471 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | | | | | | | | | |

**授業概要**

家庭には多種・多様な電化製品が使用されています。また、自家用車をはじめとする機械製品も生活にはなくてはならないものとなっています。電気の分野においては、オール電化やＩＨ調理機器などの技術開発やソーラー発電などによる省エネルギー開発が進んでいます。機械の分野においてもハイブリッド車や電気自動車さらには電動アシスト自転車等環境への配慮および生活を便利に、より快適にする製品が生活の中に入り込んでいます。さらには、スマートフォンやタブレット端末の普及により情報化社会も急速に進化しています。このような、生活を便利に快適にする機器や製品の基礎知識を習得し、安全に正しい使用法を学ぶとともに、電機・機械・情報の各分野の基礎的知識と技術を学びます。

**到達目標**

家庭生活で使用されている機械や電気機器の仕組みを学び、常に安全に配慮した活用方法を身に着けさせ、知識と理解を深めさせる。

**成績評価**

| 種別 | 割合(%) | 評価基準等 |
|---|---|---|
| 定期試験 | ４０ | 実施する。 |
| レポート課題 | ４０ | 適宜、課題レポートを作成し提出する。 |
| 上記以外 | ２０ | グループワーク、発表。 |

課題レポートの未提出者は、評価対象としない。

**授業外学習**

**教科書**

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

必要に応じて、授業開始前あるいは、事前に講義資料を配布する。

**参考書**

| No | 書籍名 | 著者名 | 出版社 | ISBN/ISSN |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

**前提学力等**

**履修資格**

| 講義名 | 生活工学 | | | | | | | 担当教員 | 堀江　健二郎※ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講義コード | 1600471 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 授業種別 | 講義 | | |
| ナンバリング番号 | | | | | | | | | |

| 授業計画 | | |
|---|---|---|
| 回数 | タイトル | 概要 |
| 第1回 | はじめに・本講義内容のガイダンス | ①家庭生活における身近な電気・機械にかかわる生活工学全般について興味・関心を持たせる。<br>②講義の展開方法と目標について解説する。 |
| 第2回 | 機械の基礎（１） | 機械の定義と歴史、機械の運動伝達および機械の要素(ねじ、ばね等)についての解説し、機械の基本を考えさせる。 |
| 第3回 | 機械の基礎（２） | 機械材料と力学の基礎を解説し、機械要素の強度について考えさせる。 |
| 第4回 | 機械の基礎（３） | 機械とエネルギーと家庭用燃焼器具についての解説し、熱エネルギーについて考えさせる。 |
| 第5回 | 機械の基礎（４） | 家庭用ミシンおよび自家用車の基礎的な機構・構造などについて解説する。 |
| 第6回 | 機械の基礎（５） | 自動車エンジンと自動車の構造について解説し、自動車のメンテナンスや正しい取り扱いについて考えさせる。 |
| 第7回 | 電気の基礎（１） | 電気自動車とハイブリッド車およびこれからのエネルギーと環境について解説し、それらのテーマで討論をとおして考えを深める。（グループワークの活用・レポート提出） |
| 第8回 | 電気の基礎（２） | 電気エネルギーの発生と変換、電気の動力への変換と利用について解説する。 |
| 第9回 | 電気の基礎（３） | 電気の熱への変換と利用と電気の光への変換について解説する。 |
| 第10回 | 電気の基礎（４） | 電子機器の構造および屋内配線について解説する。 |
| 第11回 | 電気の基礎（５） | 我が国エネルギー事情と対策について解説し、今後の電気エネルギーについて討論をとおして考えを深める。(グループワークの活用・レポート提出） |
| 第12回 | 情報機器の基礎 | コンピュータの機能と操作および２進数・１０進数と１６進数および論理回路について解説する。 |
| 第13回 | 情報技術とモラル | 高度情報化社会の光と影について解説し、討論をとおして考えを深める。（グループワークの活用・レポート提出） |
| 第14回 | バイオミミクリーと生活 | 自然界に学ぶものづくりについて解説し、自己の考えをまとめる。（グループワークの活用・レポート提出） |
| 第15回 | 講義のまとめ | 本講義のまとめと今後の豊かな生活について、レポートまたは小論文により考えをまとめる。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 担当者から一言 |
|---|
| |